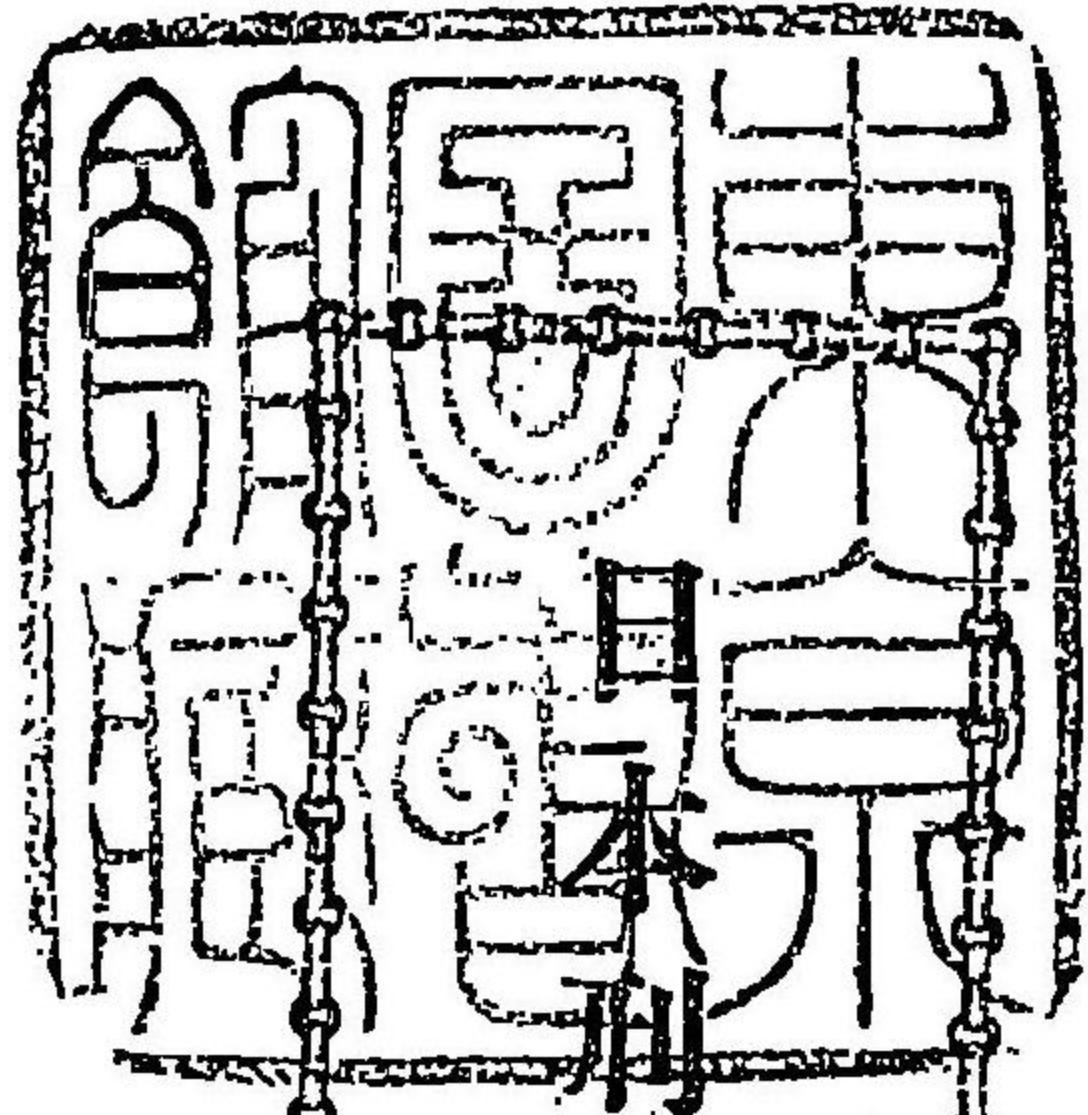


法學士 江木 衷 講述



法(各論之部)

(完)

發行所 東京法學院



日本刑法(各論之部)

目次

緒論

第一篇 私人ニ對スル罪

第一章 生命ニ對スル罪

第一節 謀故殺ノ罪

第二節 自殺ニ關スル罪

第三節 過失殺

第四節 墮胎罪

第二章 身体ニ對スル罪

第一節 毆打創傷ノ罪

第二節 人ヲ疾苦セシムル罪

第三章 自由ニ對スル罪

一丁

一七丁

全丁

四四丁

五四丁

五七丁

五八丁

六二丁

六三丁

七〇丁

七二丁

日本刑法(各論之部)目次

第一節	強迫ノ罪	七二丁
第二節	逮捕監禁ノ罪	七五丁
第三節	幼者老疾者ヲ遺棄スル罪	八〇丁
第四節	畧取誘拐ノ罪	八二丁
第四章	名譽ニ對スル罪	八六丁
第五章	祖父母父母ニ對スル罪	九一丁
第一節	祖父母父母ニ對スル通常罪	全丁
第二節	子孫奉養ヲ欠クノ罪	全丁
第六章	財産ニ對スル罪	九二丁
第一節	竊盜ノ罪	全丁
第二節	受寄財産費消罪	一一三丁
第三節	強盜ノ罪	一二〇丁
第四節	詐欺取財ノ罪	一二四丁
第五節	家資分散ニ關スル罪	一三六丁

第六節	贓物ニ關スル罪	一四〇丁
第七節	遺失物及埋藏物ニ關スル罪	一四四丁
第八節	財産毀損ノ罪	一五二丁
第二篇	社會ニ對スル罪	一五八丁
第一章	社會ノ靜謐ヲ害スル罪	全丁
第一節	兇徒聚衆ノ罪	全丁
第二節	家宅侵入ノ罪	二六三丁
第二章	社會ノ危難ヲ醸生スル罪	一七〇丁
第一節	放火失火ノ罪	全丁
第二節	決水ノ罪	二七八丁
第三節	船舶ヲ覆没スル罪	一八〇丁
第四節	社會ノ健康ヲ害スル罪	一八一丁
第五節	往來通信ヲ妨害スル罪	一八四丁
第三章	商業及農工ノ業ヲ妨害ス	

ル罪

一八八丁

第四章 公務ヲ行フコトヲ拒ム罪

一九〇丁

第五章 公ケノ信用ヲ害スル罪

一九二丁

第二節 貨幣ヲ偽造スル罪

全丁

第二節 文書偽造ノ罪

三〇四丁

第三節 印章偽造ノ罪

二一三丁

第四節 免狀鑑札及疾病證書ヲ偽造スル罪

二二六丁

第五節 度量衡ヲ偽造スル罪

二二八丁

第六節 身分ヲ詐稱スル罪

三一九丁

第六章 風俗道義ヲ紊亂スル罪

三二二丁

第一節 偽證ノ罪

全丁

第二節 誣告ノ罪

三三七丁

第三節 賭博犯及富籤興行ノ罪

三三〇丁

第四節 猥褻姦淫重婚ノ罪

三三三丁

第七章 宗教ニ關スル罪

二四二丁

第一節 宗教ヲ蔑如スル罪

全丁

第二節 死屍ノ毀棄及ヒ墳墓發掘ノ罪

二四三丁

第三篇 皇室ニ對スル罪

二四六丁

總說

全丁

第一章 皇室ニ對スル國事犯

二四八丁

第二章 皇室ニ對スル常事犯

二五二丁

第四篇 國家ニ對スル罪

三五二丁

第一章 國事犯

全丁

第二節 國事犯一般ノ性質

全丁

第二節 内乱ニ關スル罪

二五六丁

第三節 外患ニ關スル罪

二六七丁

第二章 外國ニ對スル罪

二六九丁

第三章 官權ノ執行ニ抗スル罪

二七二丁

第一節	官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪	二七二丁
第二節	囚徒逃走ニ關スル罪	二七七丁
第三節	罪人藏匿ニ關スル罪	二八一丁
第四節	附加刑ノ執行ヲ逃ル、罪	二八四丁
第五節	官ノ封印ヲ破毀スルノ罪	二八六丁
第四章	政權ノ執行ニ抗拒スル罪	二八七丁
第一節	立法議會ノ議事ヲ妨害スル罪	全丁
第二節	公撰ノ投票ヲ偽ハル罪	二八八丁
第五章	官吏瀆職ノ罪	二九〇丁
總說		全丁
第一節	官吏公益ヲ害スル罪	二九三丁
第二節	官吏人民ニ對スル罪	二九五丁
第三節	官吏財産ニ對スル罪	三〇二丁
第五篇	違警罪	三〇三丁

六

總說		三〇三丁
第一章	刑典ニ於テ認メタル各種ノ 違警罪	三〇七丁
第二章	刑典以外ノ違警罪	三一丁

八九

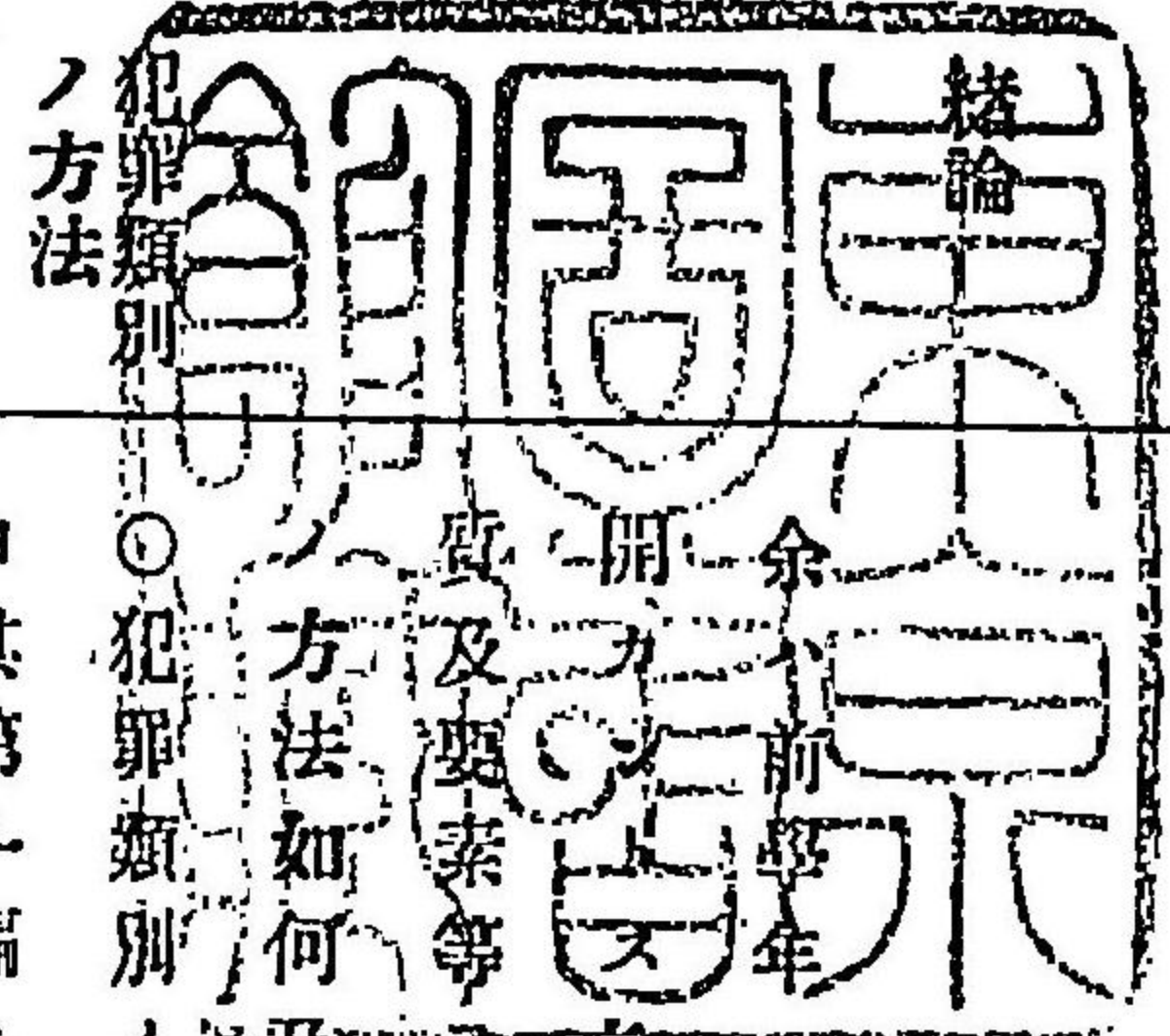
日本刑法(各論之部)目次終

日本刑法(各論之部)目次

七

日本刑法(各論之部)

法學士 江木 衷講義  
卒業生 窪田欽太郎編輯



緒論

余、前學年ニ於テ日本刑法ノ汎論ヲ講述シタレハ今ヤ諸子ニ向テ各論ノ講筵ヲ  
開キ、**緒論**トハ現行刑法第二篇以下ニ規定セル各種ノ犯罪ニ付キ其性  
質及要素等ヲ講究スルノ學ナリ而シテ其本論ニ入ルノ前ニ於テ犯罪ヲ類別スル  
方法如何及ヒ犯罪區別ノ法ヲ説カン

犯罪類別ノ方法

○犯罪類別ノ方法(Classification of Crimes) 諸子試ミニ我刑法ヲ繙テ之ヲ通讀セラレ  
ヨ其第一編ニハ法例ナル項目ヲ掲ケテ刑典全般ニ通スル總則ヲ規定セリ是即余  
カ前學年諸子ニ向テ講述シタル汎論ニ於テ宣明セル所ナリ次テ其第二編ニハ公  
益ニ關スル重罪輕罪ト題シ第三編ニハ身體財產ニ對スル重罪輕罪ト題シ第四編  
ニ至リテ違警罪ノ一目ヲ規定セリ而シテ此第二編以下第四編ニ至ルノ罪目ハ余

日本刑法(各論之部)

カ今ヨリ各論ニ於テ講究セント欲スル所ノ各種ノ犯罪ニ付キテ我卓識經驗アル  
立法官ノ採用セラレタル類別法ナリト雖モ余ノ非才淺學ナル敢テ我立法官ノ果  
シテ如何ナル理由ニヨリ如何ナル學理ニ基キテ此ノ如キ類別ヲナセルモノナル  
ヤヲ推知スル能ハサルヲ憾ムノミ尤モ其第四編ニ於テ違警罪ノ一目ヲ規定セル  
カ如キニ至リテハ決シテ學理上ノ理由アルニアラスシテ唯我立法官ハ便宜上暫  
ク之ヲ刑法中ニ排置セルニ過キサルヘシ我刑法上ノ類別既ニ此ノ如シト雖モ未  
タ是ヲ以テ學理ニ適中シタル類別ナリト云フヲ得ス試ミニ我刑法ノ所謂公益ニ  
關スル罪ト身體財産ニ對スル罪トヲ取テ之ヲ學理上ノ類別法ニ照徴對比スルト  
キハ即チ公罪ト私罪トノ類別ニ配對スルモノト云フヘシ而シテ此公罪私罪ノ類  
別ハ元ト果シテ如何ナル理論ニ基キテ起リ如何ナル沿革ヲ經過シ來リタルモノ  
ナルヤヲ探討スルニ振古以來我國ニ在リテハ未タ會テ犯罪ヲ別チテ公罪私罪ノ  
二種トナセルノ事蹟ナキヲ以テ察スレハ惟フニ是亦我國法律ノ母國タル佛國刑  
典ヨリ傳承シ來リタルモノナリト言フモ蓋シ斷定ヲ誤リタルモノニアラサルヘ  
シ故ニ此類別ニ關スル佛國法律ノ沿革ヲ探究シ得ルトキハ我刑法上公罪私罪ノ

類別ニ關スル理論ノ沿革ハ究メスシテ而シテ自カラ亮然タラン抑モ古昔羅馬ノ  
法律ニ於テハ犯罪ヲ別チテ公罪私罪ノ二種トナセシカ此類別一遷シテ佛國刑法  
ノ類別法トナリ再遷シテ日本刑法ノ類別法トナルニ終レリ夫レ然リ然ラハ即チ  
古昔羅馬ノ法律ニ於テ公罪私罪トハ果シテ如何ナルモノナリシヤハ宜ク探究  
セサルヘカラサルノ問題ナルヘシ余請フ少シク之ヲ述ヘン元來羅馬法上公罪ト  
ハ國家ニ對スル罪及宗教ニ對スル罪ノ二種ニシテ私罪トハ民人各個ノ私權利ヲ  
傷害スル罪ナリトス故ニ若シ宗教ニ對スル罪ヲ除キテハ羅馬法上所謂犯罪ナル  
モノハ單ニ國家ニ對スル罪ト一私人ニ對スル罪トノ外又他ニ之ナカリシナリ即  
チ之ヲ別言スレハ古昔羅馬ノ世界ニ於テハ唯夫レ國家ト一私人トノ二思想ノ外  
又他ノ思想アラザリシヲ知ルヘシ  
然レトモ此ノ如キハ固ヨリ古昔ノ狀態ノミ其後世運漸ク開ケ人事益々頻繁ヲ加  
フルニ從ヒ公罪私罪ノ類別モ亦タ隨テ不都合ヲ生シ遂ニ今日ノ如ク世運ノ開發  
極ニ近ツキ人事ノ頻繁殆ント名狀スヘカラサルニ及ヒテハ吾人々世ノ犯罪總合  
一括悉ク之ヲ公罪私罪ノ二種ニ網羅類別スル能ハス古昔羅馬ノ立法官ハ夢裡ニ

タモ想像スルコト能ハサリシカ如キ犯罪ノ増加シ來リタルカ爲メニ今時ノ立法官タルモノ大ニ其類別ニ困ミ頗ル牽強附會ノ類別ヲ爲スノ已ムヲ得サルニ至レリ夫レ此ノ如ク世運ノ開發人文ノ進歩ト共ニ犯罪モ又其種類ヲ増加シ公罪私罪ノ類別中ニ總合一括スルコトヲ得サル異種異様ノ犯罪ヲ生シ或ハ其所業ハ一ニシテ而シテ其罪質ノ全ク相異ナルモノアルニ至レリ例ヘハ佛國ノ刑法ニハ鐵道電信等ニ關スル規律ナシト雖モ既ニ今日ノ如ク鐵路八隅ニ延通シ電線蛛絲ヲ擬スルニ及ンテハ若シ其鐵路ニ危害物ヲ置キ或ハ電線ヲ切斷スルカ如キモノアラハ必スヤ之レヲ處斷スルノ法規莫カルヘカラス然レトモ此等ノ所業ハ果シテ一私人ノ私權利ヲ傷害スルモノナル乎將タ又國家ニ對スルモノナル乎鐵路ニ危害物ヲ置クノ所爲ハ敢テ一私人ノ私權利ヲ傷害スルモノニアラス豈ニ焉ンソ私罪トナスヲ得ンヤ電線ヲ切斷スルノ所業ハ決シテ國家ニ對スルモノニアラス豈ニ夫レ公罪トナス可ケンヤ公罪私罪ノ類別ハ到底此等ノ所業ヲ包羅スルノ餘地ナキモノト云フヘシ故ニ犯罪類別ノ方法ハ世運ノ開發人文ノ進歩ニ伴フテ其方法ヲ革メサルヘカラス近頃英國ニ於テ電氣燈條例ナルモノヲ布告セリト聞シカ是又

公罪ノ類別中ニ包含セシムヘキモノニアラサルナリ凡ソ所業ハ同一ナリト雖モ世運ノ開發及人文ノ進歩ト同時ニ變シテ其罪質ヲ更改シ公罪及私罪ノ類別中ニ其位地ヲ占ムルコト能ハサルニ至レル者アリ換言スレハ疇昔ハ一個人ノ私權利ヲ傷害スル私罪ナリトセル者モ現今ハ之ヲ以テ私罪ト認ムルコト能ハサル者ナキニアラス例ヘハ夫ノ放火罪ノ如キ即チ是レナリ若シ夫レ酒屋エハ三里豆腐屋エ四里テウ寒村僻陬ノ一軒家ニ在リテハ縱令之ヲ燒燬スルモノアルモ是唯一私人ノ財産ヲ毀損スルニ止マルヲ以テ即チ財産毀損罪トナスコトヲ得ヘキモ人家稠密兩隣牆壁ヲ共ニスルノ都府ニ於テハ決シテ之ヲ一私人ニ對スル財産毀損罪トスルコトヲ得サルナリ然ルニ古昔ハ各家屋孤立シ兩隣丁ヲ隔ツルカ如キ情態ナリシカ故ニ放火罪ノ如キハ之ヲ一私人ニ對スルノ罪ト爲シ夫ノ自己ノ家屋ヲ燒燬スルモノニ至リテハ全然之レヲ不問ニ附シ去リシカ現今人家櫛比兩隣其壁ヲ密接スルカ如キ有様トナルニ及ヒ放火罪ノ如キハ勿論夫ノ自己ノ家屋ヲ燒燬スルモノト雖モ亦全ク往昔ノ觀察ヲ用ヰス即チ單ニ私有財産ノ點ヨリ觀察スルコトヲ止メ更ニ社會公共ノ安寧ヨリ觀察ヲ下シ之ヲ



目シテ一人ニ對スルノ私罪ニアラス又國家ニ對スルノ公罪ニモアラストシ新  
タニ之ヲ社會公共ニ對スルノ罪ナリトスルニ至レリ  
故ニ現今ニ在テハ學理上ヨリ犯罪ヲ分テ國家ニ對スル罪社會公共ニ對スル罪及  
私人ニ對スル罪ノ三種トセリ而シテ近世歐米ノ學者多クハ皆此類別法ニ據リテ  
刑法ヲ論定スルモノ、如シト雖モ我刑法ニ至テハ則チ然ラズ依然舊套ヲ墨  
守シテ公罪及私罪ノ類別法ヲ襲踏セラレタリ是蓋前述セルカ如ク我刑法ハ其源  
ヲ佛國刑典ニ酌ミ佛國刑典ハ又其源ヲ羅馬古昔ノ刑法ヨリ承繼シ來リタルモノ  
ナルヲ以テ結局我立法官ハ近世法理ノ贊同スル所ノ新類別ヲ棄テ、現今學者ノ  
採用セサル舊類別ヲ襲踏シテ毫モ顧ミサルモノト云ハサルヘカラス若シ夫レ我  
カ刑法ノ如ク犯罪ヲ二種ニ類別スルコト、センカ其不便不都合ナルコト素ヨリ  
論ヲ俟タス其極遂ニ率強附會學理ニ背反スル所ノ類別ヲ爲サ、ルヘカラサルニ  
至ラン然ラハ我立法官ハ如何ナル技能ヲ盡シ如何ナル立法術ニ據リテ能ク此千  
萬無量ノ罪犯ヲ總合一括シ之ヲ其二種類中ニ包含セシメタルヤヲ觀察スルニ其  
手際ノ巧妙ナル實ニ吾人ノ驚嘆ニ堪ヘサルモノアリ請フ試ミニ二三ノ著明ナル

例證ヲ掲ケテ之ヲ諸君ニ示スヘシ

我卓識經驗アル立法官ハ放火罪及失火罪ヲ規定スルニ方リテハ漫ニ羅馬古代ノ  
思想ヨリシテ考察ヲ下シ毫モ社會公共ノ安寧ヨリ觀察スヘキ者ナルコトヲ悟リ  
セス之ヲ財産ニ對スルノ罪ニ列シテ顧ミス又其最モ甚シキモノニ至リテハ吾人  
ノ生命身體自由及名譽ヲ混淆同一視シテ之ヲ區別スルコトヲ忘却シタルモノ、  
如シ看ヨ我刑法第三編第一章ニ於テハ明カニ身體ニ對スル罪ト題セルニモ拘ハ  
ラス其第一節ニ於テハ謀殺及故殺ノ罪ヲ規定セルニアラスヤ然レトモ謀殺及故  
殺ノ罪タルヤ吾人ノ身體ニ對シテハ亦何等ノ關係ヲモ有スルモノニアラスシテ  
單ニ吾人ノ生命ヲ奪フ所ノ所爲ニヨリテ成立スルモノナリ然ラハ我立法者ハ實  
ニ吾人ノ生命ト身體トヲ混同シタルモノト云ハサルヲ得ス不當モ亦甚シト謂ハ  
サルヘカラサルナリ又其第六節及第七節等ニ於テハ監禁罪及脅迫罪ノ如キ唯々  
ニ吾人ノ自由ニ對スル罪ヲ規定シ毆打罪ト等シク身體ニ對スル所ノ罪類中ニ包  
含セシメ又其第十二節ニ至リテハ誹毀罪ノ如キ吾人ノ無形的名譽ニ對スル罪ヲ  
規定シ人ヲ疾苦セシムルノ罪ト共ニ同類中ニ列セシメタルカ如キ是實ニ無形ノ

名譽ヲ以テ有形ノ身體ト同一視シタルモノニ外ナラスシテ抑モ又謬妄ノ甚シキモノナリ

以上例證シタル所ニヨリ諸君ハ既ニ我立法者ノ技術如何ヲ知了セラレタルヘシト信スト雖モ余ハ尙ホ我立法官ノ爲シタル古今未曾有ノ一大混淆ヲ示サ、ルヲ得ス即チ我立法官カ風俗道義ヲ紊亂スルノ罪ヲ取テ之ヲ身體ニ對スル罪類中ニ包含セシメタルコト是ナリ看ヨ刑法第三編第一章ニ於テハ身體ニ對スル罪ト題セルニモ拘ハラス其第十一節ニ至リテ猥褻姦淫重婚ノ罪ヲ規定セルニアラスヤ余惟フニ我立法官ハ此等ノ罪ニ關シ有形的ノ觀察ヲ下シテ身體ニ對スルノ罪ナリト速斷シ毆打罪ト共ニ其列ヲ同フセシメタル者ナルヘシ然レトモ猥褻姦淫重婚ノ罪タルヤ其本性素ヨリ風俗道義ヲ紊亂スル所ノ犯罪ニシテ決シテ身體ニ對スルモノニハアラサルナリ例ヘハ重婚罪ノ如キ茲ニ乙ナル既婚婦アリ甲者ノ容貌優美ナルヲ戀慕シ先夫ニ對スル關係ノ未タ解除セサルニモ拘ハラス甲者ト共ニ偕老同穴ノ契ヲナシタリトセンニ此場合ニ於テハ縱令未タ其住居ヲ同フセス又姦ヲ俱ニスルノ娛ヲナサスト雖モ刑法上重婚罪タルコトヲ免レサルヘシ而シ

テ重婚果シテ何ノ身體ニ觸ルハ所カアル然ルニ我立法官ハ之ヲシモ尙ホ且ツ身體ニ對スル罪ナリトシテ毫モ疑ハス我立法官ノ類別方法ノ異様モ又爰ニ至テ極マレリト謂ツヘシ

夫レ斯ノ如ク理論上ヨリ日本刑法ノ犯罪類別法ヲ批評シ來レハ錯繆紛雜殆ント名狀スヘカラサルモノナルカ故ニ余ノ各論ヲ講述スルニ當リテハ到底日本刑法ノ類別法ニ從フコト能ハス專ラ學理上ノ類別法ニヨルヘシト雖モ其細項目ニ至ルマテ盡ク學理ニ據ルカ如キコトアラハ却テ諸君ノ了解ヲ妨害スルノ恐レアルカ故ニ其細項細目ニ付テハ暫ク學理上ノ類別ヲ離レ專ラ日本刑法ノ類別ニ從フコト、ナスヘシ

抑モ學理上ノ類別法ニヨレハ犯罪ハ之ヲ分テ國家社會及私人ニ對スル三種トナスヲ適當トスレハ違警罪モ亦其類別中ニ加ヘサル可ラスト雖モ余ハ便宜上之ヲ別種ノ罪トナシ又夫ノ皇室ニ對スル罪ニハ國事犯ニ屬スルモノト常事犯ニ屬スルモノトノ二種アリテ學理上ヨリ論スルトキハ素ヨリ之ヲ別種ノ罪トナスヘキモノニアラスト雖モ余ハ又之ヲモ別種ノ罪トナシ總般ノ犯罪ヲ類別シテ之ヲ五

皇室ニ對スル罪

種トナスヘシ即チ皇室ニ對スル罪國家ニ對スル罪社會ニ對スル罪私人ニ對スル罪及違警罪是ナリ今左ニ其類別ノ要點ヲ示スヘシ  
(第一) 皇室ニ對スル罪 皇室ニ對スル罪ハ特ニ之ヲ別罪トナスコトヲ要セス國家ニ對スル罪及私人ニ對スル罪等ノ類別中ニ排置スルゴトヲ得ヘシト雖モ我刑法ハ皇室ニ對スル國事犯ト常事犯トヲ混同シテ敢テ之カ區別ヲ設ケス錯綜紛雜極リナキヲ以テ余ハ便宜上之ヲ一種ノ別罪トナセリ然レトモ余ハ敢テ古代學者カ之ヲ以テ特別罪トナシタル陳腐說ノ論法ヲ襲踏シタルモノニハアラサルナリ

國家ニ對スル罪

(第二) 國家ニ對スル罪 國家ニ對スル罪ハ夫ノ一個人タル國家カ犯罪ノ物体タルヘキ場合ヲ包括スルモノナリ即チ(一)國事犯内亂及外患ニ關スル罪(二)外國ニ對スル罪(三)官權ノ執行ニ抵抗スル罪(官吏ノ職務ヲ妨害スル罪)官ノ封印ヲ破棄スル罪囚徒逃走ノ罪及附加刑ノ執行ヲ逃ル、罪(四)政權ノ執行ニ抗スル罪(公選ノ投票ヲ偽造スル罪)(五)官吏濫職罪並ニ第七十七條ノ五種ハ國家ニ對スル罪ノ類別中ニ排列スヘキモノナリ

社會ニ對スル罪

(第三) 社會ニ對スル罪 社會ニ對スル罪ハ社會公共ノ安寧幸福ヲ傷害スル諸般ノ犯罪ヲ包括スレトモ社會ハ敢テ一個人タル資格ヲ以テ自ラ被害者トナルヘキモノニアラス何トナレハ社會ナルモノハ法理上決シテ一個人タル性質ヲ有スルモノニアラサレハナリ抑モ社會ナルモノハ國家ト均シク一個ノ團體タルヤ素ヨリ明カナリト雖モ二者ノ間其性質ノ相異ナル實ニ涇渭ノ差アリトス即チ社會ハ天然ニ成リ國家ハ人爲ニ成ルモノニシテ國家ハ法理上一個人タル性質ヲ有スルモノナレトモ社會ハ決シテ一個人タル性質アルモノニアラス單ニ同一ノ利益ヲ有スルモノ、集合タルニ過キサレナリ且ツ夫レ社會ト國家トハ常ニ其範圍ヲ同フスルモノニアラス國家ハ必スヤ一定ノ境域ヲ有スヘキモノナレトモ社會ハ決シテ一定ノ境域アルモノニアラス即チ一國家ノ中數多ノ社會ノ存在スルアリ一社會ノ中亦幾多ノ國家ノ存在スルコトアリ例ヘハ一國ノ中ニ於テモ或ハ書生社會ト云ヒ或ハ商人社會ト云ヒ或ハ又官吏社會ト云フカ如キ其他幾多ノ社會ヲ認ムルコトヲ得ヘク又夫ノ歐洲社會ト稱スルトキハ其一社會ノ中或ハ佛蘭西或ハ獨逸或ハ伊太利或ハ

魯西亞等數多ノ國家ノ包含セラル、コトヲ知ルヘシ然レトモ余ハ未タ曾テ歐洲社會ト云ヒ或ハ書生社會ト云ヘル一個無形ノ人アルコトヲ認ムルモノアルコトヲ聞カサルナリ要スルニ國家ト社會トハ法理上全ク其性質ヲ異ニスルモノニシテ其之ヲ區別スルノ標準ハ一個人タル性質ヲ有スルト否トニアリトス夫レ然リ社會ハ一個人タル性質ヲ有スルモノニアラストセハ社會自ラ犯罪ノ物体タルコトヲ得サルヤ亦敢テ論ヲ俟タサルナリ果シテ然ラハ社會ニ對スル犯罪ハ如何ナル權利ヲ傷害スルモノナルヤヲ討究スルニ之カ直接ノ被害者タルモノハ多クハ皆ナ一個人ニシテ時ニ或ハ直接ノ被害者ナキモノアルヲ看ルナリ

社會ニ對スル罪ノ性質既ニ斯ノ如シ故ニ今我刑法中此類別ニ排置スヘキ犯罪ノ種類ヲ舉クレハ(一)社會ノ靜謐ヲ害スル罪(兇徒聚集罪、私ニ軍用ノ銃器ヲ製造スル罪及人ノ住居ヲ犯ス罪)(二)公衆ノ危難ヲ釀成スル罪(放火失火ノ罪、決水ノ罪、船舶ヲ覆没スルノ罪、往來通信ヲ妨害スルノ罪及社會ノ健康ヲ害スル罪)(三)公ノ風俗道義ヲ害スル罪(誣告ノ罪、偽證ノ罪、賭博ノ罪、猥褻姦淫重婚ノ罪)

(四)公ノ信用ヲ害スル罪(貨幣偽造ノ罪、官文書偽造ノ罪、印章偽造ノ罪、度量衡ヲ偽造スル罪、免狀鑑札ヲ偽造スル罪、及身分詐稱ノ罪)(五)公務ヲ行フヲ拒ム罪(第一百七十七條ノ罪ハ國家ニ對スル罪ノ類別ニ入ルヘキモノナレハ之ヲ除ク)(六)商業及農工ノ業ヲ妨害スル罪及(七)宗教ニ關スル罪(宗教ヲ蔑如スル罪、死屍ノ毀棄及墳墓發掘ノ罪)即チ是ナリ而シテ余ハ此罪ノ類別中(四)公ノ信用ヲ害スル罪ノ部ニ於テ官文書偽造ト貨幣偽造トノ二罪ヲ排列シタレトモ學者或ハ此二罪ヲ以テ國家ノ有スル貨幣鑄造權ヲ傷害スルノ罪ナリトシ之ヲ國家ニ對スル罪ノ類別中ニ排列スルモノアリ然レトモ是唯形骸上國家ノ權利ヲ傷害スル點ニノミ着眼シタル陳腐ノ論ニシテ能ク其實体上ヨリ觀察ヲ下セハ此罪ハ素ト社會ノ信用ヲ害スルモノタルヤ明カナリ且ツ夫レ論者ノ說ニヨレハ貨幣ヲ變造スルモノ、如キハ之レヲ罰スルコト能ハサルヘシ何トナレハ變造ハ決シテ國家ノ貨幣鑄造權ヲ傷害スル所爲ニアラサレハナリ官文書偽造ノ罪モ其理亦之ニ同シ故ニ余ハ近世學者ノ爲ニ倣ヒ此二罪ヲ取テ之ヲ社會ニ對スル罪ノ類別中(四)公ノ信用ヲ害スル罪ノ部ニ於テ排列スルコト、

(第四) 私人ニ對スル罪 私人ニ對スル罪ハ即チ一私人カ犯罪ノ物体タルヘキ場合ニシテ私權利ヲ傷害スルノ罪總テ此類別中ニ包括セラルヘキモノナリ即チ(一)生命ニ對スル罪(殺人罪)(二)身體ニ對スル罪(毆打創傷ノ罪及人ヲ疾苦セシムル罪)(三)自由ニ對スル罪(強迫ノ罪、逮捕監禁ノ罪、略取誘拐ノ罪、幼者老疾者ヲ遺棄スルノ罪等)(四)名譽ニ對スル罪(誹毀罪)(五)祖父母父母ニ對スル罪(六)財産ニ對スル罪(強竊盜ノ罪、受寄財産費消ノ罪、詐欺取財ノ罪、家資分散ニ關スル罪、贓物ニ關スル罪、遺失物理藏物ニ關スル罪及財産毀損ノ罪)ノ六罪ハ私人ニ對スル罪ノ類別中ニ包括セラル、モノナリ

(第五) 違警罪 違警罪モ亦之ヲ分析スレハ殆ント重罪及輕罪ノ類別ニ下ラサル數多ノ分類ヲナサ、ルヘカラスト雖モ此罪タルヤ各地方ニ依リテ必スシモ同一ニアラス且ツ極メテ輕微ノ刑ヲ以テ之ヲ罰スルニ止マリ其ノ主眼トスル所唯タニ行政警察ノ目的ヲ貫徹スルノ補助タルニ過キササルヲ以テ余ハ取テ之カ類別ヲナスノ煩雜ヲ避ケ唯我刑典中ノ違警罪ヲ分テ安寧警察、營業警

察衛生警察、風俗警察、建築警察等ノ目的ニ出ツルモノ等トナスヘシ上來講述セル所ハ犯罪類別ノ方法ナリト雖モ茲ニ犯罪ノ類別ニ似テ而シテ非ナルモノアリ罪質區別ノ方法即チ是ナリ請フ少シク之ヲ論セン

○罪質區別ノ方法(Distinction of Crimes) 凡ソ彼此兩罪ヲ取テ之ヲ比較シ其罪質ノ異同ヲ詳ニセント欲セハ必スヤ先ツ一般犯罪ノ構成元素ニ依リテ一定ノ標準ヲ定メ然ル後其標準ニ基キ以テ之ヲ比較セサルヘカラス然レトモ其一般犯罪ノ元素ナルモノハ犯罪ノ主体物体手段及所爲ノ四者ナルコト、及一般犯罪ヲ構成スルニ必要ナル條件トハ余既ニ之ヲ汎論ニ於テ講述シタルヲ以テ茲ニハ單ニ各罪ノ性質異同ヲ知ラント欲セハ此四個ノ元素ニ付キ特ニ其犯罪タルニ必要ナル條件如何ヲ觀察シテ以テ彼此相互ノ異同ヲ比較スヘキモノナルコトヲ論セントス例ヘハ今其主体ニ付テ云ヘハ官吏收賄ノ罪ニ於テハ其主体タルモノ一般犯罪ノ責任ヲ負擔スルノ能力アルヲ要スルノミナラス尙ホ必ス官吏ノ資格ヲ有スルモノナルコトヲ要シ祖父母父母ニ對スル罪ノ主体ハ子孫タルヲ要スヘク又其物体ニ付テ云ヘハ竊盜罪ハ其物体タルモノ必ス有体ノ動産タルコトヲ要シ詐欺取財

ノ罪ニ在テハ有体無体ノ動産及不動産皆ナ其物体タルコトヲ得ヘク又其手段ニ付テ云ヘハ誹毀罪ノ手段ハ單ニ之ヲ公然ノ演說又ハ刊行ノ文書等ニ限レルモ略取誘拐ノ罪ニ在テハ詐欺暴行若クハ強迫ノ三者ノカ手段タルコトヲ得ヘク又其所爲ニ付テ云ヘハ受寄財産消費罪ノ所爲ハ消費ニシテ遺失物ニ關スル罪ノ所爲ハ隱匿ナルカ如シ夫レ斯ノ如ク犯罪構成ノ元素ニ異同アルトキハ從テ又其罪質ニ異同ヲ來スモノナリト雖モ然レトモ其犯爲ノ罪質ニ異同ヲ來スコト最モ最大ニシテ而モ又罪質異同ノ區別ヲナスニ最モ必要ナルモノハ四元素中特ニ重キヲ犯罪ノ所爲ニ置カサルヘカラサルナリ諸君試ミニ思ヘ竊盜罪ト受寄財産消費罪トノ區別ヲ生スル所以ノモノハ他ニ又幾多ノ理由ナキニアラスト雖モ其所爲タル竊取ト消費トノ差異實ニ之カ主要ナル原因ヲナスニアラスト故ニ今彼此兩罪ヲ取テ之ヲ比較シ其罪質ノ異同ヲ詳ニセント欲セハ犯罪ノ主体物體手段及所爲ノ四元素ニ付テ其異同ヲ求ムヘキコト素ヨリ論ヲ埃タスト雖モ特ニ其異同ヲ生スル所以ノ根元ハ所爲其モノニ在テ存スルモノナリト云ハサルヲ得サルナリ以上緒論ヲ終リ本論ニ講歩ヲ入ル、ニ臨ビ一言セサルヘカラサルモノアリ講述

私人ニ對スル罪  
生命ニ對スル罪  
殺人罪  
一般ノ性質

ノ順序即チ是ナリ既ニ犯罪類別ノ方法ヲ説明スルニ際シテ講述シタルカ如ク余ハ犯罪ヲ分チテ(一)皇室ニ對スル罪(二)國家ニ對スル罪(三)社會ニ對スル罪(四)私人ニ對スル罪(五)違警罪ノ五種トナセリ故ニ其本論ヲ講述スルニ當リテモ先ツ皇室ニ對スル罪ヨリ講起シ逐次違警罪ニ講及スヘキハ素ヨリ講述自然ノ順序ナリト雖モ今余カ諸子ニ向テ之レヲ講述スルニ當リテハ到底此順序ヲ取ルコト能ハサルモノアリ何トナレハ(一)皇室ニ對スル罪ト(二)國家ニ對スル罪トノ如キハ爾他ノ犯罪ヲ講述シタル後ニアラサレハ直チニ之ヲ講述スルノ甚タ了解シ難キコトヲ信スレハナリ特ニ夫ノ國事犯ノ如キニ至リテハ素ト夫ノ複雜罪ノ一種ニ屬スルモノナルヲ以テ爾他一般ノ犯罪ヲ知了シタル後ニアラサレハ諸君或ハ了解シ能ハサルモノアルヘシ故ニ余ハ寧ロ講述自然ノ順序ヲ捨テ、一躍直チニ私人ニ對スル罪ヨリ講述スヘシ

第一篇 私人ニ對スル罪  
第一章 生命ニ對スル罪

第一 殺人罪一般ノ性質

抑モ殺人罪ナルモノハ權利ナクシテ他人ノ生命ヲ奪フノ所爲ヨリ構成セラル、  
 モノナリ今此犯罪ニ一般ナル要素ヲ擧グル即チ左ノ如シ  
 (一) 苟モ罪ヲ犯スノ能力アル者ハ何人ト雖モ總テ殺人罪ノ主体タルコトヲ得ヘ  
 シ  
 (二) 殺人罪ノ物体タルモノハ必スヤ生活スル所ノ有形人ナラサルヘカラス而シ  
 テ其有形人ナラサルヘカラサルコトハ既ニ汎論ニ於テ講述シタル所ニシテ夫ノ  
 無形人ナルモノハ唯タニ法律上ノ想像ニ成レルモノニ過キサレハ素ヨリ殺人罪  
 ノ物体タルコトヲ得ヘキモノニアラス世間若シ某會社ヲ殺害シタリト云フモノ  
 アラハ是唯小説的ノ談話ノミ誰カ又法律上ノ談ナリトナスモノアラシヤ然レト  
 モ苟クモ其人ニシテ生活スル所ノ有形人ナル以上ハ縱令ヒ其人ハ癡疾不具ノ甚  
 シキモノニテモ又或ハ到底生存ノ見込ナキ半死半生ノモノニテモ尚ホ能ク殺人  
 罪ノ物体タルコトヲ得ヘシ反之生活ナキ死屍或ハ人ニアラサル妖怪魑魅ノ如キ  
 モノニ至リテハ縱令ヒ之ヲ斬殺スルモノアルモ決シテ殺人罪ヲ成立スルモノニ  
 アラス

(三) 權利ナクシテ他人ノ生命ヲ奪フタルモノニアラサレハ決シテ殺人罪ヲ成立  
 スルモノニアラス夫ノ正當防衛ニ出テ、暴行人ヲ殺害スルカ如キ或ハ裁判執行  
 ニヨリテ犯人ヲ死刑ニ處スルカ如キ又或ハ戰爭ニ於テ敵人ヲ殺戮スルカ如キハ  
 皆ナ是權利ノ實行ニ出ツルモノナルヲ以テ其所爲ハ決シテ殺人罪ヲ構成スルモ  
 ノニアラサルナリ  
 (四) 余ハ前ニ殺人罪ノ定義ヲ下シ他人ノ生命ヲ奪フノ所爲ナリト云ヒ恰モ犯人  
 自ラ他人ノ生命ヲ奪フカ如ク説ケリト雖モ理論上ヨリ觀察スレハ吾人ノ生命ナ  
 ルモノハ素ト是吾人カ之ヲ天ニ受クル所ノモノニシテ苟モ天ニアラサレバ如何  
 ナル豪傑俊才ノ人カ如何ナル妙計奇術ヲ用ユルモ決シテ吾人ノ生命ヲ奪フコト  
 能ハサルナリ世人或ハ兇徒自刃ヲ揮テ人ヲ兩斷スルヲ觀レハ宛モ兇徒自カラ其  
 人ノ生命ヲ奪フタルカ如キ感想ヲ起スヘシト雖モ兇徒敢テ神通力アルモノニア  
 ラス豈ニ能ク人ノ生命ヲ奪フコトヲ得シヤ唯其人ノ身体ヲ兩斷セルニ過キサ  
 ナリ其人ノ生命ハ兇徒ノ爲ニ其身体ノ兩斷セラレタル結果トシテ自ラ消滅シ去  
 リタルニ外ナラス故ニ殺人罪ノ所爲ナルモノハ決シテ一人ノ生命ヲ奪フノ所爲ニ

アラスシテ唯其人ノ生命ヲ喪失スルノ結果ヲ起生スヘキ原因ヲナスモノナリト云ハサルヘカラス而シテ此思想タルヤ唯タ一片學理ノ空論ニシテ實際上毫末タモ擬律ニ關係スル所ナキカ如シト雖モ然レトモ是全ク皮相ノ見ニ過キス若シ夫レ理論上殺人罪ノ所爲ヲ以テ人ノ生命ヲ奪フノ所爲ナリトナスト之ヲ以テ人ノ生命ヲ喪失セシムルノ結果ヲ起生スヘキ原因ヲナスモノナリト解スルトハ其間僅カニ一毫ノ差アルニ過キサカ如シト雖モ漫ニ之レヲ雲烟過眼視シ殺人罪ノ所爲ヲ解シテ人ノ生命ヲ奪フノ所爲ナリトナスカ如キコトアラハ擬律上遂ニ千里ノ誤ヲ招クニ至ルヘシ例ヘハ茲ニ甲乙丙ノ三人アリ相謀テ丁者ヲ殺害セント欲シ各自刃ヲ提ケテ丁者ノ家ニ侵入シ甲者先ツ丁者ノ左肋ヲ斬リ乙丙二人相繼テ其左手右足ヲ斬リ落セシト假定セヨ此場合ニ於テ若シ殺人罪ノ所爲ヲ以テ人ノ生命ヲ喪失セシムヘキノ結果ヲ起生スヘキ原因ヲナスモノナリト解スルトキハ縱令ヒ最初甲者ノ一刀丁者ノ左肋ヲ斬リタルノ所爲ハ充分丁者ヲシテ生命ヲ喪失セシムルニ足ルモノナリトスルモ苟モ乙丙二人ニシテ丁者ノ未タ死セサルニ先タテ之ニ刃ヲ加ヘタル以上ハ三者共ニ殺人ノ所爲ヲ行フタルモノナリト云フ

コトヲ得ヘシ之ニ反シテ若シ殺人罪ノ所爲ヲ以テ人ノ生命ヲ奪フノ所爲ナリト解ストキハ到底乙丙二人ヲ目シテ殺人ノ所爲ヲ行フタルモノト云フコトヲ得サルニ至ラン何トナレハ死去ノ原因ヲ與フルノ所爲ハ一人ノ生命ニ對シテ再三再四之ヲ行フコトヲ得ヘシト雖モ生命ヲ奪フノ所爲ニ至リテハ一人ノ生命ニ對シテ唯一度之ヲ行ヒ得ルニ過キサレハナリ故ニ若シ乙丙二人ヲ以テ甲者ト等シク丁者ノ死去ノ原因ヲナシタルモノトシ之ヲ殺人罪ニ擬判スルニハ丁者ノ生命唯一アルヲ以テ足レリトスト雖モ之ニ反シテ若シ乙丙二人ヲ以テ甲者ト等シク丁者ノ生命ヲ奪フタルモノトシ之ヲ殺人罪ニ擬判セントスルニ至テハ丁者ノ生命三個アルヲ要スヘシ然レトモ人生ハ一ニシテ代替ヲ有セサルコト素ヨリ明カナルヲ以テ結局乙丙二人ノ兇徒ハ(他ノ犯罪ノ成立スルト否トハ問ハス)殺人罪ニ付テハ殺人罪ノ正犯ニアラストナサ、ルヲ得サルニ至ルヘシ之ヲ要スルニ若シ殺人罪ノ所爲ヲ以テ人ノ生命ヲ奪フノ所爲ナリトスルトキハ其極遂ニ二人ニ對スル殺人罪ノ主体タルモノハ必ス一人ニアラサレハ之ヲ犯スコト能ハサルモノトナサ、ルヲ得サルノ不都合ヲ生スヘシ



殺人罪ノ所爲ハ人ノ生命ヲ喪失セシムヘキノ結果ヲ起生スヘキ原因ヲナスノ所  
 爲ナリトナサ、ルヘカラサルコト夫レ此ノ如シ然ラハ苟モ人ノ生命ヲ喪失セシ  
 ムル所ノ結果ヲ起生スヘキ原因ヲナスノ所爲ヲ行フモノハ悉ク皆ナ殺人罪ヲ犯  
 シタルモノトナスヘキモノナルヤ例ヘハ茲ニ深窓ノ佳人アリ情夫ヲ戀慕スルノ  
 深キ途ニ花風症ヲ爲セリ甲者其情ヲ知リ戯レニ之ヲ驚サント欲シ一日詐テ之ニ  
 告クルニ情夫ノ變死ヲ以テセリ佳人之ヲ聞キ悲哀ノ情ニ堪ヘスシテ忽チ死去シ  
 タリトセハ甲者ハ果シテ殺人罪ヲ犯シタルモノトナスヘキ乎今夫レ此場合ニ在  
 リテ佳人ノ死去シタル結果ヲ來タセシハ甲者一場ノ詐言ナリトス然レトモ何人  
 ト雖モ法律上此等ノ所爲ヲ以テ殺人罪ナリトナスモノアラサルヘシ果シテ然ラ  
 ハ生命喪失ノ原因ヲナスモノニシテ殺人罪トナスヘキモノト否ラサルモノトヲ  
 區別スルノ標目ヲ定メサルヘカラス依テ今其區別ヲナスノ標目ヲ探究スルニ蓋  
 シ殺人罪ノ所爲タルニハ一般犯罪ノ必要ナリトスル條件ヲ要スルハ外尙ホ其原  
 因ハ必ラス直接ニシテ且ツ確定シタルモノナラサルヘカラス致死ノ原因直接ニ  
 シテ且ツ確定シタルモノニアラサルトキハ其所爲タル決シテ殺人罪ヲ構成スル

モノニアラサルナリ是即チ前掲セル場合ノ如キ其他呪咀祈禱等ノ怪力ヲ以テ人  
 ヲ誑死セシメ或ハ人ノ貧困ニ陥リ餓死スルヲ傍觀シテ之レニ食物ヲ與ヘサルモ  
 ノ、如キハ之ヲ殺人罪トナス能ハサル所以ナリトス然ルニ或學者ハ之カ區別ヲ  
 忘却シ凡ソ生命喪失ノ原因ヲナスモノハ總テ之レヲ殺人罪ナリト誤解シ説ヲ爲  
 シテ曰ク吾人ノ父母タルモノハ悉ク皆ナ殺人犯者ニシテ吾人ハ自ラ己ニ對スル  
 殺人犯者ヲ父母トナスモノナリ何トナレハ生ハ死ノ原因ニシテ父母我ヲ生ム故  
 ニ我死スルモノナレハナリト是全ク殺人罪ノ所爲ノ本性ヲ知ラサルニ坐スルシ  
 極端論ニシテ素ヨリ取ルニ足ラサルナリ尤モ前例ニ於ケルカ如ク病者ノ落膽ス  
 ヘキ言ヲ告ケテ之ヲ死ニ致シタルモノニ付キテハ判例未タ一定セス或ハ之ヲ殺  
 人罪ナリト斷定シタルモノナキニアラズ夫レ有名ナルスカーブン氏ノ如キモ又  
 之ヲ以テ殺人罪ナリト論定シテ曰ク苟モ其言ヲ告クレハ病者ノ必ス死亡スヘキ  
 コトヲ知リツト之ヲ告ケタル以上ハ自ラ之ヲ殺シタルモノニアラスシテ何ツヤ  
 ト然レトモ余ハ此説ニ贊同スルコト能ハス斷然殺人罪ノ所爲タル生命喪失ノ原  
 因ハ直接ニシテ且ツ確定シタルモノナルコトヲ必要トナスモノナリ諸君若シ以

上ノ諸例ニ就テ沈思熟考セハ或ハ思ヒ半ニ過クルモノアラシ  
生命喪失ノ原因ハ必ス直接ニシテ且ツ確定シタルモノナラサルヘカラサルコト  
夫レ斯ノ如シ而シテ學者之ヲ稱シテ因果ノ連結ト云フ請フ以下之ニ關スル一二  
ノ原則ヲ講述セン

(甲) 結果ノ發生スヘキ方向ニ對シ外形上ノ原因ヲ與ヘタルトキハ之ヨリ生スル  
遠大ノ結果ニ就テモ亦決シテ因果ノ連結ヲ斷絶セシムルニ足ラス即チ之ヲ詳言  
スレハ犯人自ラ此ノ如キ所爲ヲ行ヘハ必ラス此ノ如キ結果ヲ生スヘキコトヲ知  
了スルニモ拘ハラズ進ンテ其所爲ヲ行フタルトキハ犯人ハ即チ其結果ヲ來シタ  
ルモノナリト云ハサルヲ得サルナリ例ヘハ人ヲ毒殺セント欲シ犯人自ラ毒藥ヲ  
取り來テ之ヲ其人ノ食卓上ニ置キタルニ被害者來テ之ヲ食ヒ爲メニ死亡シタリ  
トセンニ縱令犯人自ラ其毒藥ヲ取テ之ヲ被害者ノ口中ニ投セサルモ尙ホ且ツ之  
ヲ毒殺ノ罪アルモノトセサルヲ得ス何トナレハ犯人自ラ毒藥ヲ食卓上ニ置キタ  
ルノ所爲ハ即チ毒殺ノ結果ヲ生スヘキ方向ニ對シテ外形上ノ原因ヲ與ヘタルモ  
ノニ外ナラサレハナリ又游泳ニ巧ミナルモノ之ニ通セサル人ヲ欺罔シ河中ニ誘

ヒ之ヲ放任シテ願ミサルカ如キモ其理一ナリ加之ナラス産婆及外科醫等カ病者  
ノ身体ヲ切斷シタル後之カ治療ヲ加ヘスシテ放任シ去リ爲メニ其人ヲ死ニ致シ  
タル場合ノ如キモ亦此原則ニヨリテ推論スルコトヲ得ヘシ之ヲ要スルニ此原則  
ノ趣旨タルヤ苟モ一度或ル積極的ノ所爲ヲ行フタル以上ハ單ニ之ヲ自然ノ結果  
ニ放任スルヨリ發生スヘキ結果ニ對スル責任ハ決シテ之ヲ免ルハコトヲ得スト  
云フニアリ

(乙) 因果ノ連結ハ迅速ニシテ且ツ熟練ノ技術ヲ施シ生命ヲ保全シ得ヘキ場合ニ  
之ヲ實行セサルノ故ヲ以テ斷絶スルモノニアラス之ニ反シテ積極的ニ或ル有害  
ナル治療ヲ施シ其治療ヲ施サレハ生命ヲ保全シ得ヘキ場合ニ於テハ其所爲ト  
死亡トノ間全然因果ノ連結ヲ斷絶スルニ足ルモノトス何トナレハ此場合ニ於テ  
ハ死亡ノ原因全ク治療ヲ施シタルニアルモノナレハナリ例ヘハ甲者アリ人ヲ創  
傷セルモ速カニ名醫ヲシテ之ヲ治療セシムルトキハ其生命ヲ保全シ得ヘキ場合  
ニ於テ被害者之ヲナサス自然ニ放任シタルカ爲メ遂ニ死去シタルトキト雖モ加  
害者ハ尙ホ其人ヲ死ニ致シタルノ責任ヲ免ルハコトヲ得ス然レトモ創傷ハ輕微

ニシテ之ヲ自然ニ放任セハ其生命ヲ保全シ得ヘキ場合ニ於テ庸醫ノ有害ナル治術ヲ受ケ遂ニ死去シタル場合ノ如キハ加害者ハ決シテ之カ責任ヲ負擔スヘキモノニアラサルナリ

(丙) 被害者ハ身体上構造ノ不完全若クハ他ニ之ニ加功スル情況ノ存在ニ依リ遂ニ死亡ノ結果ヲ來タヌモ尙ホ且ツ因果ノ連結ヲ斷絶スルモノニアラス例ヘハ病餘ノ人ヲ毆打シ爲メニ其死ヲ來タシタル場合ノ如キハ加害者ハ被害者病餘ノ人ナリシカ爲メニ死セリトノ辞柄ヲ以テ其責任ヲ免ルハ得ス又人ヲ地上ニ突キ倒シタルニ其傍ニ突兀タル岩石アリシカ爲メ被害者ヲ左肋之ニ觸レテ遂ニ死去シタル場合ニ於テモ其責任ヲ辭スルコト能ハサルノ理ハ則チ一ナリ然レトモ偶然ナル他ノ原因ニヨリ死亡ヲ來タシタル場合ハ此理ヲ以テ推論スルコトヲ得ス例ヘハ人ヲ投倒シタルトキ偶々磐石ノ天上ヨリ降下スルアリテ被害者爲メニ壓死シタルカ如キハ是唯偶然ノ出來事ヨリ生シタルモノナレハ加害者ハ素ヨリ責任ヲ負ラノ限リニアラサルナリ

以上殺人罪一般ノ性質ヲ講述シタルヲ以テ是ヨリ更ニ一步ヲ進メ正當防衛ニ關

正當防衛

スル原理原則ヲ講述スヘシ

第二 正當防衛即チ特別ノ不論罪

正當防衛トハ自己若クハ他人ノ生命身体及財産ニ對シ現在受クル所ノ不法ノ攻撃ヲ排却スルカ爲メニ欠クヘカラサル防衛ノ謂ニシテ人若シ此防衛ヲ行フカ爲メ暴行者ヲ殺傷スルコトアルモ法律ハ決シテ之ヲ罪トシテ罰スルコトナシ我刑法第三百十四條ニ曰ク身体生命ヲ正當ニ防衛シ己ムコトヲ得サルニ出テ暴行人ヲ殺傷シタルモノハ自己ノ爲メニシ他人ノ爲メニスルヲ分タス其罪ヲ論セス但シ不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタルモノハ此限ニアラスト今余カ此項ニ於テ講述スル所モ亦主トシテ此條所定ノ定義ニヨリテ之ヲ述フヘシ然レトモ正當防衛一般ノコトニ關シテハ既ニ汎論ニ於テ講述シ盡シタリト信スルヲ以テ茲ニハ唯タ正當防衛ニ必要ナル條件ノミニ付キ講述スヘシ而シテ我刑法上ノ所謂正當防衛タルニハ必スヤ左ノ七條件ヲ充實スルヲ要ス

(第一) 攻撃ハ必ス不法ナラサルヘカラス 抑モ權利ノ實行ニ出ツル所ノ攻撃ハ不法ノ一要件ヲ缺如スルモノニシテ正當ノ所爲ナレハ之ヲ排却スルカ爲メニ行

フ所ノ攻撃ハ決シテ正當防衛ニハアラサルナリ然レトモ之ニ對シテ正當防衛ヲ行フコトヲ得ヘキ攻撃ハ單ニ權利ナクシテ行フモノナルノミナラス其所爲ハ必ス不法ナルモノナラサルヘカラス既ニ汎論ニ於テ講述シタルカ如ク我刑法第七十五條ノ場合ノ如キハ其所爲果シテ正當ナルヤ否ヤト云フニ決シテ之ヲ正當ナリト云フコトヲ得サルヘシト雖モ而モ又之ヲ不法ナリトナスヲ得サルヘシ而シテ法律上敢テ之ヲ責罰セサル所以ノモノハ唯是國家カ被害者ヲ保護スルノ權利ヲ拋棄シタルニ過キサレナリ故ニ此第七十五條ノ場合ニ於テハ相互ニ正當防衛ヲ行フコトヲ得ルモノナリトハ獨逸ノ碩學ベルネル氏ノ唱道スル議論ナリト雖モ歐洲大陸諸學者ノ意見ヲ察スルニ多クハ皆氏ノ論旨ニ背馳スルノ傾向ヲ呈スルモノ、如シ依テ今其理由トスル所ヲ探究スルニ此場合ノ如キハ決シテ正當防衛ノ關係ニアラス何トナレハ其所爲タルヤ正當ナリトナスヲ得ヘキモノニアラスシテ唯法律上之ヲ罰スルノ權利ヲ拋棄シタルニ過キサレハナリ即チ正當防衛ニハ必ス不法ノ攻撃ヲ要スルモノナルヲ以テ不得已ノ所爲ニ於ケル反撃ハ決シテ之ヲ正當防衛ナリト云フコトヲ得ストナスモノ、如シ例ヘハ加藤清正ノ如

五六

キ管カ人ヲ兼ヌルノ士アリ來テ諸君ノ手ヲ執リ強テ白刃ヲ揮テ余ヲ斬殺セントスルニ方リテ余若シ之ヲ不法急劇ノ暴行ナリト信シ一喝刀ヲ揮テ諸君ヲ斬殺シタリトスルモ余ハ決シテ法廷ニ立テ正當防衛ノ申立ヲナシ其責任ヲ免ル、コトヲ得サルヘシ何トナレハ諸君ノ所爲タルヤ外部ノ強制ニヨリ巴ムヲ得スシテ行フタルモノナレハ敢テ不法ノ攻撃ナリト云フヲ得サルハナリ然レトモ余ハ其強制者ニ對シテハ正當防衛ノ權利ヲ實行スルコトヲ得ヘキコト素ヨリ論ヲ俟タス尤モ余ハ諸君ニ向テ正當防衛ノ權利ヲ實行スルコト能ハサルヘキモ敢テ之カ爲メ有罪ナリト云フコトヲ得ス否ナ余ハ決シテ刑罰ヲ受グルノ責任アルコトナシ何トナレハ余ノ所爲モ亦諸君ノ所爲ト等シク不得已ノ強制ニ出テタルモノナレハナリ由是觀之不得已ニ出テタル所爲即チ抗拒スヘカラサル強制ニ遇ヒ攻撃ヲナスモノニ對シテハ正當防衛ノ權ナカルヘク單ニ總則第七十五條ニ從ヒ自己若クハ親屬ノ身体ヲ防衛スルカ爲メニ行フタル所ノ不得已ニ出テタル所爲ナリトナスニ必要ナル條件ヲ充實スルノ度ニ至リテ始メテ之ヲ不論罪トナスコトヲ得ヘキナリ

前述セルカ如ク正當防衛ニ於テハ其攻撃タル必ス不正ノモノナラサルヘカラサルカ故ニ其攻撃ハ必ス人力ニ出ツルヲ要スルノミナラス又必ス能力アルモノナルヲ要ス夫ノ自然力若クハ禽獸ノ如キモノニ對シ正當防衛ノ權利ヲ實行シタリト言フモノアラハ人誰レカ其愚ヲ嗤ハサルモノアラシヤ蓋シ道理心ヲ具備セサル所ノ自然力若クハ禽獸ノ所爲ニ付キ其正不正ヲ區別スルコト能ハサルハ理ノ最モ親易キモノナレハナリ此點ニ付テハ管ニ自然力禽獸等ニ對シテ然ルノミナラス是非善惡ノ識別心ナキ幼者瘋癲者等ノ如キ刑法ニ所謂不能力者ノ暴行ニ對シテモ亦タ決シテ正當防衛ノ權利アルコトナク只其防衛ノ所爲ニシテ現實已ムヲ得サルノ境遇ニ陥リ爲シタルモノナルトキハ總則第七十五條ノ規定ニ從ヒ抗拒スヘカラサル強制又ハ天災若クハ意外ノ變ニ遇ヒ自己若クハ親屬ノ身体ヲ防衛スルニ出テタル所爲トシテ之ヲ不論罪トスルノ外ナカルヘシ尤モアツヘル及ル―ボー等ノ諸學者ハ此說ニ反對スルモノ、如シ然レトモ茲ニ一ノ注意ヲ要スルハ即チ其攻撃者ノ幼者瘋癲者タルコトヲ知ラスシテ之ヲ斬殺シタルトキハ正當防衛ヲ口實トシテ無罪ヲ主張スルコトヲ得ヘキヤ否ヤノコト是ナリ此ノ如キ

場合ニ於テ其果シテ不能力者タルコトヲ知ラスシテ自ラ正當防衛ヲ行フノ權利アリト信シ之ヲ斬殺シタルヤ否ヤハ蓋シ事實上ノ問題ナレハ一概ニ之ヲ論定スルコトヲ得スト雖モ若シ其情況ニシテ普通人力之ヲ以テ不能力者ナリト認ムルコトナカルヘシト推測シ得ヘキ場合ニハ之ヲ目シテ正當防衛ノ權利ヲ實行シタルモノトナスコトヲ得ヘキモ反之若シ普通人カ一見忽チ其不能力者タルコトヲ認ムルヲ得ヘキ場合ニ於テハ反擊者ハ正當防衛ノ權利ヲ實行シタルモノナリト辭柄ヲ利用シテ無罪ヲ主張スルコト能ハサルヘシ  
 攻撃ノ不法ナルコトヲ知ルト否トニ就テハ學者間多少議論アリテ學者或ハ其攻撃ノ不法ナルコトヲ知ラサル場合ニ於テハ之ヲ惡意ナキモノトナスモノナキニアラスト雖モ元來正當防衛ニ出ツルノ所爲ハ多クハ皆ナ謀故殺等ノ人命犯ニ限ルモノナルヲ以テ別ニ惡意ノ存在ヲ必要トセサルナリ且ツ其所爲ノ法律ニ反スルヤ否ヤノ如キ法律上ノ問題ニ屬スルモノニ至リテハ其不識ヲ以テ惡意ナキモノトナスコトヲ得サレハ余ハ容易ニ此論ニ首肯スルコトヲ得スト雖モ事實上ノ不識ニ關シテハ諸多ノ學說中余ハ唯タピシヨツア氏ノ說ノ最モ其肯綮ニ適中ス

ルモノナルコトヲ信スルヲ以テ今其大要ヲ抄譯シテ諸君ノ參考ニ供スヘシ其言ニ曰ク

攻撃者ヲ殺傷スルニ足ルヘキ事實ノ存在スルアリト信スヘキ適當ノ原因アリタルトキハ縱令其所爲タル錯誤ニ出テ、人ヲ殺害シタルトキト雖モ尙ホ之ヲ無罪トナサ、ルヲ得ス蓋シ正當防衛ノ權利ハ其所爲ヲナス當時ニ顯出セル事實ノ模様ニ從ヒ之ヲ行フヘキモノトスト

故ニ假令ヒ他ニ事實ノ存在スルアリテ其攻撃ヲシテ正當ナラシムルニ足ルヘキ場合ト雖モ若シ其所爲ヲナスノ當時該事實ノ存在ヲ認知スルコト能サルカ如キ境遇ニ在リシトキハ尙ホ且ツ其所爲ノ不正不法タルヘキ事實ヲ知ラザリシモノトナシ以テ之ヲ無罪トセサルヲ得サルナリ

(第二) 攻撃ノ危害ハ現在ナラサルヘカラス 故ニ若シ攻撃既ニ止ミ危害既ニ去リタルノ後ハ最早正當防衛ノ權利ヲ實行スルコト能ハス例ヘハ暴行人ノ逃避スルヲ追跡シ之ヲ殺害スルトキハ決シテ之ヲ正當防衛ノ權利ヲ實行シタルモノナリト云フコトヲ得サルナリ然レトモ此等ノ場合ニ關シテハ我刑法第三百十六條

ニ於テ身体財産ヲ防衛スルニ出ツルト雖モ已ムコトヲ得サルニ非スシテ害ヲ暴行人ニ加ヘ又ハ危害已ニ去リタル後ニ於テ勢ニ乘シ仍ホ害ヲ暴行人ニ加ヘタルモノハ不論罪ノ限ニアラス但シ情狀ニ依リ第三百十三條ノ例ニ照シ其罪ヲ宥恕スルコトヲ得ト規定セルヲ以テ之ヲ宥恕ノ原因トナシ二等減ヲナスコトヲ得ヘシ

(第三) 攻撃ハ必ス暴行タルコトヲ要ス 若シ夫レ暴行ニアラスシテ至正至當ノ所爲ナルトキハ之ニ對シテ正當防衛權ヲ實行スルコトヲ得サルナリ而シテ法文ノ所謂暴行ナル語ハ人ノ生命身体及自由ニ對シ直接ニ危害ヲ加ヘ得ヘキモノナラサルヘカラサルナリ余曾テ刑法各論ヲ著ハズニ方リ暴行ニハ脅迫ヲモ包含スヘキカ如ク説キタレトモ余ノ所謂脅迫ナルモノハ敢テ一般普通ノ脅迫ヲ指スモノニアラスシテ是亦他人ノ生命身体及自由ニ對シテ危害ヲ加ヘントスル所ノ直接ノ脅迫ヲ意味スルモノナリト知了スヘシ

(第四) 攻撃ハ生命身体及場合ニヨリテハ財産ニ對スルモノナラサルヘカラス 攻撃ノ生命身体ニ對スル場合ハ一般普通ノコトナレトモ財産ニ對スル攻撃ハ蓋

シ特別ナル場合ニ限ルモノトス即チ我刑法第三百十五條ニ於テ財産ニ對スル攻撃ニ向ヒ正當防衛ノ權利ヲ實行シ得ヘキ場合ヲ三個ニ區別セリ曰ク左ノ諸件ニ於テ已ムコトヲ得サルニ出テ人ヲ殺傷シタルモノハ其罪ヲ論セス(一)財産ニ對シテ放火其他暴行ヲ爲スモノヲ防止スルニ出テタルトキ(二)盜犯ヲ防止シ又ハ盜賊ヲ取還スルニ出テタルトキ(三)夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戸墻壁ヲ踰越損壞スルモノヲ防止スルニ出テタルトキト但シ生命身體ニ對スル場合ニ於テハ自己ノ爲メニスルト他人ノ爲メニスルトヲ問ハスト雖モ財産ハ攻撃ニ關スル以上三個ノ場合ニ於テハ必ス自己ノ爲メニスルコトヲ要ス

(第五) 正當防衛ノ所爲ハ防衛ニ必要缺クヘカラサルコトヲ要ス 故ニ容易ニ官ノ助力ヲ乞ヒ得ルカ若クハ他ニ之ヲ避クルノ手段アルトキハ決シテ正當防衛ノ權利ヲ實行スルコトヲ得サルヘシト雖モ古代ノ學者及英米ノ學者カ唱道スル如ク受クル所ノ暴行ト加フル所ノ暴行トハ必スシモ強弱相平均スルヲ要セサルナリ又此條件ノ缺如スルトキト雖モ尙ホ且ツ宥恕減輕ノ原因トナスコトヲ得ヘシ即チ我刑法第三百十六條ニ於テ身體財産ヲ防衛スルニ出ツルト雖モ已ムヲ得サ

ルニ非スシテ害ヲ暴行人ニ加ヘ又ハ危害已ニ去リタル後ニ於テ勢ニ乘シ仍ホ暴行ヲ加ヘタルモノハ不論罪ノ限ニ在ラス但シ情狀ニ因リ第三百十三條ノ例ニ照シ其罪ヲ宥恕スルコトヲ得ト規定シアルヲ看テ知ルヘキナリ

以上ハ刑法ノ原理上正當防衛ニ必要ナル一般的ノ條件ナリト雖モ以下第六第七ノ二條件ニ至リテハ特ニ日本刑法ニ規定シアル所ノ正當防衛ニノミ限り必要ナルモノトス故ニ學者ノ所謂正當防衛ニ必要ナル條件トハ以上五個ノ條件ニ限ルモノニシテ以下二個ノ條件ハ日本刑法ニ規定セル所ノ正當防衛ニ固有ノ條件ナリト知ルヘシ

(第六) 不正ノ所業ニヨリ自ラ攻撃ヲ招キタルモノニアラサルヲ要ス 諸君試ミニ歐西諸國ノ刑法ヲ緝テ之ヲ一讀セヨ何レノ邦國ト雖モ未タ曾テ此ノ如キ規定アルヲ觀サルナリ願フニ我立法官ハ不正ノ所業ヲナシ故ラニ暴行ヲ招キ而シテ後チ正當防衛ノ權利ヲ濫用シ人ヲ殺傷スルモノハ比々踵ヲ接シテ起ルアラントト豫想シタルノ老婆心ヨリ此條件ヲ設クルノ必要アルコトヲ感シタルモノナリルヘシト雖モ是全ク正當防衛ノ本性如何ヲ知ラサル無學ノ罪ニ坐スルモノナリ

ト憫笑スルノ外余ハ亦評スベキノ語アルヲ知ラサルナリ若シ夫レ自ラ不正ノ所業ニヨリテ暴行者ノ攻撃ヲ招キタルモノナルニモセヨ苟モ自己ノ生命身体ヲ防衛セサルヘカラサルノ境遇ニ遭遇セハ正當防衛ノ本性上素ヨリ之ヲ實行シ得ヘキモノニシテ唯タニ自ラ招キタリトノ一理由ヲ以テ正當防衛ノ權利ヲ奪却シ去ルカ如キニ至テハ抑モ亦タ理論ヲ誤ルノ規定ナリト云ハサルヲ得ス是故ニ實際上此條件ヲ解釋スルニ付テハ須ラク其適用ヲ局限シ攻撃ヲ招ク所ノ不正ノ所業ハ重大ニシテ且ツ直接ニ攻撃ヲ招クノ原因タリシ場合ニ限ラサルヘカラサルナリ

(第七) 正當防衛ノ所爲ハ必スヤ殺傷ノ所爲ニ限ラサルヘカラス 此條件シ如キハ古今万国未タ曾テ之レ有ラサル所ニシテ僅カニ之ヲ日本刑法ノ正文ニ見ルコトヲ得ルニ過キササルナリ諸君試ミニ我刑法ヲ審ヒテ第三百十四條ノ正文ヲ一讀セヨ身体生命ヲ正當ニ防衛シ已ムコトヲ得サルニ出テ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ自己ノ爲メニシテ他人ノ爲メニスルヲ分タス其罪ヲ論セス但レ不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタルモノハ此限ニ在ラスト規定スルニアラスヤ夫レ此ノ如ク暴行

人ヲ殺傷シタルモノ云々トアルヲ以テ殺傷ノ所爲ヲ外ニシテハ如何ナル所爲ト雖モ決シテ正當防衛ノ權利ヲ得ルコト能ハサルヘシ然レトモ理論上正當防衛ノ所爲ハ敢テ之ヲ殺傷ニシテ限ルヘキモノニアラス諸般ノ所爲皆ナ此權利ヲ附與スヘキモノナレハ元來正當防衛ノコトハ之ヲ汎論ニ於テ論究スヘキモノナルニ拘ハラヌ刑法ニ於テハ單ニ之ヲ殺傷ノ所爲ニシテ限リタルヲ以テ本邦ニ於テ之ヲ論スルニ方リテハ又之ヲ各論ニ於テ論究セサルヘカラサルナリ人若シ來テ我立法官ハ何カ故ニ他ノ所爲ヲ以テ正當防衛ノ權利ヲ得セシメサルヤノ理由ヲ問フモノアラハ余輩ハ甚タ之カ答辯ニ苦マサルヲ得ス然レトモ余ノ臆想ヨリシテ我立法官ノ意思ヲ察スルニ蓋シ漠然タル得意ノ老婆心ニ出タルモノナルカ如シ我立法官カ正當防衛ノ所爲ヲ以テ殺傷ノミニ限リタルハ即チ是吾人ニ命スルニ正當防衛ノ權利ヲ實行スルニハ必スヤ其暴行人ヲ殺傷スヘシト云ヒタルト一般ニシテ吾人ハ重大ノ所爲ヲ行フ特權ヲ得タルト同時ニ又頗ル實行シ難キ所爲ヲナサ、ルヘカラサルノ責務ヲ負擔セルモリト云ハサルヘカラス試ミニ我刑法ノ正文上ヨリ嚴格ニ此條件ヲ解釋セハ我立法官ハ吾人ニ命スルニ暴行者ノ衣服ヲ



破綻スルコトナク巧ミニ之ヲ殺傷スヘキコトヲ以テセルト一般ナリトス故ニ人  
 ナリ暴行者ノ攻撃ニ遭遇シテ已ムコトヲ得ス其ノ仕込杖ヲ抜キ暴行者ヲ殺傷シ  
 タリトセハ其暴行者ヲ殺傷シタル所爲ハ即チ正當防衛ニ出テタルモノニシテ素  
 ヲリ無罪タルヘキヤ論ヲ俟タスト雖モ若シ其人ニシテ巧ミニ暴行者ヲ殺傷スル  
 コトヲ得ス或ハ暴行者ノ刀劔ヲ損シ或ハ又暴行者ノ衣服ヲ破綻スルカ如キコト  
 アリトセンガ其人ハ必スヤ暴行者ヨリ私訴ノ反求ヲ受クルノミナラス兼テ又刑  
 法第四百二十二條ニ從ヒ財産毀棄ノ罪ニ處斷セラレ、ニ至ルヘシ若シ夫レ此ノ  
 如クンハ正當防衛ノ權利ヲ實行スルモノハ概ネ皆ナ財産毀棄ノ罪ニ處斷セラレ  
 サルモノナキニ終ランシノミ何ソ夫レ自家撞着ノ甚シキヤ蓋刑法ノ理論正當防衛  
 ノ本性兩ツナカラ決シテ斯ル矛盾ヲ容レサルモノナレハ唯之ヲ日本刑法ノ沿革  
 ヲリ然ルモノナリト言ヒ以テ遁辭ヲ求ムルノ外ナカルヘシ

第三 挑發即チ特別ノ宥恕減輕ノ事由ニシテ其意蓋シ人ヲシテ憤怒  
 挑發トハ英語ノ所謂「プロヴァケーション」ト同一義ニシテ其意蓋シ人ヲシテ憤怒  
 ノ情ヲ激發セシムルヲ云フ而シテ挑發ニ出テタルノ罪トハ自己ノ身体ニ暴行ヲ

挑發

受ケタルニ因リ直チニ怒ヲ發シテ行フタル所爲ノ謂ニ外ナラス凡ソ人タルモノ  
 挑發ニヨリテ憤怒ノ情ヲ激發シ爲メニ犯罪ヲ行フモ敢テ不論罪ノ優免ヲ受クヘ  
 キモノニアラスシテ犯罪ヲ構成スヘキ事ハ素ヨリ論ヲ俟タスト雖モ法律ハ又多  
 少人生自然ノ性情ヲ酌量シ挑發ヲ以テ宥恕減輕ヲ與フルニ足ルヘキ一理由トナ  
 シ之ニ名ツクルニ特別ノ宥恕減輕ナル名稱ヲ以テシ本刑ニ二等又ハ三等ヲ減ス  
 ルコト、セリ我刑法第三百九條及第三百十三條ニ規定スル所ノモノ即チ是ナリ  
 今其條件ヲ掲クレハ左ノ如シ

(第一) 不正ノ暴行ヲ受ケサルヘカラス、暴行ノ不正ナラサルヘカラスルコトハ  
 前ニ正當防衛ノ要件ヲ論究スルニ方リテ業已ニ餘蘊ナク其理ヲ説明シタルヲ以  
 テ今又茲ニ之ヲ贅セサルヘシ

(第二) 暴行ハ自己ノ身体ニ對スルモノナルヲ要ス、我邦ノ立法官ハ大膽ニモ身  
 体ナル字義中ニハ生命自由及名譽ヲモ包含セシメタルコトハ已ニ論述シタルカ  
 如クナルヲ以テ茲ニ所謂身体トハ又敢テ吾人ノ肉体ノミノ謂ニアラスシテ其意  
 紳々生命自由ヲモ包含スルモノナレハ敢テ駁撃ヲ呈スヘキニハアラサレトモ我

立法官カ單ニ之ヲ自己ノ身体ニノミ止メタルノ一點ニ至リテハ實ニ是レ新發明ニ成レルモノニシテ世界ノ廣キ刑典ノ多キ余ノ未ダ曾テ見聞セサル所ノモノナリ他國ノ法律ニ於テハ親族ノ身体ニ對スルトキト雖モ尙ホ且ツ自己ノ身体ニ對スルトキト一般共ニ宥恕ノ理由アルモノトナスハ頗ル學理ニ適スルモノニシテ我立法官ノ新發明ハ大ニ學理ヲ紊亂スルモノナリト云ハサルヲ得サルナリ例ヘハ自己ノ父母ニ對シテ暴行ヲナスモノアルニ方リ暴行者ヲ殺害シ又ハ自己ノ妻子ニ對シテ狼籍ヲ行フモノアルヲ觀テ之ヲ殺戮シタルモノ、如キハ素ヨリ宥恕減輕ヲ與フヘキ充分ノ理由アルモノナルコトハ何人ト雖モ恐クハ之ヲ疑フモノナカルヘシ然ルニ老練賢明ナル我立法官カ僅カニ刑一等又ハ二等ヲ減スルニ止マリ毫モ宥恕減輕ヲ與フヘキ限りニアラストセラレタルハ稍ヤ苛酷ノ嫌ナキ能ハサルナリ

(第三) 自己ニ過失ナキコトヲ要スル刑法第三百九條ノ但書ニ曰ク不正ノ所爲ニヨリ自ら暴行ヲ招キタルモノハ此限りニアラスト此法文タルヤ其義甚タ廣漠ニ失シテ明瞭ナラスト雖モ余ハ唯タ之ヲ解シテ憤怒ヲ發スヘキ正當ノ理由アリテ

憤怒セルモノニアラサレハ毫モ宥恕ノ原因トナスニ足ラスト云フニ外ナラストセシ蓋シ法律ハ單ニ憤怒ノ情ヲ保護スルモノニアラサルカ故ニ能ク其憤怒ヲ發シタル所以ノ理由ヲ探究シ果シテ憤怒スルニ足ルヘキ理由アリタルヤ將タ然ラサルヤヲ定メサルヘカラス若シ正當ノ理由アリテ憤怒セルモノナルトキハ勿論宥恕減輕ヲ與フヘキモノナリト雖モ其憤怒タル毫モ理由ナキ短慮ニ出ルモノナルトキハ敢テ宥恕ノ原因アリトナスコトヲ得サルナリ例ヘハ公然シ演說ニ依リ人ヲ誹譏シ爲メニ其暴行ヲ受ケ憤怒ヲ發スルカ如キハ決シテ正當ノ理由アルモノニアラサルナリ

(第四) 憤怒ノ繼續間ナラサルヘカラス、自己ノ身体ニ對シ暴行ヲ受クルト雖モ憤怒ヲ發セサルトキハ決シテ宥恕ノ限りニアラサルノミナラス殺傷ノ所爲モ亦タ憤怒ノ繼續中ニ行フタルモノナルコトヲ要ス故ニ人アリ來テ我身体ヲ毆打セルモノアルモ余之ヲ怒ラス唯ダ故ラニ怒レル爲シテ其人ヲ殺傷スルコトアルモ法律ハ毫末タモ余ヲ保護スルコトナシ之ニ反シテ豫メ謀テ人ノ暴行ヲ受ケ故ラニ暴行人ヲ殺傷シタル場合ト雖モ尙モ眞ニ憤怒ノ情ニ激セラレテ其憤激中ニ行

フタルモノナルトキハ尙ホ且ツ之ヲ以テ宥恕ノ原因アルモノトナサ、此ヲ得サ  
ルナリ而シテ其理由ニ至テハ夫ノ罪ヲ犯スノ意ヲ以テ故ラニ醉在シ眞ニ精神ノ  
喪失ニ依テ其罪ヲ遂ケタルモノヲ以テ不論罪トスルト同一理ナリトス之ヲ要ス  
ルニ他人ノ暴行ヲ受ケタルカ爲メ直チニ憤怒ヲ發シテ之ヲ殺傷シタルモノナラ  
サルヘカラサルナリ

夫ハ斯ノ如ク以上四種ノ要件ヲ充實スルニアラサレハ挑發ハ決シテ宥恕ノ原因  
タルコトヲ得スト雖モ我立法官ハ是等ノ要件ヲ具備セサル場合ニ於テモ尙ホ且  
ツ減輕ヲ與フルノ場合ナキニアラス即チ刑法第三百十一條ニ曰ク本夫其婦ノ姦  
通ヲ覺知シ姦所ニ於テ直チニ姦夫ヲ殺傷シタルモノハ其罪ヲ宥恕ス但シ本夫先  
キニ姦通ヲ縱容シタルモノハ此限ニアラスト又其第三百十二條ニ曰ク晝間故ナ  
ク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戶墻壁ヲ踰越損壞セントスルモノヲ防止  
スル爲メ之ヲ殺傷シタルモノハ其罪ヲ宥恕スト蓋シ此二個ノ場合タルヤ以上四  
個ノ要件ヲ具備セサルトモ雖モ尙ホ之ヲ以テ宥恕ノ原因アルモノトシ減輕ヲ  
與フルモノナリ故ニ第三百十一條ノ場合ニ就テ之ヲ論スレハ本夫ハ敢テ憤怒ヲ

發シタルヲ要セス唯タ其姦所ニ於テ直チニ姦夫又ハ姦婦ヲ殺傷セシモノナレハ  
可ナリ例ヘハ甲者一夜深更ニ至リテ歸宅セシニ奥座敷偶々喃々ノ聲アルヲ聽キ  
竊カニ戶外ニ往テ之レヲ窺フニ隣人乙者頻リニ我妻丙者ト共ニ戯ル、ヲ見ル然  
レトモ丙者ノ面相タル實ニ醜惡ナルヲ以テ甲者ハ毫モ之ヲ怒ラヌ唯タ戯レニ之  
ヲ四斷セント欲シ刀ヲ揮テ乙丙ヲ四斷シタリトスルモ法律ハ尙ホ且ツ之ヲ宥恕  
スルモソトス何トナレハ第三百十一條ノ實ニ一種ノ特例ニシテ法律ハ唯タ姦所  
ニ於テ直チニ之ヲ殺傷スルヲ要スルニ過キサレハナリ尤モ人ノ妻タルモノハ縱  
令其夫ノ他婦ト姦通スル場合ニ於テ直チニ之ヲ姦所ニ殺傷スルコトアルモ決シ  
テ宥恕ノ特典ヲ受クルコト能ハサルヘシ是蓋シ我邦ニ在テハ男尊女卑ノ宿弊未  
タ全ク消滅シ去ラサルカ故ナリ而シテ第三百十二條ノ場合ノ如キモ亦同一理ニ  
シテ敢テ詳説ヲ要セサルヘシ之ヲ要スルニ此等二個ノ場合ニ於テハ法律特ニ憤  
怒ヲ推測スルモノナルヲ以テ又其事實憤激セルヤ否ヲ究ムルノ必要ヲ見サルナ  
リ

以上殺人罪一般ノ要領ヲ説明シタルヲ以テ是ヨリ謀故殺ノ罪ヲ講述スヘシ

第一節 謀故殺ノ罪

刑法第二百九十二條ニ曰ク豫メ謀テ人ヲ殺シタルモノハ謀殺ノ罪トナシ云々ト又其第二百九十四條ニ曰ク故意ヲ以テ人ヲ殺シタルモノハ故殺ノ罪トナシ云々ト是即チ我刑法ノ下シタル謀殺及故殺ノ定義ナリトス今此定義ニヨルトキハ恰カモ謀殺ニハ故意アルヲ要セサルモノ、如ク思惟セラレ甚タ怪訝ニ堪ヘスト雖モ元來理論上ヨリ見ルトキハ故意ヲ以テ人ヲ殺スモノハ即チ謀殺及故殺ノ二者ニシテ此兩罪ニ必要ナル普通ノ原素ハ故意即チ死亡ノ結果ヲ發生スルノ意思アルヲ要スルコト是ナリ故ニ苟モ故意存在セスンハ假令人ヲシテ死ニ致サシムルノ結果ヲ生スルモ尙ホ且ツ謀殺故殺ノ罪ヲ構成セスシテ過失殺トナルヘキナリ左レトモ又必シモ此結果ノ發生ヲ希望スルコトヲ要スルニハアラス苟モ自己ノ行フ所ノ所爲ニシテ結局人ノ死亡ヲ來ヌベキコトアルヲ知ル以上ハ敢テ其死亡ヲ欲スルノ念慮アラサルモ尙ホ謀故殺ノ罪タルニ充分ナリトス且ツ夫レ其之ヲ行フ所ノ手段方法ノ如キニ至リテハ決シテ法律ノ關スル所ニアラサルナリ然ルニ學者之ヲ察セス他ノ罪名ヲ帶フヘキ手段方法ヲ以テ謀殺又ハ故殺ヲ犯シヌ

ルトキハ議論紛々トシテ毫モ歸宿スル所ヲ知ラサリシカ就中其最モ議論ヲ招キタルハ劇場放火ノ件ナリトス即チ觀客ノ充滿セル劇場ニ放火シ人ヲ燒殺シタルモノハ如何之ヲ以テ放火犯ナリトセン乎將タ之ヲ人ノ住居セサル家屋ニ放火シタルモノナリトセン乎兩ツノモノ共ニ其公平ヲ失スルモノナリトノ疑ヲ生スヘシ蓋シ是放火ノ手段ニヨリ人ヲ殺害シタルモノニシテ苟モ人ノ死亡スヘキ結果アルヲ知リテ之ヲナシタル以上ハ斷然之ヲ謀故殺ニ問ハサルヘカラス廢屋又ハ堆積シタル芝草ニ放火シテ人ヲ燒殺シタルモノモ亦此理ヲ推シテ論スルコトヲ得ヘシ而シテ茲ニ注意スヘキハ故意ノ點ニ關シテ我刑法ト英國刑法トノ間ニ非常ノ差異アルコト是ナリ則チ我刑法ニ於テハ死亡ヲ來スヘキコトヲ知リツ、爲シタルニアラサレハ敢テ罪トナサ、レトモ英國刑法ニ於テハ知リツ、ナシタルトキハ勿論假令ヒ之ヲ知ラサルモ知リ得ヘキ位地ニ在レハ即チ可ナリトセリ故ニ論理上ヨリ論スルトキハ日本刑法ニ於テハ他人ノ首ヲ斬ルモ多分死セサルヘシト信シ之ヲ斬リタルトキハ是敢テ其人ノ死亡スヘキコトヲ知了シテ爲シタルニアラサルカ故ニ謀殺若クハ故殺トスルヲ得サルニ至ルヘシ豈ニ斯ノ如キ理ア

ランヤ  
 次キニ論スヘキハ謀殺ト故殺トノ區別是ナリ蓋シ兩者ノ區別タルヤ昔時ヨリ學者ノ喋々スル所ナリト雖モ學理上ヨリ之ヲ論スルトキハ此區別タル實ニ容易ノ業ニアラサルナリ特ニ本邦從來ノ判決例ニ徴スルトキハ抵觸ノ甚シキ殆ント之カ區別ヲ認メサルモノ、如シテ今其抵觸ノ因テ起ル所以ヲ考察スルニ學理上謀殺故殺ノ區別如何ヲ知悉セサルノ致ス所ナルヲ知ルナリ或ハ謀殺ト云ヒ或ハ故殺ト云ヒ殆ント一定ノ見識ナキカ如シト雖モ特ニ本邦判例ノ傾向ハ故殺ヲ以テ謀殺ト斷スルモノ最モ居多ナリトス而シテ甚タシキモノニ至リテハ目的物ノ錯誤ト所爲ノ錯誤トヲ混淆セシ判決例ナキニアラス誤謬モ亦甚シト謂ハサルヲ得サルナリ

抑モ學理上ヨリ之ヲ區別スルトキハ謀殺ナルモノハ即チ豫謀ニ出テタル故殺ニシテ故殺ナルモノハ感激ニ出テタル殺人罪ナリ然レトモ事ノ實際ニ就テ觀察スルトキハ豫謀ノ有無ヲ證明スルコト頗ル困難ナルヲ以テ現行法ニ於テハ豫謀アルモノヲ謀殺ト爲サスシテ却テ故意ノ存スルモノヲ以テ故殺ナリトセリ蓋全然

五六

便宜上ヨリ定メタル區別タルニ過キサルヘシ若シ夫レ成典上ノ便宜如何ハ措テ論セス學理上ヨリ謀殺及故殺ヲ區別スルノ標準ヲ求ムレハ夫レ唯豫謀感激ノ有無ヲ定ムルニ在ルノミ而シテ今其標準ヲ述フルニ方リ一言以テ世上學者輩ノ崇拜シ來レル認説ヲ打破セサルヘカラス學者動モスレハ則チ曰ク豫謀トハ人ヲ殺スコトヲ決心スルニ先タテ豫メ之ヲ爲シタルモノヲ云フト夫ノ今日人ヲ殺サンコトヲ決心シ明日ニ至テ之ヲ實行スルモノ、如キハ其實行ノ感激ニ出テタルト然ラサルトヲ論セス悉ク之ヲ謀殺トナシ其憫察スヘキモノニ至リテハ或ハ之ヲ原諒ナト、云ヒ殆ント其意味スル所ヲ解スルニ困マシムルモノアリ學者動モスレハ又曰ク故殺トハ急ニ人ヲ殺ス氣ニナリテ之ヲ實行シタルモノヲ云フト能ク字典的ニ故殺ノ意義ヲ解釋シ得タルノ點ハ余輩ノ甚タ驚嘆ニ堪ヘサル所ナレトモ其基ク所ノ學理ニ至リテハ一片架空ノ「ノンセン」ナル辞中ニ存在スルモノニシテ共ニ是法理ノ何タルヲ知ラサルモノナリ余輩惟フニ此兩者ノ區別タル加害者ノ意思ヨリ立論スヘキモノニアラスシテ殺人ノ所爲其モノヨリ立論シ其果シテ謀殺ナルヤ又ハ故殺ナルヤヲ定ムルニハ殺人ノ所爲ヲ行フニ付キテ豫謀アリ

タルヤ將タ感激ニ出テタルヤヲ檢定セサルヘカラス若シ夫レ人ヲ殺スニ豫謀ヲ以テ之ヲ實行シタルモノハ謀殺ニシテ感激ニ依テ之ヲ實行シタルモノハ即チ故殺ナリトス換言スレハ靜思以テ殺人ノ所爲ヲ實行スルハ豫謀ニシテ熱キ心ヲ以テ殺人ノ所爲ヲ實行スルハ即チ感激ナリ。故ニ豫謀ト云ヒ感激ト云ヒ兩者共ニ殺意ニ固着スルモノニアラスシテ唯タ所爲ノ實行ニ固着スルニ過キサルナリ例ヘハ復讐ノ爲メ人ヲ殺害センコトヲ謀ルハ是全ク殺人ノ目的タルニ止マリ其之ヲ實行スルニ方リテハ或ハ靜思以テ之ヲ行フコトアラン(此場合ニハ謀殺トナル)或ハ又憤激以テ之ヲ行フコトモアルヘシ(此場合ニハ故殺トナル)之ニ反シテ當初ハ感激ニヨリテ人ヲ殺害セント決心スルモ之ヲ實行スルニ至テ感激既ニ去リ靜思以テ之ヲ行フコトモアルヘシ此場合ニハ決心ハ感激ニ依テ生スルモ實行ハ豫謀ニ出テタルモノナレハ謀殺タルヲ免レス夫レ然リ故ニ謀殺ナルモノハ殘忍ノ甚シキ所爲ナリト云ハサルヲ得ス何トナレハ是レ靜思ヲ以テ人ヲ殺害スルモノナレハナリ然レトモ故殺ナルモノハ事全ク一時ノ感激ニ出ツルモノナルヲ以テ之ヲ謀殺ニ比スレハ頗ル宥恕スヘキノ情狀ナキニアラス

豫謀ト感激トハ素ト全ク殺意ニ固着スルモノニアラスシテ殺人ノ所爲ヲ實行スルニ付キ其有無ヲ檢スヘキモノナルコト夫レ斯ノ如シ是故ニ數人豫メ相謀テ人ヲ殺害スルモ其實行ニ際シテ感激ヲ發シタルモノナルトキハ各之ヲ謀殺又ハ故殺ノ共犯例ニ照シテ區別セサルヘカラス其教唆者及從犯ノ責任ヲ定ムルモ亦同シ

現行刑法ニ於テハ謀殺及故殺ノ外尙ホ別ニ左ノ數種ノ殺人罪ヲ認メタリト雖モ第二第四及第五ノ場合ハ概ネ豫謀アルヘキモノナルカ故ニ特ニ法律ノ規定ヲ要セサルヘク又第三ノ場合ハ稍ヤ嚴酷ニ失スルノ嫌アルニ似タリ

(第一) 毒殺 毒物ヲ施用シテ人ヲ殺害スルノ罪ハ豫謀ノ有無ヲ問ハス謀殺ヲ以テ論シ死刑ニ處ス(第二百九十四條)

(第二) 慘酷殺人 支体折割其他慘酷ノ所爲ヲ以テ人ヲ故殺シタルノ罪ハ死刑ニ處ス(第二百九十五條)

(第三) 重輕罪ヲ犯スニ伊利ナル爲メ又ハ已ニ犯シテ其罪ヲ免カル、爲メ之ヲ故殺スルノ罪ハ死刑ニ處ス(第二百九十六條)左レトモ法文ノ所謂罪ヲ犯スニ便利

ナル爲メ云々ノ文詞ハ頗ル曖昧糲糊タルモノニシテ殆ト其意ヲ解スルコト能ハサルカ如シト雖モ蓋シ現ニ罪ヲ犯サ、ルモ單ニ便宜ナリト思料シタルノミヲ以テ足レリトスヘカラス必ラスヤ現ニ罪ヲ犯シタルコトヲ要スルナルヘシ又其罪ヲ免カル、爲メトハ前者ト等シク必ラス其罪ヲ免カル、ノ所爲アルコトヲ必要トシ單ニ之ヲ免カレントスルノ意アルノミヲ以テ未タ足レリトナサ、ルナリ是故ニ余ハ此條文ヲ解シテ故殺ヲ以テ重罪及輕罪ヲ犯ス所爲ノ手段トナシ又ハ已ニ犯シタル罪ヲ免カル、所爲ノ手段トシタル場合ヲ指示スルニ止マルモノトナスヲ以テ最モ能ク理論ニ適シ又實際ノ便宜ニ合スルモノト信スルナリ

(第四) 人ヲ殺スノ意ニ出テ詐稱透導シテ危害ニ陥レ依テ死ニ致シタルモノハ豫謀ノ有無ニヨリ謀殺若クハ故殺ノ罪ニ處ス(第二百九十七條)是レ素ヨリ特別ノ規定ヲ待テ而シテ後明カナルニアラス苟モ人ヲ殺スノ意思ヲ以テ豫謀ノ餘人ヲ危害ノ地ニ誘導シ依テ之ヲ殺害シタル以上ハ其之ヲ謀殺罪トナスヘキコトハ第二百九十七條ノ規定ヲ待テ後知ルヘキニアラサルナリ之ニ反シテ一時ノ

感激ニ出テ之ヲ殺害シタルモノハ縱令如何ナル場合ニ於テナスモ素ヨリ故殺罪ニ問フヘキモノナルヲ以テ第二百九十七條ノ規定ノ如キハ我老練ナル立法官ガ得意ノ老婆心ヨリ念ノ爲メ吾人ニ注意セラレタル法文タルニ過キサルナリ

(第五) 誤殺 誤殺トハ謀殺又ハ故殺ヲ實行セント欲シ其目的物ヲ誤リ他人ヲ殺害シタル場合ヲ云フ然レトモ是亦念ノ爲メノ法文タルニ過キサルヘシ蓋シ一般犯罪ヲ行ハントシ其目的物ヲ誤ルコトアルモ苟モ其目的物ニシテ能力アルト

キハ加害者毫モ其責ヲ辞スル能ハサルコト勿論ナレハナリ夫レ斯ノ如ク現行刑法ニ於テハ殺人罪ノ種類ヲ枚擧シタリト雖モ今之ヲ學理上ヨリ區別スルトキハ此等ノ殺人罪ハ湊合一括之ヲ謀殺及故殺ノ二種中ニ排置スルコトヲ得ヘシ故ニ其之ヲ細別スルカ如キハ敢テ學理ノ當ヲ得タルモノニアラスシテ唯タ沿革上ノ習慣ニヨルモノタルニ過キサルナリ以上數種ノ謀故殺罪ノ外尙ホ子殺及決闘ノ罪ヲ以テ別種ノ殺人罪トナシ通常ノ謀故殺罪ヨリ減等シタル輕刑ヲ以テ之ヲ罪スルノ邦國ナキニアラス然レトモ本

邦現行ノ法ニ於テハ敢テ之カ類ニ倣フコトナク全然理論ヲ根據トシ盡ク之ヲ謀殺若クハ故殺ノ罪ニ問フヘキモノトセリ唯其親ヲ毆打シ死ニ致シタルモノヲ以テ死刑ニ處スルハ頗ル苛酷ニ失スルカ如シト雖モ是我現行刑法上所謂祖父母母ニ對スル罪ヲ特種ノ一罪トスルヲ以テノ故ナルヘシ蓋シ決闘ノ如キハ本邦ニ於テハ未タ其慣習ノ存スルモノナキヲ以テ特ニ刑法ニ於テ寬典ニ處スルカ如キコトアランニハ却テ此惡習ヲ發達セシムルノ弊害ヲ生スルナキヲ期セス我立法官カ特ニ此等ノ罪ヲ設クルコトナク通常ノ謀故殺ヲ以テ其罪ヲ處斷スヘキモノトセルハ實ニ妥當ヲ得タルモノト謂フヘシ

抑モ決闘ハ法律上ノ事實ヨリ之ヲ考察スルトキハ承諾ニ出テタル謀故殺ナリトス然レトモ苟クモ生命ニシテ賣買讓與スヘカラサルモノナリトセハ承諾ノ有無ハ決シテ謀故殺タルコトヲ妨ケ得ヘキモノニアラサルナリ歐洲大陸諸國ニ於テハ熱血ヲ以テ恥辱ヲ洗滌スヘシト云ヘル封建時代ノ餘習今尙ホ人心ヲ脱セス因襲ノ久シキ法律モ亦遂ニ之ヲ制止スルコト能ハス或ハ法律上之ヲ一種ノ特別罪トスル獨逸刑法アリ或ハ又法律ノ規定ニ拘ハラズ事ノ實際ニ於テハ殆ント之レ

ヲ無罪視スル佛國法制ノ如キアリ然レトモ今暫ク理論ノ正ニ依テ論スレハ決シテ此等ノ惡習ヲ容ルヘキニアラサルコト素ヨリ論ヲ俟タス蓋シ決闘ヲ罰スルニ輕少ノ刑ヲ以テスヘシト主張スル論者ハ決闘ヲ以テ單ニ毀損セラレタル名譽ヲ回復シ又ハ其他損害ヲ満足シ或ハ又復讐ノ目的ニ出ツルモノトナシ以テ其說ヲ保持セント欲スレトモ左ノ理由ヲ觀察スルトキハ其說ノ誤認ニシテ取ルニ足ラサルコト明ケン

(第一)決闘ハ必ラスシモ一定ノ目的就中名譽回復又ハ復讐等ノ目的アルヘキモノニアラス

(第二)縱令又一步ヲ譲リ假リニ此等ノ目的アリトナスモ名譽ハ必ラスシモ腕力ト併行スヘキモノニアラス劣等破廉耻ノ人民モ尙ホ且ツ決闘ヲ好ムノミナラス名譽ヲ毀損セラレタル決闘者ニシテ往々却テ反撃ヲ受ケ失敗ヲ重ヌルモノ敢テ少ナシトセス又復讐ヲ以テ法律上許容スヘキモノトナストキハ單ニ決闘ノ場合ノミニ止マラス謀殺罪ノ過半ヲ占ムヘキ復讐モ亦之ヲ特別ノ一罪トナサ、ルヲ得サルニ至ルヘシ



第二節 自殺ニ關スル罪

自殺ニ關スル罪ハ刑法第三百二十條及三百二十一條ノ兩條ニアリテ別ニ了解シ難キ條項ニアラサルナリ自殺ハ刑法上果シテ犯罪トナルモノナルヤ否ヤニ就テハ余既ニ之レヲ汎論ノ講義ニ於テ畧述シタルカ如ク元來自殺ナルモノハ自ラ我カ生命ヲ奪却スルノ所爲ナルヲ以テ法律上決シテ之ヲ罰スヘキモノニアラス何トナレハ元來國家ハ吾人々民ヲシテ強テ生存セシムルノ權利ヲ有スルモノニアラサレハナリ故ニ各國ノ法律多クハ皆自殺ヲ以テ法律上罰スヘキモノニアラストセリ然レトモ之ヲ生命ニ對スルノ犯罪トナサスシテ全ク他ノ關係ヨリ罰スルコトアルハ敢テ不可ナルコトナカルヘシ例ヘハ自殺ノ非常ニ流行スル國アリトセンカ政畧上自殺ヲ禁止スルノ目的ヲ以テ之ヲ處罰スルコトアルヘシ曠昔我邦ニ於テモ亦自殺ノ流行セルコトアリシカ是唯制服ヲ尙ヒテ日本男兒ノ英風ナリトセルコトニシアレハ風俗ノ黠ヨリ之ヲ禁スルハ敢テ妨クル所アルヲ見サルナリ

若シ夫レ自殺ヲ罰スヘシトスルモ犯罪人自ラ既ニ死去シタルモノナレハ毫モ刑罰ヲ科スルノ道ナカルヘク學者ノ自殺ヲ罰スヘシトナスハ唯机上ノ空論タルニ過ギサルナリ故ニ強テ自殺者ヲ罰スヘシトセハ其之ヲ罰シ得ヘキモノハ即チ自殺ノ已遂犯ニアラスシテ寧ロ自殺ノ未遂犯ナリトス然レトモ已遂犯ヲ罰セスシテ却テ其未遂犯ヲ罰スルニ至テハ理論上大ニ權衡ヲ失フモノト云ハサルヘカラス況ンヤ統計學上ヨリ觀察スルトキハ自殺犯者ハ概シテ精神錯亂者ナルニ於テチヤ夫レ何ヲ苦ンテカ之ヲ罰スルノ必要アラシヤ

夫レ然リ然レトモ今暫ク法律上ノ論ヲ措キ宗教法上ヨリ之ヲ論スルトキハ古來自殺ヲ以テ罰スヘキノ犯罪トセリ何トナレハ宗教法ニ於テハ吾人生命ヲ以テ天授ニ出ルモノトシ吾人ハ隨意ニ之ヲ奪却シ能ハサルモノトスルヲ以テ自殺ハ天神ニ對スルノ犯罪トナシ之ヲ罰スルニ破門ノ刑ヲ以テセリ

以上講述セルカ如ク自殺ハ決シテ法律上罰スヘキ犯罪ニアラストセハ之カ教唆者ノ如キハ素ヨリ處罰スルコトヲ得サルヘシ何トナレハ本犯罪ナクシテ而シテ教唆者ニ罪アルノ道理ナクハナリ從犯ノ如キモ亦タ然リトス左レトモ自殺ニ付テハ教唆者及從犯ノ外亦一種ノ幫助者アリ即チ自殺ヲ行フモノ、爲メ現ニ手

チ下スモノ是ナリ例ヘハ自殺チ企ツルモノ自ラ死セント欲スルモ死スルコト能ハサルニ方リ夫ノ所謂介錯チナスモノ、如シ是素ヨリ純然タル謀殺犯ナリトス何トナレハ自殺ナルモノハ文辞自体ノ明示スルカ如ク自ラ自己ノ生命チ奪却スルノ所爲ナレハ夫ノ所謂介錯ノ如キ他人ノ生命チ奪却スルノ所爲ハ其承諾ノ有無チ論セス素ヨリ自殺タルヘキニアラサレハナリ故ニ夫ノ情死ナルモノハ是レ亦純然タル謀殺罪ナリトス何トナレハ生命チ讓與スルノ承諾ハ法律上有レトモ無キカ如ク毫モ其効力チ有スヘキモノニアラサレハナリ然レトモ我立法官ハ古來ノ習慣チ斟酌セタルモノナラシカ刑法第三百二十條ニ於テ人チ教唆シテ自殺セシメ又ハ囑托チ受ケテ自殺人ノ爲メニ手チ下シタルモノハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金チ附加ス其他自殺ノ補助チ爲シタルモノハ一等チ減ス下規定シ理論上毫モ罰スヘキモノニアラサルノ教唆者チ罰シ嚴然タル謀殺犯者チ罰スルニ輕刑チ以テシ自殺ノ幫助チナシタル從犯者チ以テ二等チ減スヘキモノトセラレタルハ余ノ頗ル怪訝ニ堪ヘサル所ナリ

第三百二十一條ニハ自己ノ利チ圖リ人チ教唆シテ自殺セシメタルモノハ重懲役

過失殺

第三節 過失殺

ニ處スヘキモノトナシタレトモ是レ敢テ了解シ難キノ條項ニモアラサレハ余ハ直チニ進ンテ過失殺傷ノコトチ述フヘシ

凡ソ過失殺ニハ數種アリ即チ故意チキ場合及罪トナルヘキ事實チ知ラス過怠ニヨリ人ヲ死ニ致シタル場合ノ如キ是レナリ現行刑法第三百十七條ニ於テ此罪チ罰スルニ唯タ二十圓以上二百圓以下ノ罰金チ以テシタルハ頗ル輕易ニ失スルノ嫌チキ能ハス元來羅馬カトリック宗派ノ法律ニ在テハ人ノ意思ニ重キチ置キ其結果タル所爲ノ如何チ問フコト少ナシ是故ニ佛國法ノ如キモ亦其成蹟チ問フコトチキナリ數年前ノ事ナリシ夫ノドレーキカノルマントシ號漁船ノ指揮チ誤リ四十餘人チ死ニ致シタルニ依リ英國裁判所ニ於テ之チ四ヶ月ノ禁錮ニ處シタル所以ノモノハ蓋シ英國ノ法律ナルチ以テナリ若シ夫レ我現行刑法ノ如キハ素ト全ク羅馬カトリック宗派ノ法律ナルチ以テ四ヶ月ノ禁錮ハ勿論二百圓以上ノ罰金チモ科スルコト能ハサルヘシ諸君試ミニ思ヘ當時有名ナル夫ノ百貫九ノ事件ノ如キハ僅カニ百圓ノ罰金チ以テ落着シタルニアラスヤ蓋シ百貫九事件ノ如キ

ハ白晝人ヲ殺害シタルモノナレハ夫ノ「ノルマントン」號事件ト日ヲ同フテ論スヘキ瑣々タルモノニアラサルナリ然ルニ其罰トスル所ハ僅カニ百圓ノ罰金ニ過キス羅馬「カトリック」宗派ノ法律ノ不都合ナル又推シテ知ルヘキナリ

借又所謂過怠トハ即チ疎虞懈怠ヲ指示スルモノニシテ其何物タルヤニ至リテハ已ニ汎論ニ於テ詳述シタルヲ以テ今又茲ニ贅セスト雖モ過失殺ノ罪ハ全ク犯者ノ知ラサリシ結果ヲ以テ其罪ヲ斷スルモノナレハ特ニ刑事訴訟上原因結果ノ連結ヲ詳ニスルコト容易ナラサルナリ蓋シ過怠ノ所爲ヨリ死亡ノ結果ヲ來タスニ至ルノ間多少ノ年月ヲ經過シ或ハ其間他ノ病症ニ變化スル等ノ情況ヨリシテ其終局ノ結果ハ裁判ノ當時ニ於テ未タ知ルヘカラサルモノ少ナカラスト雖モ唯タ此等ノ場合ニ於テハ其當時ニ存スル所ノ情況ニ從ヒ之カ判定ヲ下スノ外ナシ

墮胎罪

第四節 墮胎罪

墮胎ノ罪タル之ヲ詳論スルノ必要ナキヲ以テ余ハ之ヲ略述スルニ止ムヘシ抑モ墮胎ノ罪トハ不正ニ婦女ノ胚胎若クハ胎兒ヲ殺スノ意思ヲ以テ之ヲ墮シ若クハ之ヲ殺スノ所爲ヲ云フ刑法第三百三十條ニ曰ク懷胎ノ婦女藥物其他ノ方法ヲ以

テ墮胎シタルモノハ云々ト又其三百三十一條ニ曰ク藥物其他ノ方法ヲ以テ墮胎セシメタル者ハ云々ト蓋シ我刑法ノ規定上ヨリ觀察スルトキハ墮胎ノ犯罪ニハ其主體タルヘキモノニ婦女ト他人トフ二者アルコトヲ記憶セサルヘカラス即チ第三百三十三條ハ醫師穩婆若クハ藥商等ノ此罪ヲ犯シタル場合ニシテ第三百三十四條ハ他人ノ此罪ヲ犯シタル場合ナリトス而シテ墮胎罪ノ物體タルヘキモノハ婦女ノ胎内ニ存スル生命アル胚胎又ハ胎兒ナリ是故ニ既ニ生命ナキ胚胎若クハ胎兒又ハ已ニ出産シタル小兒(母體ヲ出テ、外氣ヲ呼)ハ決シテ此犯罪ノ物體タルコトヲ得サルモノト知ルヘシ

學者或ハ曰ク墮胎罪ナルモノハ實ニ生命アル胚胎若クハ胎兒ヲ墮シ又ハ殺スノ所爲ナリト雖モ又決シテ我刑法ノ如ク之レヲ生命ニ對スルノ罪ニ列スヘキモノニアラス何トナレハ殺人罪ナルモノハ素ト人ノ生命ヲ奪却スルモノナレハ胚胎若クハ胎兒ノ生命ヲ奪却スルノ所爲ニシテ之ヲ人ノ生命ニ對スルノ罪トナスヘカラサルニ似タリト然レトモ胚胎若クハ胎兒ニシテ苟モ財產ニアラサル以上ハ先ツ之ヲ生命ニ對スル罪ニ列スルヲ以テ稍ヤ理論ニ適合スルモノト云ハサルヘ

カラス而シテ學者中又此區別ニ從フモノ敢テ少ナキニアラサルナリ  
 墮胎罪ノ所爲ハ胚胎若クハ胎兒ノ生命ヲ奪却スルニアリトス故ニ單ニ之ヲ引キ  
 出スノ所爲ノ如キハ亦之ヲ墮胎ノ所爲ト見ルヘキカ如シト雖モ決シテ然ラス苟  
 モ胚胎若クハ胎兒ノ生命ヲ奪却スル以上ハ之ヲ引キ出サ、ルモ尙ホ能ク墮胎罪  
 ナ成立スヘク又之ヲ引キ出スモ苟クモ胚胎若クハ胎兒ニシテ生命アル以上ハ決  
 シテ墮胎罪トナルヘキモノニアラス之ヲ要スルニ墮胎ノ罪タル胚胎又ハ胎兒ノ  
 生命ヲ奪却スルノ所爲ニ依テ成立スルモノナリ夫レ然リ故ニ假令又之ヲ殺スモ  
 苟モ胚胎若クハ胎兒ヲ殺スノ意思ヲ以テ之ヲ爲シタルニアラサレハ決シテ墮胎  
 罪ヲ以テ論スヘキモノニアラス從テ單ニ胎兒ヲシテ分娩ノ期ニ先ダチ安全ニ出  
 産セシメントスルノ意思ヲ以テ之ヲ爲シタル場合ノ如キハ決シテ罪トナルヘキ  
 所爲アルコトナシ又ハ假令之ヲ殺スノ意思アルモ苟クモ其所爲ニシテ正當即チ  
 法律上認めタル權利アルトキハ毫モ此罪ヲ構成スルモノニアラス例ヘバ産科醫  
 カ治術上胎兒ヲ殺ス場合ノ如キ即チ是レナリ然レトモ若シ胚胎若クハ胎兒ヲ殺  
 スノ意思ヲ以テ婦女ヲ毆打シタルニ胎兒爲メニ出産シテ生存シタルトキハ刑法

上果シテ如何ニ之レヲ處斷スヘキヤト云フニ是全ク墮胎罪ノ未遂犯ナリト云ハ  
 サルヘカラス今若シ一步ヲ進メテ之ヲ論ゼンカ茲ニ惡漢アリ婦女ヲ毆打シ爲メ  
 ニ其胎兒ノ出産ヲ致サシメ其胎兒若シ暫時ニシテ毆打ノ所爲ニヨリテ蒙リタル  
 餘害ノ爲メニ死去シタリトセハ果シテ如何ニ之ヲ處分スヘキヤ墮胎罪トナサン  
 カ其所爲ハ決シテ胚胎又ハ胎兒ヲ殺シタルモノニアラス何トナレハ胚胎若クハ  
 胎兒ニシテ既ニ母体ヨリ出産シタル以上ハ是決シテ胚胎若クハ胎兒ニアラスシ  
 テ業已ニ人間トナリタルモノナレハナリ豈ニ之ヲ墮胎罪ニ處スルコトヲ得ンヤ  
 然ラハ則チ之ヲ殺人ノ罪ニ擬セシカ其所爲又決シテ人間ノ生命ヲ奪却シタルモ  
 ノニアラス爰シテ之ヲ以テ謀故殺ノ罪トナスコトヲ得ンヤ畢竟スルニ此點ニ付  
 テハ我刑法上別ニ之ヲ罰スヘキノ正條アルヲ見サレハ宜シク之ヲ無罪トナサ、  
 ルヲ得サルヘシ  
 之ヲ要スルニ墮胎ノ罪タルヤ胚胎若クハ胎兒ヲ殺スノ意思ヲ以テ不正ニ胚胎又  
 ハ胎兒ヲ殺スニ依テ成立シ必スシモ母体中ヨリ之ヲ分離スルコトヲ要セスト雖  
 モ墮胎ノ場合ニ於テハ概ネ皆之レヲ墮胎スルヲ以テ通常トス是故ニ此犯罪タル

ヤ其生命ヲ絶チタルノ時ニ於テ始メテ已遂犯トナルヘキモノニシテ縱令胎兒ヲ母体ヨリ脱落セシムルモ仍ホ其生命ヲ全フシタルトキハ唯其未遂犯タルニ過キサルヘシ然レドモ我刑法ハ此罪ニ關シテ特ニ未遂犯ヲ罰スルノ條ヲ設クルコトナケレバ即チ之ヲ無罪トナスノ外ナカルヘシト信ス

借又此罪ニ對スル刑罰ハ犯罪ノ主体手段及結果ノ如何ニヨリテ多少相異ナルモノアリト雖モ刑法第三百三十條以下同三十五條ニ至ルマテ五ヶ條ヲ通讀セハ諸君之ヲ知ルコト敢テ難キニアラサルヘク故ニ辯明ヲ費ヤスノ必要ナケレハ余ハ更ニ進ンデ身体ニ對スル罪ニ就キ聊カ講述ノ勞ヲ執ラント欲ス

第二章 身体ニ對スル罪

抑モ身体ニ對スル罪トハ總テ權利ナクシテ身体ノ健全ヲ傷害スルノ所爲ヲ包含スルモノナリ然レドモ我刑法起草者ハ身体ト生命トヲ混淆同一視シタルヲ以テ身軀ニ對スル罪トナルヘキモノモ尙ホ且ツ之レヲ生命ニ對スル罪ニ排置シタルカ故ニ我刑法上ヨリ之ヲ論スルトキハ此種ノ罪ノ範圍頗ル狹隘ニシテ單ニ之ヲ毆打創傷ノ罪及人ヲ疾苦セシムルノ罪ニ止メタレハ結局他ノ文明諸國ニ在テハ

身体ニ對スル罪

罪トシテ論スル幾多ノ所爲ヲモ罰スルコト能ハサルニ至レリ今先ツ毆打創傷ノ罪ヨリ講起セン

第一節 毆打創傷ノ罪

借毆打創傷トハ果シテ如何ナル所爲ヲ指スモノナルヤ我刑法ノ成文上ヨリ之ヲ論スルトキハ刑法第二百九十九條ニ人ヲ毆打創傷シタルモノハ云々トアルノミナルヲ以テ毫モ之ヲ解スルコト能ハサルヘシト雖モ今夫レ毆打創傷ナル文辞上ヨリ嚴格ノ解釋ヲ下ストキハ身体ニ對スル幾多無數ノ傷害的所爲ヲ罰スルコト能ハサルニ至ルヘシ是故ニ學理上ヨリ此罪ノ名稱ヲ附セント欲セハ毆打創傷ノ罪ト言ハンヨリハ寧ロ之ヲ身体傷害ハ罪ト云フノ明瞭ニシテ且ツ廣泛ナルニ若カサルナリ然レトモ是唯タ理論上ノ談ノミ若シ夫レ我刑法ノ擬律上ヨリ之ヲ論スルトキハ理論上縱令身体傷害ノ罪ト認ムヘキモノニテモ苟モ毆打創傷ヲ致シタルモノニアラサレハ到底毆打創傷ノ罪ヲ以テ論シ第二百九十九條ノ條文ニ擬スルコト能ハサルヘシ何トナレハ我刑法ニ於テハ明カニ此罪ノ手段ヲ局限シテ之ヲ毆打ノ一所爲ニ止メタレハナリ然レトモ理論上ヨリ觀察スルトキハ身体傷

毆打創傷ノ罪

害罪ノ手段タルヤ敢テ殴打ノ一所爲ニ限ル者ニアラスシテ苟モ不正ノ暴行ニ出ツルモノハ悉ク之ヲ身体傷害ノ罪ニ擬スルニ吝ナラス故ニ例ヘハ會テ補正成カ赤坂城下ニ敵兵ヲ苦メタル夫ノ熱湯又ハ熱糞ヲ灌キタル所爲ノ如キ又ハ他人ノ身体ニ硫酸若クハ硝酸ヲ注射シテ之ヲ腐爛セシムルカ如キ我刑法上ヨリ極論スルトキハ決シテ之ヲ殴打創傷ノ罪ニ擬スルコト能ハサルヘシ何トナレバ如何ナル牽強附會ヲ逞フスルノ論者ト雖モ熱湯若クハ硫酸ヲ以テ鐵棒ト同一視シ湯棒若クハ硫酸棒ヲ以テ殴打シタルモノトハ論スルコト能ハサレハナリ然レトモ今暫ク我刑法ノ規定ヲ離レテ單純ナル學術上ノ理論ヨリ觀察スルトキハ熱湯若クハ硫酸等ヲ灌キ掛クルカ如キハ是猶ホ鐵拳ヲ揮テ他人ヲ殴打シ小刀ヲ以テ肢体ヲ斬傷スルト一般等シク不正ノ暴行ナレハ斷シテ之ヲ身体傷害ノ罪ニ問フチ得ヘキナリ

之ヲ要スルニ我刑法カ殴打創傷ノ文字ヲ用ヒテ此罪ノ手段ヲ殴打ノ一所爲ニ限定シタルハ適用上頗ル不都合ヲ生スヘク幾多無數ノ傷害的所爲ヲ罰スルコト能ハサルニ至ルヘケレバ寧ロ學術的ニ一般ノ理論ニ從テ汎ク不正ノ暴行ヲ以テ之カ手段ト解スルノ正且便ナルニ若カサルナリ否ナ此ノ如ク學術的ニ一般ノ理論ニ從テ汎ク不正ノ暴行ヲ以テ此罪ノ手段ト解スルモ尙ホ且未タ狹隘タルヲ免レサルコトアリ例ヘハ印度刑法ニ引援シタル例證ノ如ク他人ノ入浴中急ニ熱湯ヲ其浴室中ニ注入シ爲メニ其身体ヲ燒腐セシメタルトキノ如キ決シテ之ヲ暴行ナリト云フコトヲ得サルヘシ又或ハ他人ノ乘馬通行スルヲ見手ヲ舉ケテ其馬ヲ驚カシ爲メニ其人ヲ落馬セシメタルトキノ如キモ亦等シク之ヲ暴行ナリト云フコトヲ得サルヘシ又一層極端ノ例證ヲ示サンカ茲ニ一小舟ヲ浮ヘテ釣ヲ垂レ太公望ヲ氣取リテ餘念ナキモノアリ然ルニ若シ惡漢アリ來テ其舟ヲ流失セシムルノ目的ヲ以テ小舟ヲ繫クノ網繩ヲ絶テ激流ニ任シテ岩礁ニ衝突セシメ爲メニ其人ノ死ヲ來タシタルトキノ如キ是又決シテ不正ノ暴行トナスヲ得サルヘシ此ノ如ク幾多無數ノ殴打ニアラサル所爲ニヨリテ他人ノ身体ニ傷害ヲ致シタルモノヲ處スルニ殴打創傷ノ罪ヲ以テスルハ頗ル不當ノ太甚シキモノニシテ之ヲ解スル又頗ル牽強附會ノ說ヲ用非サルヘカラサルヘシ然レトモ我國法官ハ決シテ斯ル牽強附會ノ解說ヲ許スコトナカルヘシ論者或ハ日本刑法ノ規定ノ如クニシテ始メ

テ能ク安寧ヲ保護スルコトヲ得ヘシト説クモリナキニアラスト雖モ是レ唯ター  
 場ノ謠言ノミ到底信スヘキニアラサルナリ  
 又創傷トハ如何ナルコトヲ云ヌヤ是レ等シク曖昧ナル文辭ニシテ解シ易カラサ  
 ルナリ學者或ハ創傷ヲ解シテ身体ノ健全ヲ害スヘキ生理的ノ顯象ナリトナス者  
 アリ而シテ茲ニ所謂生理的ノ顯象トハ刀ヲ以テ人ヲ斬リ爲メニ出血ヲ來タシ鐵  
 拳ヲ揮ツテ人ヲ毆打シ爲メニ瘤ヲ生セシメ或ハ黒痕ヲ出サシムルカ如キ生理上  
 自然ニ發生スヘキ結果ヲ云フ故ニ此説ニ從フトキハ或ハ人ノ頭髮ヲ切斷シ或ハ  
 人ノ指甲ヲ切割スルカ如キハ決シテ之ヲ創傷トナスコト能ハサルヘシ但シマ  
 エル氏及其他ノ學者或ハ之ニ反對ヲ唱フルノ徒ナキニアラスト雖モ我刑法ニ於  
 テハ之ヲ以テ創傷トナスヤ否ヤヲ論スルニモ及ハス單ニ之ヲ毆打ニアラストナ  
 スヲ得ヘシ何トナレハ此等ノ暴行ハ毫モ身体ニ痛苦ヲ感セシムルコトナケレハ  
 且ツ夫レ毆打ノ所爲タルヤ權利ヲ侵シテ之ヲ行フタルトキニアラサレハ罪トナ  
 ルヘキモノニアラスト即チ承諾ニ出テタルヲ毆打ハ決シテ此罪ヲ成立スヘキニア

ラサルナリ故ニ此罪ニ關シテハ法律カ各人ニ向テ自由ニ此權利ヲ放棄スルコト  
 ナ許シタルモノト云フテ可ナリ例ヘハ夫ノ角力若クハ擊劍ノ如キ決シテ毆打罪  
 ナ構成スヘキモノニアラスト又夫ノ外科醫若クハ其他按摩ノ如キ被害者ノ承諾ヲ  
 得テ毆打シ或ハ父母其他ノ親族カ其子孫ヲ懲戒スルカ爲メニ之ヲ毆打スルカ如  
 キハ法律上ニ允諾シタル權利ヲ實行スルモノニ過キサレハ決シテ罪トナルヘキ  
 モノニアラスト論者往々惡意ノ何物タルヲ解セスシテ單ニ惡意ナキノ故ヲ以テ此  
 等ノ所爲ナシテ不論罪タラシメントスルモノナキニアラスト雖モ元來毆打ノ罪  
 タル故意アルヲ以テ足レリトナシ敢テ特更ラニ惡意ノ存在ヲ必要トナスモノニ  
 アラスト故ニ此等ノ權利者若クハ被害者ノ承諾ナク又ハ權利若クハ承諾アルモ其  
 權利ヲ超越シ又ハ承諾ノ範圍外ニ於テ人ヲ毆打シタルトキハ假令ヒ善意ニ出テ  
 タルトキト雖モ仍ホ此罪ヲ成立スルニ充分ナリトス  
 然レトモ承諾ノ事ニ關シ茲ニ一言セサルヘカラサルモノアリ即チ承諾ニ出テタ  
 ル所爲ヨリシテ過テ人ヲ死ニ致スコトアリ例ヘハ角力ヲナシ一方ヲ抛ケ殺シタ  
 ルトキノ如キ如何ンカ之ヲ處斷シテ可ナルヤ到底之ヲ第二百九十四條ニ依テ罰

スルコトヲ得サルヘシ唯タ此場合ニハ純然タル過失殺ニ擬スルノ外ナカルヘシ  
 父母カ子孫ヲ懲戒スルニ出テ過テ之ヲ殺シタルトキノ如キ亦同シ  
 而シテ我刑法ハ毆打創傷ノ罪ニ該當スヘキ刑罰ヲ定ムルニ付テハ其結果ノ大小  
 如何ニヨリテ之ヲ定メタルモノ、如シ則チ我刑法第二百九十九條以下ノ諸條ヲ  
 通讀セハ辯セヌシテ明カナリ然レトモ茲ニ又一言辯明ノ勞ヲ執ラサルヘカラサ  
 ルモノアリ則チ我カ刑法第三百條ニ所謂篤疾ト瘖疾トノ別是ナリ若シ夫レ人ヲ  
 毆打シテ兩目ヲ瞎シ兩耳ヲ聾シ兩肢ヲ切り舌ヲ斷チ陰陽ヲ毀損シ若クハ知覺精  
 神ヲ喪失セシメタルトキハ之ヲ篤疾ト云ヒ唯單ニ其一方ノミヲ害シタルトキハ  
 之ヲ瘖疾トハ云フ故ニ若シ一目ノモノ、一目ヲ瞎シ一耳ノモノ、一耳ヲ聾シ若  
 クハ盲目ノモノ、兩目ヲ瞎シ聾耳ノモノ、兩耳ヲ切りタルトキハ如何矢張り之  
 ヲ瘖疾トナシ若クハ之レヲ篤疾トナスノ外ナカルヘシ是一應尤モナルカ如シト  
 雖モ又大ニ注意セサルヘカラサルモノアリ則チ其毆打ノ所爲ノ巧拙ニ依テ其結  
 果ノ大小其疾ノ篤疾タルト瘖疾タルトニ論ナク大ニ刑ノ權衡ヲ失フコトアルヘ  
 シ例ヘハ兩目ヲ瞎シ若クハ兩耳ヲ聾スルハ却テ一目ヲ瞎シ一耳ヲ聾シ一手ヲ切

リ一足ヲ折リ齒ヲ抜キ及肛丸ヲ脱セシムル害ノ重且大ナルニ若カサルヘシ左レ  
 トモ刑法ノ成文上ヨリ嚴格ノ解釋ヲ下ストキハ前者ニ在テ其害ノ比較的ニ輕小  
 ナルニモ拘ハラス尙ホ且ツ篤疾トシテ其刑ヲ重フシ後者ニ於テハ其害ノ比較的  
 ニ重大ナルニモ拘ハラス却テ瘖疾トシテ其刑ヲ輕フス刑ノ不權衡モ亦極マレリ  
 ト云フヘシ  
 夫レ斯ノ如ク我刑法ニ於テハ專ラ結果ニ依テ創傷ノ刑ヲ定メタルカ故ニ治罪上  
 往々ニシテ不都合ヲ生スルコトアルヘキハ猶過失殺ノ場合ト同シカルヘク又正  
 當防衛ニ關スル不論罪及挑發ニ就テノ宥恕減輕ハ敢テ殺人罪ノ場合ニ異ナルコ  
 トナシト雖モ法律ハ毆打創傷ノ罪ニ就キ特ニ共犯例ヲ設ケタリ余ハ之ヲ以テ學  
 理ニ適スルモノト認ムルコトヲ得サルモ左ニ其規定ヲ畧述スヘシ  
 (一) 一般ノ共犯例ニ依レハ共犯ノ所爲ヨリ發生スル結果ハ各自ニ其全部ヲ負擔  
 セサルヘカラサルヲ以テ通則トスレトモ毆打創傷罪ニ於テハ意外ノ結果ニヨリ  
 罪ニ輕重アルヘキモノナルカ故ニ我刑法ニ於テハ此原則ヲ打破シテ第三百五條  
 ニ二人以上共ニ人ヲ毆打創傷シタルモノハ現ニ手ヲ下シ傷ヲ爲シタルノ輕重ニ



從ヒ各自ニ其刑ヲ科ス」ト規定セリ是故ニ各自ノ從犯及教唆者ハ總則ニ依リ各正犯ノ刑ニ從ヒ處分セラルヘキモ共犯全体ノ從犯ハ總則ニ從ヒ全事件ノ從犯タルヘキヲ以テ却テ正犯ヨリ重キ刑罰ヲ受クルカ如キ不權衡ヲ來タスヘキヲ以テ我刑法ハ遂ニ又特例ヲ設ケテ第三百六條ニ二人以上共ニ人ヲ毆打スルニ當リ自ラ人ヲ傷セスト雖モ幫助シテ傷ヲ成シタルモノハ現ニ傷ヲ成シタル者ノ刑ニ一等ヲ減スヘキモノト定メタリ然レトモ共犯全体ノ教唆者ニ至リテハ總則ニ從ヒ常ニ正犯中ノ重キモノニ從ヒ處斷セラル、不幸アルヲ免レス

(二) 又我刑法ハ前項ノ場合ニ於テ若シ傷ヲナスノ輕重ヲ知ルコト能サル時ハ重傷ノ刑ニ從ヒ一等ヲ減スヘキモノト定メタルヲ以テ(第三百五條末文)現ニ輕傷ヲ負ハシメタルモノハ往々他ノ共犯人ノ爲メニ重キ刑ヲ科セラルヘシ之ヲ前項ノ例ニ照ストキハ不權衡ノ嫌ナキ能ハサルナリ然レトモ總則ニ從ヒ之ヲ處分スルヨリ寧ロ寛大ノ刑ヲ受クルモノト云ハサルヲ得ズ但シ我刑法ハ共犯一般ノ教唆者ニ就テハ此減等ヲ許サルモノト解セサルヘカラス

第二節 人ヲ疾苦セシムルノ罪

人ヲ疾苦セシムルノ罪

本罪モ亦身體傷害罪ノ一種ニシテ我刑法ノ定義ニ從ヘハ健康ヲ害スヘキ物品ヲ施用シテ人ヲ疾苦セシムルノ所爲ナリ(第三百七條)

理論上ヨリ云ストキハ如何ナル手段タルヲ問ハス凡ソ人ヲ疾苦セシムルノ所爲ハ本罪ヲ成立スヘキモノトスルヲ以テ適當トスレトモ我刑法ハ特ニ健康ヲ害スヘキ物品ヲ施用スルコトヲ必要トスルカ故ニ大ニ其ノ適用ノ區域ヲ狹隘ナラシメタリ抑モ法律ニ於テ健康ヲ害スヘキ物品ヲ以テ云々ト規定セル以上ハ分量ノ多少ニ係ハラス其ノ性質健康ヲ害スルニ足ルヘキモノニアラサレハ本罪ノ手段タルコトヲ得サルヘシ故ニ多量ノ清水清酒等ヲ飲マシメ人ヲ疾苦セシムルモ決シテ此罪ヲ構成スヘキモノニアラス但シ法文ノ所謂施用トハ内服外用ノ別ヲ問ハサルノ意ナルヘシ

此犯罪ノ所爲ハ人ヲ疾苦セシムルニアリ而シテ其ノ所謂疾苦トハ創傷ノ所爲ヲモ包含スヘシト雖此場合ニ於テハ唯タ身體内部ノ創傷タルニ過キサルヘシ例ヘハ硫酸ノ如キ劇藥ヲ人體ニ散布シテ身體ヲ腐蝕セシメタルモノハ毆打創傷ノ罪タルヘキモ若シ之ヲ内服セシメタルトキハ此罪ヲ構成スヘシ

刑罰ハ第三百二條ヲ適用スヘシ豫メ謀テ人ヲ毆打創傷シタルモノ、例ニ照シテ處斷ス(第三百七條)

第三章 自由ニ對スル罪

第一節 強迫ノ罪

自由ニ對スル罪  
強迫ノ罪

強迫トハ被強迫者又ハ其親屬ニ對シ謀殺放火其他ノ暴行ノ害惡ヲ行ハンコトヲ通知スルノ所爲ヲ云フ(第三百二十六條及ヒ第三百二十八條)

強迫罪ノ被害者タルニハ害惡ノ通知ヲ受ケ及ヒ之ヲ理解スルノ能力ヲ有スル人タルコトヲ要ス三歳ノ童子ニ對シ其家屋ニ放火センコトヲ通知スルモ其害惡ノ何物タルヲ知ラサルヲ以テ強迫罪ヲ構成スルコトナカルヘシ然レトモ被害者ハ害惡ノ通知ヲ受ケ現ニ恐怖若クハ驚愕スルヲ要セス故ニ大膽不敵ノ壯夫ニ對シ暴行ヲ加ヘンコトヲ強迫スルモ尙ホ此罪ヲ構成スヘシ若シ被害者ノ驚愕ヲ以テ此犯罪構成ノ元素トスルトキハ其驚愕アリシコトヲ證明スルヲ要スルニ至ルヘシ但シ法律ニ於テハ強迫ハ常ニ之ヲ受クル者ノ安意ヲ害スヘキモノタルコトヲ推測スルヲ常トス

通知ノ所爲タルニハ被害者ニシテ強迫者ノ意思ヲ了知シタルヲ以テ充分トシ其了知ノ時ヲ以テ強迫罪ノ已遂トス故ニ人ヲ強迫スルモ被害者ニシテ未タ其意思ヲ了知セサル以上ハ此罪ヲ構成スルコトナシト雖モ此ノ通知ハ必スシモ強迫者自ラ之ヲ爲ス事ヲ要セス他人ヲシテ之ヲ通知セシムルモ亦不可ナル所ナシ蓋シ強迫罪ノ所爲ハ單ニ通知ノ所爲ニシテ身體ニ對シテ毫末ノ暴行ヲ加フルモノニアラス

強迫罪ノ手段タルニハ敢テ如何ナルモノタルヲ要セス或ハ形容ヲ以テシ或ハ兇器ヲ示シ又ハ言語文書ヲ以テスルモ凡テ害惡ヲ及ホスヘキ意思ヲ通知スルニ足ルモノナルヲ以テ充分ナリトス故ニ強迫罪ハ將來加ヘントスル所ノ害惡ニ就テノ手段ハ必スシモ能力アルヲ要セス空砲若クハ銀紙ヲ以テ掩フタル木刀ヲ以テスルモ尙ホ強迫罪ヲ構成スヘシ設例ヘハ強盜ニシテ銀箔ヲ塗りタル木刀ヲ携ヘ其罪ヲ犯ストキハ其木刀ハ單ニ強迫ノ用ヲ爲スコトヲ得ヘキ能力アルニ過キサレバ持兇器強盜ヲ以テ之ヲ論スルコトヲ得サルナリ

被害者ハ必スシモ現ニ恐怖若クハ驚愕スルヲ要セサルハ前已ニ論述シタル所ノ

如クナレトモ之ニ反シテ強迫者ハ其通知シタル害悪ノ實行ヲ被害者ニ於テ恐怖  
 シタリト思惟シタルコトヲ要ス之ヲ強迫ノ意思ト云フ故ニ戯レニ人ヲ殺サント  
 強迫スルモ其強迫者ハ被強迫者ニ於テ實行ヲ恐怖スヘシトノ意思ナキモノナル  
 ナ以テ此罪ヲ構成スルコトナシ  
 強迫罪ハ親告罪ノ一種ニシテ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スヘキモ  
 ノトス是レ此罪ノ構成ニハ強迫ノ通知ヲ被害者ニ於テ了知スルコトヲ要スルモ  
 ノナルカ故ニ被害者ノ親告ヲ待タサレハ果シテ其通知ヲ了知セタルヤ否ヲ知ル  
 コト能ハス從ツテ其罪ノ構成スルト否トヲ知ルヘカラサルニ由レリ然ルニ論者  
 往々此理ヲ誤解シ被害者ニ於テ果シテ恐怖若クハ驚愕ヲ生シタルヤ否ヲ知ルヘ  
 カラサルニ由ルモノトスレトモ被害者ノ現ニ恐怖若クハ驚愕ヲ生シタルヤ否ヤ  
 ハ強迫罪ノ問フ所ニアラサルハ已ニ論述シタル所ノ如クナルヲ以テ素ヨリ取ル  
 ニ足ルヘキ説ニアラス(第三百二十九條)我カ刑法ニ定メタル強迫罪ノ刑罰ハ左ノ  
 如シ

(一) 謀殺及ヒ住家ニ放火スル罪ヲ加ヘント通知セタルモノハ二月以上六月以

下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(二) 毆打創傷其他ノ暴行ヲ加ヘ若クハ財産ニ放火シ又ハ毀壞却掠セント通知  
 セタルモノハ二十日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰

金ヲ附加ス(第三百二十六條)

(三) 兇器ヲ持シテ強迫罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ(第三百二十八條)

逮捕監禁  
ノ罪

第三節 逮捕監禁ノ罪

逮捕監禁ノ罪トハ人ノ住居ノ撰定權ヲ不法ニ廢滅スルノ所爲ヲ云フ我刑法ニ於  
 テハ逮捕ト監禁ノ所爲トヲ分チタルモ何レモ住居ノ自由ヲ害スルモノニシテ學  
 術上ニ於テハ二者ノ間毫モ其區別アルヲ認メス(第三百二十二條)  
 犯罪ノ物體ハ住居ノ撰定ノ自由ナルヲ以テ此罪ハ毫モ身體ニ對スルモノニアラ  
 ス設例ヘハ人ノ睡眠中ニ其寢室ヲ閉鎖シ又ハ大海ノ孤岩ニ人ヲ置キ船舶ヲ奪ヒ  
 去ル場合ノ如キハ身體ニ對シテ毫モ暴行ヲ加ヘタルモノニアラス而シテ茲ニ所  
 謂住居ノ撰定トハ自由ニ自己ノ身ヲ置クノ場所ヲ指示スルモノニシテ必スモ  
 住宅ヲ移スノ意ニアラス故ニ行止進退ノ自由モ亦自ラ此住居ノ自由ニ包含スル

コト明瞭ナリ  
 犯罪タル所爲ハ或ル場所ニ拘禁シ若クハ一ノ場所ヨリ他ノ場所ニ移動スルニ成  
 レトモ此等ノ所爲ハ必スシモ直接ナルヲ要セス設例ヘハ詐僞ノ令狀ヲ發シテ人  
 ナ引致シ又ハ強迫威嚴ヲ以テスルカ如キハ之ヲ間接ニ出テタルモノト云ハサル  
 ヲ得ス而シテ其所爲ノ如何ナル程度ニ違スルヲ要スルヤ否ニ就テハ英國法ニ於  
 テハ最モ嚴密ヲ極メ往々奇異ノ斷例ヲ見ルコトナキニアラサルモ予ハ之ヲ決ス  
 ルノ標準ハ只各事實ニ應シ現ニ住居ノ自由權ヲ廢滅シタルヤ否ヤヲ定ムルノ外  
 他ニ其方法ナキモノト思惟スルナリ故ニ監禁シタル場所ノ廣狹ノ如キハ法律上  
 更ニ之ヲ問フノ必要ナシ印度刑法カ監禁ハ必ス適當ナル範圍ノ場所タルヲ要ス  
 ルモノトスルハ無用ノ法文タルニ過キサルヘシ然レトモ我刑法カ單ニ監禁ノ場  
 所ヲ以テ私家ニ限リタルハ甚タ狹隘ニ失スルノ弊ナキ能ハス如何ニ私家ノ解義  
 ナ擴張スルモ山野ノ土窟若クハ炭礦等ノ如キモノヲ包含セシムルコト能ハサル  
 ヘシ但シ此等ノ場合ハ單ニ監禁ヲ指示セルモノニ過キサルヲ以テ之ヲ逮捕ト見  
 做スハ敢テ妨ナカルヘシ

逮捕監禁ハ不法タラサルヘカラス故ニ父母其子孫ヲ懲戒スル爲メ又ハ私人ノ狂  
 者ヲ監禁スルカ如キハ法律ニ於テ其權ヲ認メタルモノトセサルヲ得ス但シ相當  
 官吏カ其職務ヲ以テ行フ場合ノ如キハ素ヨリ不法ノ所爲ニアラスト雖其不論罪  
 タルハ總則第七十六條ノ適用タルニ過キサルヘシ  
 逮捕監禁ノ罪ハ已ニ論述セル如ク住居ノ自由ヲ消滅スルノ所爲タルヲ以テ承諾  
 ニ出テタル場合ハ其權利アルモノニシテ敢テ不正ノ監禁ニアラス故ニ人ヲ監禁  
 スルモ其承諾ノ繼續スル限りハ此犯罪タルコトヲ得ス然レトモ此承諾タル必ス  
 時々刻々ニ存在セサルヲ得サルカ故ニ十日間監禁ノ承諾ヲ得テ人ヲ監禁スルモ  
 其ノ承諾ハ何時ニテモ取消スコトヲ得ヘキヲ以テ十日間監禁ノ契約ハ必スシモ  
 之ヲ履行スルコトヲ得ヘキモノニアラス  
 逮捕監禁ノ罪ハ人ノ自由ヲ廢滅スルノ故意アルコトヲ要ス懲戒ノ爲メ子孫ヲ監  
 禁スル等ノ如キハ此故意ナキヲ以テ不論罪タルニアラス法律ハ明暗ヲ問ハス父  
 母ニ其權利アリト認メタル者タルコトハ前項ニ論スル所ノ如クナレトモ若シ他  
 人ニシテ其權利ナキニ權利アリト思惟シテ監禁シタルトキハ即チ法律ヲ識ラサ

ルモノニシテ不論罪ノ限リニアラス但シ承諾ナキニ承諾アリト思惟シ又ハ盜賊ニアラサルモノヲ盜賊ト思惟シテ逮捕シタル場合ノ如キハ事實ノ不誠ニ屬スルヲ以テ第七十七條第二項ニ依リ不論罪タルヘシ學者往々惡意ツ何物タルヲ解セス此等ノ場合ヲ以テ惡意ナキ者トスレトモ漠然トシテ取ルヘキ論據アルヲ見ス此犯罪ハ往居ノ自由權ヲ全ク消滅シタルトキニ於テ始メテ已遂トナルヘシ而シテ此罪ハ敢テ時日ノ長短ヲ問ハスト雖我刑法ハ監禁日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フヘキモノトセリ然レトモ此加等ハ刑ノ加重ニアラサルヲ以テ十日ヲ過クル毎ニ別罪ヲ構成シ二十日目ニ於テハ二十日間監禁ノ罪ヲ爲シ三十日目ニ於テハ三十日間監禁ノ罪ヲ構成スヘシ但シ此場合ニ於テハ實際上若クハ想像上ノ數罪俱發ニアラス何トナレハ三十日間監禁ノ罪ハ二十日間若クハ十日間ノ監禁罪アルニアラサレハ構成スルコトヲ得サルヲ以テ其理ハ恰モ創傷ニ出テタル殺人罪ヲ以テ殺人罪ト創傷罪トノ數罪俱發トセサルニ異ナラス今各十日間ノ經過ヲ以テ別罪トスルヨリ生スル結果ヲ示スコト左ノ如シ

(一) 未タ發覺セサル監禁罪ノ實行中他ノ犯罪發覺シテ其處斷ヲ受ケ其裁判確定

ノ後ニ於テ監禁罪發覺シタルトキハ數罪俱發ノ例ニ依ラスシテ再犯加重ヲ以テ之ヲ論セサルヲ得ス設例ヘハ本年一月一日ニ人ヲ監禁シ置タルニ同月廿日盜罪發覺シテ其處斷ヲ受ケ刑期中即チ二月一日ニ於テ先キノ監禁罪發覺シタルトキハ第九十二條ヲ適用シテ之ヲ再犯加重ニ問フヘク第二百二條ヲ適用シテ之ヲ數罪俱發トスルコトヲ得ス何トナレハ此犯者ハ監禁ノ繼續犯タルニ係ハラヌ二月一日即チ盜罪處刑後ニ於テ三十日間監禁ト云ヘル一種ノ罪ヲ犯シタルモノニシテ一月一日ニ於テ犯シタル監禁罪ハ全ク別種ノ者ナレハナリ若シ又之ニ反シ一月五日ニ於テ盜罪ノ處斷ヲ受ケ同月八日即チ十日以前ニ於テ監禁罪發覺シタルトキハ數罪俱發ノ例ニ照サ、ルヲ得ス何トナレハ此場合ニ於テハ監禁罪ハ一月一日ニ已遂犯罪トナリタルモノニシテ同月十日ヲ經過スルニアラサレハ未タ別罪ヲ構成スルコトナケレハナリ

(二) 十日ヲ過キタル監禁罪ノ相續者若クハ從犯等ハ其實行日數未タ十日ヲ過キサルモ仍ホ之ヲ十日以上ノ監禁罪ニ問ハサルヘカラス例ヘハ茲ニ甲ナル者アリ人ヲ監禁シ已ニ三十日ヲ經過シ自ラ之ヲ中止セントスルニ際シ乙ナル者其已ニ

監禁日數三十日ニ達シタルコトヲ知リツ、之ヲ讓リ受ケタルトキハ乙ハ僅カニ一日間ノ監禁ヲ實行シテ之ヲ解放スルモ尙ホ三十日間監禁ノ罪ヲ以テ之ヲ論セサルヲ得ス何トナレハ此場合ニ於テハ乙ハ三十日間監禁ト云ヘル一種ノ罪ヲ犯シタルモノニシテ被害者ハ縱令一日間ト雖此重大ナル苦痛ヲ受クルモノニ外ナラサレハナリ又其從犯ノ所爲ニ就テモ同一ノ原理ニ從ヒ三十日後ニ正犯ヲ幫助シタルトキハ三十日間監禁ノ罪ノ從犯トシテ處斷セララルヘシ

逮捕監禁ノ罪ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加シ監禁制縛シテ苛刻ノ所爲ヲ施シタルモノハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(第三百二十二條及ヒ第三百二十三條)因テ人ヲ疾病死傷ニ致シ又ハ水火震災ノ際其監禁ヲ解クコトヲ怠リ因テ死傷ニ致シタルモノハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス(第三百二十四條及ヒ第三百二十五條)

第三節 幼者老疾者ヲ遺棄スル罪

幼者老疾者ヲ遺棄スル罪

幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪ハ人身掠奪罪ノ一種ニ屬スレトモ我刑法ハ特ニ人

身賣買ノ罪ナルモノヲ設ケス(第三百三十六條)

何人ト雖此犯罪ノ主體タルコトヲ得ヘク必スシモ幼者又ハ老疾者ヲ保護スルノ義務アル者ニ限ラス他人ノ保護スル幼者ヲ掠奪シテ之ヲ遺棄スルモ亦此罪ヲ構成スヘシ

此犯罪ノ物體ハ八歳以下ノ幼者及ヒ自ラ生活スルコト能ハサル老疾者トス犯罪ノ手段ハ通常詐僞強迫若クハ暴行ニ依ルヘキモノナレトモ保護ノ義務アル者ニシテ此罪ヲ犯ス場合ニ在リテハ必スシモ此等ノ手段アルヲ要セス何トナレハ幼者若クハ老疾者ノ現存セル場所ヨリ保護者自ラ逃走シタルトキハ尙ホ之ヲ遺棄ノ罪アリトスルコトヲ得レハナリ

此犯罪タル所爲ハ遺棄スルニ成立ス遺棄トハ物體即チ幼者若クハ老疾者ヲ自活スル能ハサル地位ニ置クコトヲ云フ

幼者老疾者遺棄ノ罪ハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ之ヲ寥闕無人ノ地ニ遺棄シタルモノハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス(第三百三十六條及ヒ第三百三十七條)若シ其犯者ニシテ給料ヲ得テ人ノ寄托ヲ受ケ保護ノ義務アルモノニ係ル

トキ各一等ヲ加フ(第三百三十八條)因テ廢疾ニ致シタルモノハ輕懲役ニ處シ篤疾ニ致シタルモノハ重懲役ニ處シ死ニ致シタルモノハ有期徒刑ニ處ス(第三百三十九條)又我カ刑法ハ特ニ一種ノ罪ヲ設ケ自己ノ所有地又ハ看守スヘキ地内ニ遺棄セシタル幼者老疾者又ハ疾病ニ罹リ昏倒スルモノアルコトヲ知り之ヲ扶助セズ又ハ官署ニ申告セサル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處スヘキモノト定メタリ(第三百四十條)然レトモ本來此等ノ犯罪ハ單ニ行政警察ノ目的ニ出テタルモノニ外ナラス

略取誘拐ノ罪

第四節 略取誘拐ノ罪

略取誘拐ノ罪トハ詐欺強迫若クハ暴行ニ依リ權利ヲ侵シテ幼者ヲ其父母若クハ後見人ヨリ奪取スルノ所爲ヲ云フ(第三百四十一條)奪取ノ目的ハ幼者ナルモ眞ニ被害ノ物體タルヘキモノハ父母若クハ後見人ノ管督及ヒ教育權ナリ故ニ父母若クハ後見人ノ承諾アル以上ハ其幼者ヲ奪去スルモ此犯罪ヲ構成スルコトナカルベク之ニ反シテ幼者ノ承諾ノ有無ハ此犯罪ノ構成上毫末ノ關係ヲ及ホスヘキモノニアラサルベシ

此犯罪ノ手段ハ詐僞強迫若クハ暴行ナリ詐僞ニ出テタル奪取ノ所爲ヲ誘拐ト云ヒ暴行強迫ニ出タル奪取ノ所爲ヲ略取ト云フ論者或ハ此說ニ向テ駁撃ヲ試ムルモノナキニアラサレトモ是レ畢竟幼者ヲ以テ被害者ナリト誤解シ暴行強迫詐欺ノ手段ハ幼者ニ對シテノミ施スヘキモノト思惟スルニ坐スルノミ抑モ詐欺暴行強迫等ハ奪取ノ手段トシテ其父母若クハ後見人ニ對シテ行フヲ常トスルハ恰モ彼ノ強盜罪ニ於テ暴行強迫ヲ受クル物體ハ其所有主若クハ保管者ニシテ其財物自體ニアラサルカ如シ然レトモ幼者モ亦人類ナルヲ以テ幼者ニ對シテ暴行ヲ行フコトヲ得ヘキコトハ猶ホ強盜罪ニ於テ物品ノ所有主ニ對シ必スシモ暴行ヲ行フヲ要セサルカ如シ但シ父母ノ承諾ヲ得テ幼者ヲ誘引シ之レニ暴行ヲ加ヘタルトキハ幼者ハ其罪ノ物體タル能ハサルモ暴行罪ノ被害者タルヲ得ヘシ又一種ノ論者ハ誘拐ハ幼者ノ承諾アル場合ニシテ略取ハ幼者ノ承諾ナキトキヲ指スモノナリト論スルモノアリ然レトモ幼者ハ完全ナル知能ヲ有セサルヲ以テ法律上充分ナル承諾ヲ與フル能ハサルモノナレハ縱令ヒ幼者カ承諾シタレハトテ毫モ犯罪ノ成否ニ關係ナカルヘキナリ必竟是等ノ論者ハ被害者ハ何人ナルヤヲ知ラス

常ニ法理ヲ文字章句ノ間ニ解釋セシトスルニヨルタルハシ  
 倉富氏ハ予ノ説ヲ評シテ著者ハ幼者承諾ノ有無ヲ以テ略取誘拐ヲ別ツコトヲ得  
 スト爲セトモ刑法上ニ於テハ幼者ノ承諾ト雖モ一概ニ之ヲ無効トスルコト能ハ  
 サルヘシ若シ幼者ニ對シテ誘拐ノ罪ヲ犯スコトヲ得スト爲セハ幼者ニ對シテハ  
 詐欺取財ノ罪ヲモ犯スコトヲ得スト爲サハル可ラス著者能ク幼者ニ對シテ詐欺  
 取財ノ罪ヲシト爲スコトヲ得ルヤ加之刑法第三百四十四條但書ノ場合ニ於テハ  
 現ニ幼者ノ婚姻即チ承諾ヲ以テ告訴ノ權ヲ消滅セシムルモノナリ知ラス著者ハ  
 如何ナル理由ヲ以テ該條ヲ解セントスルヤ云々ト反對ノ意見ヲ表セラレタレト  
 モ詐欺取財ノ成立ニハ必スシモ本人ノ承諾アルヲ要セス又第三百四十四條但書  
 書ノ場合ハ幼者ノ承諾ヨリハ寧ロ父母若クハ親族ノ承諾アリシコトヲ推測シ得  
 ヘキ場合ナリ是レ特ニ式ヲ用ヒテ云々ノ文字ヲ以テ法文ニ冠セル所以ナリ  
 誘拐略取ノ所爲ハ幼者ヲ其父母若クハ後見人ヨリ奪取スルヲ以テ成立スレトモ  
 日本刑法ニ單ニ之ヲ奪取スルノミナリテ足レリトセス尙之ヲ藏匿シ若クハ他人  
 ニ交付セシ時ヲ以テ始メテ罪トスルカ故ニ之ヲ盜罪ニ比スレハ其贓物ヲ藏匿シ

又ハ他人ニ交付販賣シタル時ヲ以テ盜罪已遂トスルニ異ナラス  
 此罪ノ犯意ハ略取誘拐シ藏匿交付スルノ意則チ故意アルヲ以テ足レリトシ別段  
 惡意アルヲ要セスト雖モ權利若クハ被害者ノ承諾ナキヲ要ス尤モ花見若クハ遊  
 山ノ爲メ隣家ノ子女ヲ誘引スルカ如キハ父母後見人ノ承諾ナキモ法律ハ暗黙ノ  
 承諾アリシモノト推測スルモノトス  
 此犯罪ハ被害者又ハ親屬ノ告訴ヲ俟テ其罪ヲ論スルモノニシテ所謂親告罪ナリ  
 而シテ法文ニハ被害者又ハ親屬ノ告訴ヲ俟テ云々トアリテ其所謂被害者トハ幼  
 者ヲ指示シタルカノ疑アリト雖モ本罪ノ被害者ハ幼者ニ非スシテ父母若クハ後  
 見人ナルコトヲ知ラハ誤解ヲ生スルコトナカルベシ  
 十二歳以下ノ幼者ヲ略取誘拐シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓  
 以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス(第三百四十二條)  
 十二歳以上二十歳未満ノ幼者ニ係ルトキハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五  
 圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加シ其誘拐ニ係ルモノハ六月以上二年以下ノ重禁  
 錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(第三百四十三條)



又略取誘拐セラレタル幼者タルヲ知り自己ノ家僕ト爲シ若シハ其他ノ名稱ヲ以テ收受シタルモノハ略取誘拐ニ照シ各一等ヲ減スト規定セリ  
 今ヤ本節ノ講義ヲ終ルニ當リ諸君ニ注意スヘキハ我刑法第三百四十五條ニ於テ二十歳ニ滿タサル幼者ヲ略取誘拐シテ外國人ニ交付シタル者ハ云々ト規定シ略取誘拐罪ノ一種トナシタル一事是ナリ此罪タルヤ略取誘拐トハ大ニ其性質ヲ異ニシ人身賣買ノ罪ニ屬スヘキモノナルヲ以テ我刑法カ略取誘拐罪ノ内ニ置キタルハ大ニ理論ニ背馳スルモノト云フヘシ然レトモ此罪ヲ以テ親告罪トセス純粹ノ略取誘拐罪ト區別シタルハ我立法者ノ人身賣買ヲ禁スルノ精神ニ出テタルモノ、如シ而シテ法文ニハ單ニ外國人トアレトモ這ハ内國ニ在ル外國人ヲ指シタルニ非スシテ外國ニ在ルモノヲ指示シタルモノナラン

第四章 名譽ニ對スル罪

名譽ニ對スル罪

名譽ニ對スル罪ハ我刑法第三百五十八條ニ規定スル所ニシテ公然ノ演說ヲ爲シ又ハ書類圖書ヲ公布シ又ハ雜劇偶像ヲ作爲シ惡事醜行ヲ摘發シ人ヲ誹毀スル所爲ヲ云フニ交リ

其犯罪ノ物体ハ特定シタル人ノ名譽ナリ而シテ其名譽ニハ内外ノ別アリテ内部ノ名譽トハ人ノ伎倆ヲ指シ外部ノ名譽ノ淵源トナルモノナリ然レトモ人ノ伎倆ハ内部ニ屬スルヲ以テ法律ノ問フ所ニ非ス唯法律ノ問フ所ハ外部ノ名譽ニシテ一國ノ制度若クハ社會ノ習慣ニ基ク所ノ伎倆ヲ毀損スルノ所爲ナリ故ニ習慣制度ニ基カサル凡テハ伎倆稱號ヲ毀損スルモ之ヲ誹毀トシ罰スルヲ得サルナリ又名譽ハ必ス或特定ノ人ニ屬スルモノタルヲ要ス例ヘハ耶蘇宗徒日本人ト云フカ如ク一般ノ人衆ニ對スル誹譏ナルモノナシ然レトモ英米及印度刑法ニ於テハ共同体若クハ會社ニ對スル誹譏アルコトヲ認メ獨逸刑法ニ於テハ官署又ハ參政會ニ對スル誹毀ヲ罰シ我國ニ於テモ議院保護律アリテ無形人ナラサル議院ニ對スル誹毀ヲ認ムルモノ、如シ  
 誹毀ハ之ヲ間接誹毀ト同時誹毀トニ區別スルヲ要ス間接誹毀トハ間接ニ第三者ヲ誹毀スルモノヲ云フ例ヘハ人ノ子孫若クハ妻ヲ誹毀スルモノハ間接ニ父母若クハ夫ヲ誹毀スルコト、ナルヘシ之ニ反シテ同時誹毀トハ一人ニ就テ誹毀セシコトカ同時ニ他人ニ對シテ誹毀トナルモノナリ譬ヘハ人ヲ指シテ彼レハ姦通ヨ

リ生シタル子ナリト云フトキハ其人ヲ誹毀スルト同時ニ其母ヲ誹毀シタルモノ  
 ナリ而シテ間接誹毀ノ場合ニ於テハ被害者ハ一人ニ止マレトモ同時誹毀ノ場合  
 ニ於テハ數多ノ被害者アルヘキモノトス然レトモ死者ヲ誹毀スルモノハ同時誹  
 毀ナルモ被害者ハ遺族ヲミナルヘシ何トナレハ死者ハ權利ヲ有スルコト能ハサ  
 レハ誹毀罪ノ物体タルヲ得サレハナリ  
 誹毀罪ノ所爲ハ惡事醜行ヲ摘發スルニ成ル而シテ其惡事醜行ハ事實ヲ指摘スル  
 コトヲ要スルヲ以テ只人ヲ指シテ馬鹿若クハ痴呆ナリト云フカ如キ或ハ自己ノ  
 思想意思ヲ述フルカ如キハ誹毀トナラサルモノトス何トナレハ事實ヲ指摘スル  
 コトナケレハナリ  
 然レトモ誹毀罪ハ人ノ名譽ヲ害スルモノタルヲ以テ苟モ名譽ヲ害スル以上ハ其  
 事實ノ有無ヲ問フヘキモノニアラス然ルニ學者往々誹毀ハ事實ノ有無ヲ問ハサ  
 ルヲ以テ公ケル徳義ニ基クモノトテ敢テ私權利ヲ害スルモノニアラスト速了ス  
 ルモノアリ是等ハ必竟事實ヲ公ケニスルモ尙其人ノ名譽ヲ害スル者タルコトヲ  
 知ラサルニ坐スルガヨ彼ハ英國ノ如キハ此治安主義ヲ採リ事實ハ虛罔ナラサル

可ラス若シ誹毀ノ事柄眞實ナルトキハ誹毀成立セスト古キ私犯法ナトニ見ユレ  
 然レ今日ハ已ニ陳腐ニ屬シ又採ルニ足ラサル説ナリ然レトモ現ニ我國新聞條例  
 ニ於テモ亦此規定アリ  
 摘發トハ其文字上ヨリ解スレハ或ル事實ヲ搜出スルニ止ルニ似タレトモ已ニ他  
 人ノ搜出シタル事實ヲ反覆スル場合却テ多シ摘發ハ公布ノ意義ニ外ナラサルヘ  
 シト雖モ誹毀ノ事實ハ之ヲ其被害者以外ニ傳布スルニアラサレハ此罪ヲ構成ス  
 ルコトナシ故ニ演説ヲ以テ滿場ノ聽衆ヲ誹毀スルモ聽衆以外ノ第三者ニシテ之  
 ヲ聞クモノナキトキハ誹毀ノ罪ナカルヘシ  
 此罪ノ手段ハ公然ノ演説若クハ文書圖書又ハ偶像演劇等トス  
 公然トハ公衆ノ見聞シ得ヘキ性質ヲ有スル演説若クハ場所ニ於テスルヲ云フ文  
 書圖書中ニハ信書ヲ包含スレトモ郵便はがきノ如キ公衆ノ目ニ觸ルヘキモノナ  
 ラサル可ラス英國法ハ手段ノ種類ニヨリ誹毀ヲ口説書説ノ二種ニ別ツモ我刑法  
 ハ口頭誹毀及ヒ實物誹毀ノ二種ニ區別セルモノ、如シ即口頭誹毀トハ公然ノ演  
 説ニ依ルモノヲ云ヒ實物誹毀トハ書畫若クハ雜劇偶像ニヨルモノヲ云フ

誹毀ノ犯意ハ人ノ名譽ヲ害スルノ意換言セハ自己ノ公布スル事實カ他人ノ名譽ヲ害スル性質アルコトヲ知リツ、行フノ意思アレハ充分トス  
 我刑法ハ已ニ述フルカ如ク事實ノ有無ヲ問ハスト雖モ其事實ニシテ眞確ナリト信シタル場合ニ於テハ他人ノ名譽ヲ害スル意思ナキモノト推測スルコトヲ得ヘシ例ヘハ新聞條例ノ如ク學術上自他ノ利益ノ爲メニ人ノ惡事ヲ公布スルコトアルモ其惡意ニ出タルモノナルコトヲ證明スルニアラサレハ之レヲ誹毀ニ問フコトナシ  
 又死者ノ惡事醜行ヲ摘發シ之レヲ誹毀スル場合ハ誣罔ニアラサレハ罰スルコトナシ  
 誹毀罪ハ凡テ告訴アルニアラサレハ其罪ヲ問フコトナシ是レ被害者ノ名譽ヲ重シスルニ出ツルモノニシテ若シ告訴アルトキハ  
 口頭誹毀ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加シ  
 實物誹毀ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(第三百五十八條)

祖父母  
 母ニ對スル  
 罪  
 祖父母  
 母ニ對スル  
 罪  
 通常罪

又我刑法ハ全ク別種ノ罪ヲ以テ誹毀ニ準シタリ即醫師藥商穩婆代言人辯護人代書人若クハ神官僧侶ノ其身分職業上ニ於テ知得シタル陰私ヲ漏洩スル者ハ口頭誹毀ト同刑ヲ科セラルヘシ(第三百六十條)

第五章 祖父母父母ニ對スル罪

第一節 祖父母父母ニ對スル通常罪

我刑法ヲ按スルニ子孫其祖父母父母ニ對シ謀殺故殺ヲ行ヒタル者ハ死刑ニ處シ自殺ニ關スル罪身體ニ對スル罪自由ニ對スル罪名譽ニ對スル罪及誣告ノ罪ヲ犯シタルトキハ常人ノ刑ニ二等ヲ加ヘ其廢疾ニ致シタルモノハ有期徒刑ニ處シ篤疾ニ致シタルモノハ無期徒刑ニ處シ死ニ致シタルモノハ死刑ニ處スト規定シ順次其刑ヲ加重シタル而已ナラス此罪ニ就テハ特別ノ宥恕減輕及ヒ不論罪ノ例ヲ用キサルコト、セリ實ニ嚴ナリト云フヘシ是蓋子孫ニシテ其祖父母父母ニ對シ犯罪ヲナスハ甚タ惡ムヘキノ所爲ニシテ特ニ東洋人ハ大概喜怒哀樂ノ情感強ク往々此罪ヲ犯スコトアルヲ以テ自然立法者ノ此罪ヲ嚴ニシタルモノナラン

第二節 子孫奉養ヲ欠クノ罪

子孫奉養  
 ナ欠クノ  
 罪

道ハ子孫其祖父母父母ニ對シ衣食其他生活上必要ナル奉養ヲ爲サ、ルモノヲ云  
 ヒ通常人ニテハ犯シ能ハサル罪ナリ而シテ此犯罪ノ主体ハ子孫ニ限ルヲ以テ其  
 配偶者ヲ包含セス又刑法第百十四條ノ親屬例ニ依ルモ其配偶者ノ親屬タルコト  
 ナ規定スル而已ニシテ子孫ノ配偶者ハ即チ子孫タルコトヲ定メタルモノニ非レ  
 ハ其配偶者ノ奉養ヲ欠キタル場合ハ此罪ヲ以テ罰スルヲ得サルヘシ世間其配偶  
 者ノ奉養ヲ欠キタル場合ハ往々見聞スル處ナルニ之ヲ罰スルノ正條ナキハ我刑  
 法ノ欠點ト云ハサルヲ得ス子孫奉養ヲ缺クノ罪ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮  
 ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(第三百六十四條)

第六章 財産ニ對スル罪

第一節 窃盜ノ罪

窃盜ノ性質

窃盜トハ他人ニ属スル有形動産ヲ不正ニ領得スルノ意ヲ以テ之ヲ窃取スルノ所  
 爲ナリトス今之ヲ解剖セハ  
 (第二)窃盜罪ノ物体タルヲ得ヘキモノハ他人ノ占有内ニアル他人ノ有形動産タラ

財産ニ對  
 スル罪  
 窃盜ノ罪  
 窃盜ノ性質

サルヘカラス

(甲)他人ノ占有内ニ存スルモノタラサル可ラス

他人ノ物件ニシテ自己ノ占有内ニ在ルモノハ受寄財産費消罪トナリ何人ノ占有  
 ニモ歸セサルモノナルトキハ遺失物搬匿罪トナルモ窃盜罪タルヲ得ス爰ニ注意  
 スヘキハ占有ト監督トノ二者ノ區別ニシテ學者或ハ之ヲ混同シテ論スルモノア  
 リト雖モ宜シク之カ差異ヲ爲サ、ルヘカラス何トナレハ監督ハ犯者ニ存スルモ  
 占有ニシテ他人ニ存スルトキハ窃盜罪成立スヘケレハナリ例ヘハ下婢カ主人ノ  
 物品ヲ窃取シ山林ノ管守人其管守ニ係ル所ノ木材ヲ窃取シ或ハ封鎖シタル物品  
 ナ預ケタルニ其中ノ物品ヲ窃取シタル場合ノ如キハ竊盜タルヲ免レサルヘシ何  
 トナレハ其物体ハ下婢管守人及ヒ受託人ノ監督内ニアルモ占有權依然トシテ他  
 人ニ存スレハナリ尙一步ヲ進メテ之ヲ説明センニ主人其下婢ニ向ヒ汝ニ其物件  
 ナ依託スト明言シテ依託シタルトキハ最早下婢タルノ資格ヲ脱シテ一箇人ノ資  
 格トナリテ物件ノ依託ヲ受ケタルモノナレハ之ヲ竊取スルモ窃盜タラサルヘシ  
 何トナレハ管督權ハ勿論占有權ヲモ得タルモノナレハナリ

尙占有權ニ就テ其種々困難ナル問題アリ例ヘハ獸魚獵ヲ爲スニ當リ獵者ハ如何ナル程度マテ魚獸ヲ拘束スルトキハ占有ヲ得ヘキヤ否ハ頗ル事實ニ密着シタル問題ニシテ各國ノ規定モ異リ學者間ニモ議論アリテ未タ容易ニ判斷ス可ラサルナリ

尙注意スルキノ一事アリ抑モ竊盜ハ他人ノ占有内ニアル有形動産ヲ盜ムノ所爲ナルコトハ已ニ陳フル所ナルカ此盜罪ノ被害者ハ所有者ナリヤ占有者ナリヤ將タ何人ニ對シテ成立スル者ナリヤト云フコトナリ此ノ點ニ付テハ大ニ議論アリト雖モ予カ考フル所ヲ以テセハ其物件ニシテ正當占有者ノ占有内ニアルトキハタトヒ其物件ハ占有者ノ所有ニアラサルモ之レカ被害者ハ占有者ナリトセン例ヘハ質入シタル物品ヲ竊取シタル者アルトキハ何人ヲ以テ被害者ト爲スヘキカ刑法第四十八條ニヨルハ贓物ハ被害者ニ還付ストアリ今此場合ニ於テハ何人ニ還附スヘキカ若シ所有主ヲ以テ被害者トスルトキハ質入主ニ還附セサルヘカラス斯クスルトセンカ質取主ハ保證物件ヲ横取りセラレ請求スヘキ物件ナキヲ以テ止ムヲ得ス質入主ニ對シテ貸金返還ノ訴ヲ爲スノ外アラサルヘク去リトハ質

取主ハ抵當ノ權利ヲ失フノ不幸ニ陥ル可シ故ニ本條ノ所謂被害者ナル語ハ通常所有者ヲ指スモ正當ノ占有者アル場合ニ於テハ所有者ニアラスシテ占有者ナリトセサルヲ得ス又刑事訴訟法ニ依レハ被告人刑ノ言渡ヲ受ケタルト否トヲ問ハス沒收ニ係ラサル差押物品ハ所有主ノ請求ナシト雖モ之レヲ還付スルノ言渡ヲナサザルヘカラズ其所謂所有主ナル語ハ正當占有者アルトキハ占有者ト解セサル可ラザルナリ

盜人他ノ盜犯者ノ物件ヲ盜ミタルトキハ被害者ノ地位ニ立ツモノハ誰ナルヘキヤ此場合ニハ正當ノ占有者ヲ有セサルヲ以テ被害者ハ必ス正當ノ所有主タラサルヘカラス然レトモ若シ正當ノ占有者ナルトキハ英國法ニ於テハ占有者所有者共ニ被害者ナリトセザル之外面ヨリ見ルトキハ稍疑ヲ生スヘシト雖モ仔細ニ考フルトキハ固ヨリ被害者ト雖モ二人ノミニ限ルコトナケレハ別ニ怪ムニ足ラサルナリ

(乙)動産タルコトヲ要スルニ依リテ民法上ニ用ユル動産不動産ノ區別ハ必スシモ刑法上ニ適用スルニトテ得ス刑法

ニ於テハ唯移轉スルコトヲ得ルモノハ皆動産トス池沼ノ魚類鑛山ノ金石及家屋ノ窓戶其他民法上ノ所謂用法ニ依レル動産ト雖モ之ヲ分離スルトキハ他所ニ移轉シ得ルヲ以テ盜罪ノ物体タルヲ得然ルニ英國ノ慣習法カ動産ナル文字ヲ嚴格ニ解釋シ苟モ不動産ニ付着スルモノハ盜罪ノ物体タルヲ得ストナシタルハ大ニ學士ノ批難スル所ニシテ現ニ英國條例英領印度刑法及ヒ蘇格蘭土ノ法律ニ於テモ此偏見ヲ探ルコトナシ獨逸刑法ニ於テハ能ク右等ノ誤見ヲ排斥シタルニ係ハラス土地ノ一部ヲ掘取リ又ハ其草ヲ薙取リタル者ヲ違警罪ニ問フタル如キハ予ノ服スル能ハサル所ニシテ佛國ノ之レヲ認メテ竊盜トナシタルノ一例ハ能ク理論ニ適合セリト謂フヘシ

(丙)有形ノ物品ヲササルヘカラス凡テ對人權又ハ物上權及ヒ思想ノ如キハ無形物ナルヲ以テ竊取スルコトヲ得ス然レトモ是等無形ノ權利ヲ表彰スル證書類ハ盜罪ノ物体タルヲ得ルヤ否之レニ關シ往々議論ヲ生スルコトアリ今消極的ヨリ論スルトキハ畢竟證書ナルモノハ權利義務ヲ證明スルノ一ノ道具タルニ過キサレハ證書自身ニ價值アルニアラス

去レハ之ヲ盜ムモ權義ノ事實ハ依然トシテ存在シ決シテ竊取シ得ヘキモノニアラサレハ盜罪ノ目的物タルヲ得ス又積極的ヨリ之ヲ論スレハ假令一片ノ證書ト雖モ必ス若干ノ價值アルモノナレハ之ヲ竊取スレハ盜罪トナサハルヘカラス何トナレハ埃切レ一本盜ムモ盜タリ況シヤ重大ナル權義ヲ別ルハ證書タルニ於テオヤト其是非ノ議論ハ免モ角日本現行法ニ從ヘハ之ヲ竊取スルコトヲ得ヘキモノトセリ

(丁)他人ノ所有物タルコトヲ要ス自己ノ所有物又ハ所有主ナキ物件ハ固ヨリ盜罪ノ物件タルヲ得ス故ニ典物トシテ他人ニ交付シタル物件ヲ盜ムモ決シテ竊盜罪ヲ構成スルコトナカルヘシ然レトモ我刑法第三百七十一條ニ自己ノ所有物ト雖モ典物トシテ他人ニ交付シ又ハ官署ノ命令ニ因リ他人ノ看守シタル時之ヲ竊取シタル者ハ竊盜ヲ以テ論ス下アリ是レ立法上竊盜罪ニ準シタルマテナリ

(第二)盜罪ノ犯意ハ特ニ他人ノ所有物ヲ不正ニ領得スルノ故意アルヲ要ス

(甲)他人ニ屬スル物品タルコトヲ知ラサルヘカラス

他人ニ属スル物品タルコトヲ知ルトハ自己ノ所有ニアラサルコトヲ知レハ充分ニシテ果シテ何人ノ所有ナルカヲ知ルヲ要セス然レトモ自己ノ物体ナリト確信シテ他人ノ物件ヲ領得シタル場合ニ於テハ窃盜罪タルコトナカルヘシ何トナレハ犯意中ノ一元素ヲ欠クヲ以テナリ

(乙)所有主ノ承諾若クハ自己ニ占有スル權利ナキコトヲ知ルヲ要ス明諾默諾ヲ問ハス苟モ承諾アリト思慮シ他人ノ物品ヲ奪ヒ去ルモ盜罪ナキモノトス故ニ承諾若クハ權利アリト確信シテ盜取シタルトキハ實際承諾ナク或ハ權利ナキモ盜罪成立セサル可シ何トナレハ是亦犯意中ノ一元素ヲ欠クハナリ

(丙)窃取セントスル物品ヲ所有主トシテ處理スルノ意アルコトヲ要ス凡テ窃盜罪ヲ組織スルニハ恰モ所有主ノ如ク處理スルノ意ナカルヘカラス學者往々窃盜ニハ占有ヲ奪フノ意アルヲ以テ充分トスレトモ未タ之ノミニテハ盜罪成立セサルヘシ例ヘハ人アリ金若干ヲ某ニ貸與セリ然ルニ其人返金セサルヲ以テ貸金ノ抵當トシテ或物件ヲ持チ還リタリトセヨ此場合ニハ佛獨共ニ窃盜トナサ、ルノ先例アルニアラスヤ然レトモ前例ヲ少シク變シテ始メヨリ其物品ヲ典

物ト爲サント欲シテ携ヘ來リ之ヲ典物ト爲シタルトキハ窃盜タルヲ免レサルヘシ何トナレハ他人ノ所有ニ属スル物品ヲ質入スルカ如キハ已ニ所有主トシテ物品ヲ處理シタルモノナレハナリ去レハ所有主トシテ物品ヲ處理スル意思アル以上ハ之ヲ破壊スルト保存スルト自己ヲ益スルト他人ヲ利スルト敢テ其間ニ區別アルコトナシ

右ノ如ク窃盜罪ニ付キテハ惡意ヲ組成スル三箇ノ要素ナカル可カラス其中(甲)他人ノ所有物ナルコトヲ知ラサルヘカラス(乙)所有者ノ承諾若クハ權利ナキコトヲ知ルヲ以テ不正ノ意思ト云ヒ(丙)盜取セントスル品物ヲ所有主トシテ處理スルノ意アルコトヲ領得ノ意ト稱シ共ニ盜罪ノ犯意ト云フ

(第三)窃取ノ所爲ハ承諾若クハ權利ナクシテ物品ヲ他人ノ管督内ヨリ自己若クハ第三者ノ管督内ニ移轉スル動作ヲ云フ

窃取トハ通常物件ヲ掌握スルノ謂ヒナレトモ其方法ハ種々アリテ管ニ掌握ノミニ止ラス其他數多ノ方法ニヨリテ行フヲ得ヘシ例ヘハ隣家ノ酒樽ヲ穿テ管ヲ通シテ之ヲ自己ノ樽内ヘ注入シ他家ニ貯フ所ノ瓦斯ヲ導ヒテ自家ヘ點火シ他人ノ

家畜ヲ放チテ之レヲ捕獲スルカ如キハ皆窃盜ノ動作ナリトス  
 之ヲ要スルニ其方法ノ如何ヲ問ハス一方ニ於テ他人ノ監督ヲ脱セシメ一方ニ於  
 テハ自己ノ監督内ニ引入ル、ノ所爲アレハ充分トス故ニ物品ヲ領得スル意思ナ  
 クシテ他人ノ牛ヲ放チ又ハ河岸ニ繫ケル釣舟ヲ海洋ニ漂流セシムルカ如キハ竊  
 盜ニアラス何トナレハ唯他人ノ監督内ヲ脱セシメタルノミニシテ自己ノ監督内  
 ニ移サ、レハナリ然レトモ當時之ヲ自己ノ監督内ニ移ス意思ヲ以テ之ヲ爲スト  
 キハ窃盜罪ノ未遂ヲ以テ問フヘキナリ

已遂及未遂

是ヨリ已遂未遂ノ因テ起ル區別チ一言セントス  
 窃取ノ所爲ニシテ一度成立スルトキハ直ニ其物品ヲ放還スルモ盜罪ハ成立シテ  
 又動カス可ラサルニ至ラン然レトモ其所爲ノ如何ナル程度ニマテ達スル時ハ已  
 遂タルヘキヤ將タ未遂ニ屬スヘキヤニ至テハ學者ノ議論少ナカラスト雖モ之ヲ  
 大別スレハ左ノ三大主義トナルヘシ

(一)接觸主義 (Contact theory) 此主義ニ因ルトキハ犯人カ物件ヲ手ニ觸ルレハ

直ニ窃盜已遂ナリトスルニ在リ

(二)奪去主義 (Abduction theory) 犯人ノ手ヲ物件ニ觸レタルノミチ以テ未タ已遂ト  
 ナサス犯所ヨリ物件ヲ取テ逃レ去ルトキ初メテ已遂トナスニ在リ

(三)獲得主義 (Apprehension theory) 前ノ二主義ヲ折衷シ單ニ物件ニ接觸スルヲ以  
 テ足レリトセス又物件ヲ取テ逃レ去ルヲ要セス只犯者カ他人ノ物件ヲ自己ノ  
 監督内ニ移シタル事實ヲ以テ已遂トスルニ在リ

我刑法及近世ノ學者ハ此主義ヲ以テ條理ニ適スルモノトナシ窃取ノ所爲ニシテ  
 他人ノ管督ヲ分離スルコト、自己ノ管督ニ入ル、所爲ト同時ナラサルトキハ未  
 遂トナセリ例ヘハ他人ノ蜜蜂ヲ窃取セシト欲シ先シ其蜜蜂ヲ放逸セシメタルト  
 キハ窃盜未遂ニシテ更ニ之ヲ自己ノ管督内ニ移シタルトキハ已遂トス又他日窃  
 取スル意思ヲ以テ他人ノ物件ノ位置ヲ變シテ所有者又ハ管督者ノ家宅ニ藏匿シ  
 タル場合ニ於テハ之ヲ自己ノ監督内ニ移スノ勞アルト否トニヨリ已遂又ハ未遂  
 トナルヘシ之ヲ要スルニ盜意ヲ以テ他人ノ監督ヲ侵スノ所爲ヲナシタルトキハ  
 已ニ窃取ノ所爲ニ着手シタルモノナルヲ以テ未遂犯タルヘク更ニ進テ之ヲ自己



ノ監督内ニ入レタルトキハ已遂犯トナルヘシ設例ハ窃盗ヲ爲ス意ヲ以テ兇器ヲ  
 携帯シ人ノ邸宅内ニ入り窓戸ヲ切開キ財物ヲ窃取シタルトキハ持兇器竊盗ノ已  
 遂タルヘク其邸宅ニ入込ミタルトキ意外ノ障礙ニ因リ逃レ去リタルトキハ未遂  
 タルヘシ何トナレハ人ノ邸宅ニ入ルトキハ他人ノ占有ヲ犯シタルモノニシテ已  
 ニ窃取所爲ノ範圍ニ着手シタルモノナレハナリ然レトモ人ヲ殺スノ目的ヲ以テ  
 邸宅内ニ入りタルノミニテハ未タ殺人罪ノ所爲ニ着手シタル者ニアラサルヲ以  
 テ殺人罪ノ未遂ニアラス單ニ家宅侵入ノ罪アルニ止ルヘシ又タ兇器ヲ携帯シテ  
 邸宅内ニ入りタリトモ戶外ニ之ヲ放擲シ置キ家中ニ入り財物ヲ窃取シタルトキ  
 ハ單純竊盗已遂ノミニシテ持兇器窃盗未遂罪トノ數罪俱發ニアラス何トナレハ  
 自ラ兇器ヲ放擲シタルトキハ自己ノ意ヲ以テスルモノニシテ意外ノ障礙ニアラ  
 サルカ故ニ持兇器窃盗ノ未遂犯ニアラスシテ中止犯タルヘシ

窃盗ノ種類

(甲) 單純竊盗

單純竊盗トハ通常ノ窃盗罪ニシテ加重若クハ減輕ノ情狀ナキモノニテ本邦刑法

窃盗ノ種類  
 單純竊盗

第三百六十六條(人ノ所有物ヲ竊取シタルモノハ竊盗ノ罪トナシ二月以上四年以  
 下ノ重禁錮ニ處ス)トアルモノ是ナリ而シテ「カロリナ」法典并我舊法改定律例第百  
 卅五條(凡窃盗三百圓以上及三百五十圓以上絞ニ處スル律ヲ改メ並ニ懲役終身  
 トス)トアリテ贓物ノ多寡ニ因テ之カ區別ヲナシタリ又英國ニ於テハ盜罪ヲ大窃  
 盜小窃盜ニ分テリ之ナ理論的ヨリ論スルトキハ決シテ斯ル區別アルコトナシ然  
 レトモ實際上ヨリ觀察スルトキハ裁判管轄ノ點ニ關シテ大ニ便利ナルコトアル  
 ヘシ

(乙) 踰越盜並ニ鎖鑰盜

我刑法第三百六十八條(門戶牆壁ヲ踰越損壞シ若クハ鎖鑰ヲ開キ邸宅倉庫ニ入  
 リ竊盜ヲ犯シタル者ハ亦前條ニ同シ)トアリ此場合ニ於テ注意ヲ要スル點ハ左ノ  
 六箇條ナリトス  
 (一) 或場所ニ入ル目的ニテ踰越損壞セサルヘカラス 踰越トハ暴力ヲ用ヒテ障  
 礙物ヲ破損セス其上部又ハ下部ヨリ入込云ヒ損壞トハ暴力ヲ用ヒテ障害物  
 ヲ除去スルヲ云フ而シテ踰越破壞ハ必ス其所ニ入ル目的ナラサル可ラス

踰越盜並  
 ニ鎖鑰盜

(二) 踰越損壞スルハ門戸牆壁タラサルヘカラス 門戸牆壁トハ外圍ノ堅牢ナルモノナ云フ故ニ繩張又ハ欄干ノ如キモノハ固ヨリ牆壁トスルコト能ハス

(三) 進入スヘキ場所ハ邸宅倉庫ナラサルヘカラス 邸宅倉庫トハ共ニ勦スヘカラサル建築物ヲ指スモノニシテ自由ニ運轉スヘキ船舶露店ノ如キハ固ヨリ邸宅倉庫ト稱スルヲ得ス

(四) 外部ヨリ邸宅ニ入ルコトヲ要ス 邸宅ハ邸宅外倉庫ハ倉庫外ヨリ入りタルモノナラサル可ラス故ニ邸宅内ト雖モ苟モ倉庫外ヨリ倉庫中ニ入ルモノアラハ充分ナリトス

(五) 全身ヲ容ル、ニ足ルヘキ場所ナラサルヘカラス 本罪ヲ組成スルニハ強テ全身ヲ容ル、ヲ要セス身体ノ一部分ヲ容ルレハソレニテ既ニ組成スルモノトス然レトモ其場所タルヤ無論全身ヲ容ル、ニ足ルヘキモノナラサル可ラス故ニ犬小屋等ヨリ窃取スルモ踰越盜タルヲ得ス

(六) 單純竊盜ノ場合ニ於テ人ノ邸宅ニ入りテ犯シタルモノハ常ニ家宅侵入罪ト竊盜罪ト數罪俱發スルモノ、如ク想像ヲ得レトモ是等ノ犯罪ハ法律上家宅侵入ノ事實ト竊盜ノ事實ヲ合セテ一罪ト見做スヲ以テ決シテ數犯ヲ構成スルモノニアラス

入ノ事實ト竊盜ノ事實ヲ合セテ一罪ト見做スヲ以テ決シテ數犯ヲ構成スルモノニアラス

偽鍵盜ハ邸宅倉庫ニ限ラス凡テ偽鍵又ハ其他ノ方法ヲ以テ竊盜ヲ爲スモノナレトモ我刑法ハ踰越盜ト同視スルヲ以テ又説クヘキ必要ナシ

踰越盜及ヒ偽鍵盜ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス監視及未遂犯ノ減等ニ就テハ單純竊盜ニ同シ

持兇器竊盜

(丙) 持兇器竊盜

我刑法第三百六十條ニ兇器ヲ携帯シテ人ノ住居シタル邸宅ニ入り竊盜ヲ爲シタル者ハ輕懲役ニ處ストアリ是即チ持兇器竊盜ニシテ特ニ其犯狀ヲ重シトナシ之ヲ重罪ノ刑ニ處シタルモノナリ其減等ノ情狀アリテ輕罪ニ下ストキハ監視及未遂犯ニ就テハ單純竊盜ニ同シ今之ヲ分析スルトキハ二箇ノ注意スヘキ點アリ

(一) 兇器ヲ携帯スルコトヲ要ス 兇器トハ人ヲ殺スノ用ニ供スルモノハ勿論タトモ用ニ供スルモノナラサルモ苟モ人ヲ殺スニ足ルヘキモノナルトキハ兇器タルヲ得ヘシ故ニ實九ナキ「ピストル」又ハ銀紙ヲ張付ケタル木刀ノ如キ之ヲ顯ハ

ヲ持ツトキハ強迫ヲナシ得ヘキモ固ヨリ人ヲ殺スノ能力ナキヲ以テ茲ニ謂フ  
 兇器ト爲スヲ得ス之レニ反シテ能力アル兇器タル以上ハ必スシモ顯帶スルヲ  
 必要トセス學者往々兇器ヲ分テ性質上ノ兇器用法上ノ兇器トナシ小刀ノ如キ  
 ハ用法上ノ兇器ト稱スレトモ物體ノ如何ニ係ラス一トシテ人ヲ殺ニ足ラサル  
 モノナキヲ以テ能ク此區別ヲ爲シ得ヘキニアラス故ニ法律上ノ兇器ナルモノ  
 ハ通常一般ノ意義ニ於テ人ヲ殺スノ利器ナリト認ムル所ノモノヲ指示スルニ  
 過キス

(二)人ノ住居シタル邸宅ニ入ルコトヲ要ス 故ニ此犯罪ハ家宅侵入罪ト二罪俱發  
 スヘキモノニアラサルハ猶前段ニ説キタルカ如シ

(丁) 際變竊盜

諸君ハ從來種々ノ竊盜罪アルコトハ聞カレタルナラン然レトモ未ダ際變竊盜ナ  
 ルモノアルコトハ聞カサルヘシ際變竊盜罪ナル名稱ハ歐米各國ノ刑法ニ於テハ  
 之レヲ見ルコトヲ得サル一種ノ犯罪ナリ此種ノ竊盜罪ハ水火震災其他ノ變ニ乘  
 シテ他人ノ物ヲ竊取スルヲ云フ之レヲ通常竊盜罪ニ比スレハ其刑罰較々重シト

際變竊盜

ス何故斯ノ如ク刑ヲ重クスルヤト云フニ蓋火災ノ起ルニ當ツテハ罹災者又ハ其  
 近隣ノ人等ハ自己ノ財物ノ灰燼ニ歸スルヲ憂ヒ無暗ニ之ヲ戶外ニ投出シ一々之  
 ヲ監督スル能ハサルヨリ之ニ乘シテ竊取センコト誠ニ易クシテ之ヲ防クコト甚  
 タ困難ナルヲ以テ斯ク重刑ニ處シテ犯罪ヲ未發ニ防クモノナリト是レ我立法官  
 ノ精神ナランカ然レトモ實際上ヨリ考フレハ刑ヲ重クシタレハトテ犯罪ヲ豫防  
 シ得ヘキニアラサルヘシ見ヨ刑罰ノ最重ナル死刑無期刑アルヲ知リテ尙且ツ罪  
 ヲ犯スモノアリ何ソ區々タル輕罪刑アルヲ恐レン

尙ホ際變竊盜ノ刑罰其當ヲ得サルコトヲ一言セン例ヘハ火災ノ起ルニ當リ罹災  
 者ハ故ラニ其財物ヲ放棄シ去リ毫モ惡念セスシテ之レヲ火災ノ犠牲ニ供セシム  
 ル場合ニ於テ其家ニ闖入シ財物ヲ竊取スルモノアルモ此場合ニハ毫モ竊取シ易  
 キ情アルニアラス通常ノ人家ニ入りテ竊盜ヲ爲スモノト一般ナリ然ラハ其刑ヲ  
 重クスル理由ナキ明瞭ナルヘシ火災ハマタシモ地震ニ乘シ竊盜ヲ犯サハ其刑ヲ  
 加フト云フニ至テハ實ニ解スヘカヲサルコトニシテ余ハ其重刑ニ處スヘキ理由  
 アルコトヲ發見スル能ハサルナリ

之ヲ要スルニ公衆ノ信義ヲ委テタル物件即チ火災アルニ際シ燒失ヲ防クカ爲メ  
路傍ニ投出シタル物件ヲ竊取スルモノアラハ社會ノ安寧ヲ害スルコト多シトナ  
シ之カ刑ヲ加ヘタルモノナランカ然レトモ退テ之ヲ純理上ヨリ論スルトキハ毫  
モ其理由ヲ發見スルニ由ナカルヘシ

共同竊盜

(戊) 共同竊盜

抑歐米ノ刑法ニ於テ共同竊盜ヲ重刑ニ處スル所以ハ其犯罪者タルヤ終年竊盜ヲ  
業トナシ三々五々相團結シテ一ノ竊盜組ヲ組織シ四方ニ出沒横行スルカ故ナリ  
然レトモ我刑法ノ二人ニテ竊盜ヲ犯シタルトキハ其刑ヲ加重スヘキモノトナシ  
タルハ如何ナル理由ニ基キタルモノナリヤ其理由ヲ發見スルニ苦マサルヲ得ス  
尤モ二人ニテ共ニ竊盜ヲ犯ストキハ金錢ト其他ノ財物トヲ問ハス之ヲ多量ニ竊  
取スルコトヲ得ヘシト雖モ此點ノミヲ以テ加重ノ理由ト爲シ難シ何トナレハ縱  
令多量ニ竊取スルトナスモ其一人毎ニ別々ニ刑罰ヲ科スルカ故ニ數理上ヨリ論  
スルトキハ毫モ不權衡ノコトアラサルヘシ即チ特ニ刑ヲ重フセサルモ單純竊盜  
ノ刑ヲ一人毎ニ科スルトキハ充分ナルヘケレハナリ又我刑法第三百六十九條ニ

田野盜

(己) 田野盜

於テハ單純竊盜踰越盜僞錢盜及際變竊盜ノ場合ニ限リ二人以上ノ共犯アルトキ  
ハ各一等ヲ加フヘキモノトナスノミニシテ田野盜山林盜等ノ場合ニハ斯ル規定  
ナシ是理論ノ抵觸スルモノト云ハサルヲ得サルナリ

田野ニ於ケル穀物菜菓其他ノ產物ヲ竊取シタルモノヲ田野盜トス我刑法ハ單純  
竊盜ヨリ特ニ其犯狀ノ輕キモノトナシ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處スヘキモ  
ノト定メタリ然レトモ之ヲ犯狀ノ重キモノトスルト輕キモノトスルトハ學者ノ  
論議少ガラス蓋シ此等ノ物タル竊取スルニ容易ナル點ヨリ云ハ、其罪輕ク公衆  
ノ信義ニ委テタルモノナルヲ以テ公益上ヨリ云ハ、其罪重シ然ルニ我刑法カ之  
ヲ輕ク罰スル所以ハ其物件ノ容料粗大ニシテ格別ノ價額ナク且ツ之ヲ竊取スル  
ニハ先ツ田野ニ生殖セル產物ヲ收穫セサル可ラサルヲ以テ數多ノ產物ヲ竊取ス  
ルコト能ハサルニ依ルナラン故ニ已ニ收穫シタル產物ヲ奪フモリハ田野ニ在ル  
モ之ヲ單純竊盜ト爲サルヲ得ス

田野盜ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ監視及ヒ未遂犯ハ單純竊盜ニ同シ

山林盜及  
河海盜

(庚) 山林盜及河海盜

山林ニ於テ竹木礦物其他ノ產物ヲ竊取シ又ハ川澤池沼湖海ニ於テ人ノ生養シ若クハ營業ニ關スル產物ヲ竊取シタルモノハ田野盜ト同シク之ヲ處斷ス但シ已ニ伐採掘取シタル竹木礦石等又ハ捕獲シタル鳥魚類ヲ奪フモノハ單純竊盜タルヘキハ田野盜ノ場合ト異ナル所ナカルヘシ(第三百七十三條)

牛馬盜

(辛) 牛馬盜

牧場ニ於テ牧畜ノ獸類ヲ竊取シタルモノハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處セラレ同シ牛馬モ若シ通常ノ家屋ニ在ルトキハ之ヲ竊取シ來レハ單純竊盜トナリ一月以上四年以下ノ重禁錮ニ處セラルヘシ實ニ刑ノ權衡其當ヲ得タルモノト謂フヘカラス

親族盜

(壬) 親族盜

鄙諺ニ曰ク親ノモノハ子ノモノハ親ノモノト蓋子ニシテ父ノ財物ヲ竊取スルモ盜罪ノ原素ニ於テ一モ欠クル所ナク純然タル犯罪ヲ構成スルモノナリ然レトモ此場合ニ於テ被害者ナル父ハ未タ何トモ思ハサルニ早ヤ警察官來リテ

其子ヲ拘引シ去ルトキハ一家ノ安寧ヲ害スルヤ尠少ナラス故ニ歐米ノ刑法ニ於テハ父ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スト規定セリ反之我刑法ニ於テハ其第三百七十七條第一項ニ「祖父母父母夫婦子孫及ヒ其配偶者又ハ同居ノ兄弟姉妹互ニ其財物ヲ竊取シタルモノハ竊盜ヲ以テ論スルノ限ニアラス」ト規定セリ斯ノ如ク我刑法ニ於テハ親族盜ハ罪アレトモ刑ヲ加ヘサルコト、ナセリ而シテ其兄弟タルヤ必ス同居スルコトヲ必要トスルハ如何ナル理由ニ基クヤ殆ト了解スルニ苦ム所ナリ  
我刑法ハ斯ル規定ナルカ故ニ苟クモ同居ノ一事アル以上ハ其兄弟タル如何ニ不和ナルモノニテモ竊盜罪トナラス又如何ニ親密ナル兄弟ト雖モ一朝分離スレハ純然タル竊盜罪トナルヘシ又我刑法ニ於テハ免刑ニ關シテ親族ノ區域ヲ劃定スルコト或ハ廣キニ失セサル歟之ヲ其祖父母子孫ニ及ホスハ其區域或ハ廣漠ヲ失セサルナキカ  
上來講述スルカ如ク親族間ニ在テハ竊盜罪ヲ犯スモ其刑ハ免セラル、コト、ナリ居レリ然ルニ他人共ニ犯ストキハ如何ニ處分スヘキヤト云フニ理論上ヨリ見

レハ余カ會テ刑法汎論ニ於テ講述シタル如ク共犯者ノ一人ノ身分ニヨル加重輕減ハ他ノ犯人ニ及ハサルヲ以テ原則トナスカ故ニ親族盜ノ共犯者ハ有罪タルコトハ論ヲ俟タサルナリ然ルニ我刑法ニアリテハ少シク其ノ趣ヲ異ニシ財物ヲ分チタルニアラサレハ竊盜ヲ以テ論セスト規定セリ則チ配分ヲ受ケタルトキハ有罪トナリ之レヲ受ケサレハ無罪トナル豈ニ失當ナキヲ得ンヤ何トナレハ既ニニタヒ竊取ヲ來レハ直ニ犯罪成立スヘク盜取シタル財産ヲ配分スルコトハ犯後ノ所爲タルニ過キサレハ敢テ盜罪ノ成立ニ關係ナケレハナリ又此場合ニハ未遂犯ハ之レ無カルヘシ何トナレハ未遂ノ場合ニハ分ツヘキ財産無カルヘク財産ヲ分タサレハ罪ナケレハナリ實ニ奇怪ナルコト、謂フ可シ

(受其他ノ竊盜)

以上講述シタル九個ノ種類ノ竊盜罪ハ我刑法ニ於ケル竊盜罪ノ細別ナリ然レトモ我刑法外ニ涉リ廣ク之ヲ觀察スルトキハ尙ホ此他ニ其種類ナキニアラス例ヘハ其罪情之重キモノニハ夜間盜又ハ雇人盜アリ雇人盜トハ婢僕其主人ノ物体ヲ竊取スルヲ云フ又罪狀ノ輕キモノニハ食物盜ノ如キモノアリ食物盜トハ少量ノ

其他ノ竊盜

食物ヲ竊取スルヲ云フ然レトモ我刑法ニ於テ特ニ名稱ヲ設ケサル以上ハ是等ノ竊盜罪ハ皆單純竊盜ニ屬スルモノトス

右ニテ竊盜罪ノ講義ヲ了リタルヲ以テ之レヨリ受寄財産費消罪ヲ論セン

受寄財産費消罪

第三節 受寄財産費消罪

受寄財産費消ノ罪ハ刑法第三百九十五條乃至第三百九十八條ニ於テ之レヲ規定セリ今其一般ノ性質ヲ云ハシニ此罪タルヤ竊盜罪ト異ナルナシト雖モ只其差異アルノ點ハ竊盜ノ成立ニハ他人ノ物件ヲ其人ノ監督若クハ占有内ヨリ脱却シテ之レヲ自己ノ占有内ニ入ル、ヲ要ス然ルニ受寄財産費消ノ罪ニ在ツテハ他人ノ物件既ニ自己ノ占有内ニアル場合ナリ即チ既ニ自己ノ占有内ニアル他人ノ有形動産ヲ惡意ニテ費消スルヲ云フ此罪ハ竊盜罪ヨリハ其刑輕ク一月以上二年以下ノ重禁錮ニ止マル例ヘハ他人ノ書籍ヲ預リ其承諾ヲ得スシテ之レヲ典物ト爲シ又ハ之レヲ賣却シ依テ得タル所ノ金錢ヲ費消スルモ是レ其物件ヲ竊取シタルモノト云フヲ得サルヘシ何トナレハ其書籍ノ占有權ハ既ニ受托者ニ存スレハナリ以下本罪ヲ構成スルニ必要ナル元素ヲ示スヘシ

第一 自己ノ占有内ニ存スル物件タルコトヲ要ス 現行刑法ニ於テハ受寄財産云々ト云ヘリ其受寄財産トハ占有權ノ自己ニ存スル物件ヲ云ヒ必スシモ他人ヨリ預リタル物件ノミニ限ラサルナリ之ヲ詳述セハ受寄トハ明言ノ委託ニ限ラス又黙諾ノ委託ヲモ含蓄スヘキ者ナルヲ以テ寧ロ之ヲ消極的ヨリ解釋シ不正ノ方法即チ竊盜詐欺等ノ所爲ニヨラスシテ自己ノ占有内ニ歸シタル財産ト解スルアラハ法律ノ精神ニ適ヒタルモノナラン是レ我刑法カ特ニ若シ騙取拐帶其他詐偽ノ所爲アルモノハ詐欺取財ヲ以テ論ス下明言セル所以ナリ茲ニ一疑問アリ竊盜カ他人ノ物件ヲ自己ノ占有内ニ入レタル後之ヲ賣却シ又ハ毀損スルトキハ其賣却毀損タルヤ既ニ占有内ニ入レタル後ナレハ此點ヨリ論スルトキハ竊盜ハ總テ受寄財産費消罪ヲ犯スモノト云フヘシ然レトモ竊盜ノ有スル占有ハ受寄ニヨリ之ヲ得タルニアラス無斷ニテ奪ヒ去リタルモノナレハ受寄ノ要件ヲ欠クヲ以テ受寄財産費消罪ハ成立スルコトナシ又余カ或店ニ至リ其入ヲ遺忘シテ歸リ來リシ場合ニ其店ノ主人之レヲ奇貨トシテ其賣入ヲ賣却シ依テ得タル金錢ヲ費消スルトキハ是レ即チ受寄財産費消罪タルヲ免レス何トナレハ此場合ノ如キハ余ニ於

テ賣入ノ保監ヲ該主人ニ委託シタルニアラサレトモ占有ハ主人ニ移ルヘク其移リタル占有ハ不正ノ方法ニ依リ得タルモノニアラサレハ尙受寄財産ト云フヘク之ヲ費消スルトキハ費消罪タルコトハ明カナルヘシ之ヲ要スルニ其占有ハ受寄ノ方法ニヨリテ之ヲ得タルニアラサルモ之ヲ不正ノ方法ニ依リテ得タルニアラサレハ可ナリトス

第二 財産トハ有形動産ナルヲ要ス 例ヘハ借リ受ケタル他人ノ家屋ヲ毀損シ又ハ借受ノ土地ヲ荒廢スルモ受寄財産費消罪ニアラサルヘシ何トナレハ二者何レモ不動産ナレハナリ

第三 費消トハ何ソヤ費用消耗シテ所有主ニ對シ再ヒ還附スル能ハサル地位ニ至ラシムルヲ云フ換言セハ原位置ニ復スル能ハサルニ至ラシメタルヲ云フ此點ニ關シ注意スヘキコトハ他人ノ物件ヲ借受ケ其承諾ヲ經スシテ之ヲ典物トナシ其金錢ヲ費消シタル後貸主ヨリ返還ノ督促アルニ當リ借主ハ之ヲ典物ニナシタルコトヲ發覺セハ其借主ハ受寄財産費消罪ニ問ハル、ヤ如何或論者ハ曰ク元金及利子ヲ支拂ヒ之ヲ受戻ストキハ貸主ニ返還スルヲ得ルカ故ニ毫モ罪ノ問フヘ

キナキカ如シト果シテ然ラハ他人ヨリ物件ヲ借受シテ之ヲ典物トナスモノ踵チ接シテ起ルニ至ル其ニ又或論者ハ曰ク貸主ヨリ返還ヲ請求セラレタル時之ヲ受戻シテ返還スレハ敢テ犯罪トナラスト然レトモ余ヲ以テ之ヲ見レハ受寄財産費消罪ナル者ハ費消後ノ結果如何ニハ少シモ關係ナキ者ト信ス例ヘハ人ノ物件ヲ借受シ之ヲ典物ニナシタル後金策成ラス物件ヲ受戻ス能ハサルトキハ有罪ナリヤ否ヤハ借主カ典物トナスノ際如何ナル意思ヲ有シタルヤニヨリ之ヲ定メサルヘカラス即チ之ヲ受戻スノ意思ナカリシナラハ縱令後日之ヲ受戻スト雖モ尙ホ其罪ヲ免レス是猶他人ノ物件ヲ竊取シテ後日之ヲ返還スルモ其罪ヲ免レサルト一般ナリ反之縱令受戻スコト能ハスト雖モ典物トナスニ當リ之ヲ受戻ス意思ナリシトキハ毫モ罪トナラサルナリ何トナレハ費消ノ意思ナケレハナリ斯ク論シ來レハ人或ハ云ハン他人ノ物件ヲ典物トナシ之ヲ受戻スト否トハ貸主ニ在リテハ大ニ利害ヲ感スル所ナリ若シ斯ル借主ニシテ警察官吏ニ捕ヘラル、トキハ余ハ其始メ受戻ス意思ヲ以テ典物ト爲シタリト云ヒ以テ罪ヲ免ル、ヲ得ヘシ豈ニ又不當ナラスヤト今之ヲ證據法ヨリ論スルトキハ後日ニ至リ受戻スコト能ハサ

ルトキハ之ヲ典物ニナスノ際受戻ノ意思ヲ有セザリシモノト推測スルコトヲ得ヘキヲ以テ敢テ差支ヘアルナシ然レトモ是レ證據法上ノ議論ナルヲ以テ敢テ茲ニ之ヲ論スルノ必要ナシ

受寄財産費消罪ハ佛國ニ於テハ之ヲ背信罪ト稱シ英國ニテハ之ヲ「ブリーチ、オフ、トラス」(Breach of trust)ト云フ今之ヲ學術的ヨリ論スルトキハ受寄財産費消罪ハ背信罪ト異ナルモノニシテ却テ竊盜罪ニ近シ何トナレハ此罪ハ他人ヨリ委託セラレタル物件ヲ使用シテ之ヲ返還スル能ハサルニ至リ又ハ之ヲ賣却スルコトヲ云フニアレトモ學理上ノ所謂背信罪ナルモノハ費消ナル原素ヲ有セス唯人ノ信用ニ反スルヨリ起ルモノナレハナリ即チ後見人管財人又ハ代言人等カ惡意ヲ以テ其己レニ委託セラレタル事柄ヲ委託者ニ不利ナル取扱ヲ爲シタルトキノ類ヲ云フ今例ヲ擧ケテ之ヲ説明センニ總テ幼者ハ其財産ヲ管理スルコト能ハサルカ故ニ後見人ヲ撰定シテ之ヲ委任スルヲ常トス此場合ニ於テハ後見人ハ幼者ノ不利益ヲ避ルコトニ充分ノ注意ヲナシ以テ其財産ヲ管理セサルヘカラス然ルニ其後見人ハ或ル銀行ノ世上ニ信用ヲ失シ將ニ倒産セントスル情況アルニモ



拘ラス之ニ預金ヲ爲シタリトセヨ苟クモ幼者ノ利益ヲ計ランニハ其財産ヲ確實ノ銀行ニ預クヘキハ當然ナルヘキニ後見人ハ故ラニ之ヲ該銀行ニ預ケタランニハ是レ未タ其財産ヲ費消シタルニアラサルモ該所爲タルヤ財産所有主即チ幼者ニ不利ヲ與フルモノニシテ學術上所謂背信罪トナルヘシ然レトモ我刑法ニ斯ル所爲ヲ罰スル正條ナキハ蓋シ我刑法ノ缺點ナラン

受寄財産費消罪ト他ノ類似スル犯罪トノ區別ハ左ノ如シ

(甲)受寄財産費消罪ハ單ニ所有ヲ保護シ盜罪ハ所有ト占有ヲ保護スルノ意ニ出ツ故ニ(一)盜罪ノ目的物タルモノハ他人ノ占有内ニ存スルコトヲ要シ受寄罪ハ己ニ自己ノ占有ニ歸シタルモノタルヲ要ス(二)盜罪ノ所爲ハ其物品ヲ他人ノ占有内ヨリ自己ノ占有内ニ移轉スルニアレトモ受寄罪ハ之レヲ消費スルコトヲ要ス

(乙)受寄罪ハ斯ク單ニ物件ノ所有ヲ保護スルノ意ニ出ツルニ外ナラサルモ詐欺取財ニ在テハ有形動産ノミナラス併セテ一般ノ財産ヲ保護スルノ意ニ出ツ故ニ(一)受寄罪及盜罪ノ目的物ハ單ニ有形動産ニ止マレトモ詐欺取財ノ目的物ハ無

形財産タルコトヲ得(二)受寄罪及盜罪ハ所有主ノ承諾ナキコトヲ要スルモ詐欺取財ノ罪ハ所有主ノ承諾アルモ尙成立スルコトヲ得(三)詐欺取財罪ノ所爲ハ財産ヲ費消シ又ハ損害スルト否トヲ問ハス

(丙)准竊盜即抵當典物ト爲シタル自己ノ財産ヲ竊取スルノ罪ハ只質取主ノ占有ヲ保護スルニ止リ少シモ所有權ヲ保護スルノ目的ナシ是レ受寄罪、盜罪、詐欺取財ト大差アル所ナリトス

(丁)或學者ハ不確定物又ハ代換物ハ受寄罪ノ目的タルコトヲ得スト論スルモノアレトモ確定物不確定物得代物不得代物ノ差異ハ只タ受寄罪ノ成立ニ關スル證據法上ノ差異アルノミニシテ犯罪ノ成否如何ニ關スルコトナシ蓋シ金錢ノ如キ確定ノ物品ニアラサルモノハ委託者ハ暗ニ受寄者ヲシテ使用ヲ許可シタルモノト推測シ得ヘキヲ以テ其犯意ヲ證明スルコト甚タ難シ又現行刑法ハ一種ノ犯罪ヲ以テ特ニ受寄財産費消罪ヲ規定スル節中ニ加ヘタリ第三百九十六條ニ自己ノ所有ニ係ル財産ト雖モ官署ヨリ差押ヘタル物件ヲ藏匿脱漏シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處スヘキモノトスレトモ是レ全ク受寄財産費

消罪ト其性質ヲ異ニセリ

強盜ノ罪

強盜罪ノ性質及定義

義

第一節 強盜ノ罪

強盜罪ノ性質及ヒ定義

強盜ノ罪ハ我刑法第三百七十八條ニ其定義ヲ掲ケタリ曰ク「人ヲ強迫シ又ハ暴行ヲ加ヘテ財物ヲ強取シタルモノハ強盜ノ罪トナス」ト此定義ヨリ觀察スルトキハ強盜タルヤ之ヲ竊盜罪ニ比スルニ唯暴行脅迫アル點ニ於テ相異ナルノミ其他ノ原素ニ至テハ二者敢テ異ナル所ナシト雖モ強迫及暴行ハ強盜罪ヲ構成スル一元素ニシテ竊盜罪ノ加重情狀ニアラス故ニ未タ財物ヲ竊取セスト雖モ已ニ暴行脅迫ヲ加ヘ財物ヲ奪取セントシタルトキハ強盜ニ着手シタルモノナルヲ以テ之ヲ強盜未遂ニ問ハサル可ラス

今強盜罪ニ關シテ要點ヲ擧クレハ

第一 暴行及脅迫ハ共ニ人ニ對シテ行フタルモノナルヲ要ス何トナレハ強盜罪ノ定義ニ依レハ人ヲ脅迫シ又ハ暴行ヲ加ヘ云々トアレハナリ然ルニ人ニ對スル暴行ニアラスシテ物ニ對スル暴行ナルトキハ強盜罪ハ成立セサルナリ例ヘハ戶

障子ヲ蹴テ之レヲ破リ以テ人家ニ闖入シ財物ヲ盜奪スルモ是レ決シテ強盜ニハアラサルナリ何トナレハ此場合ニ於ケル暴行ハ人ニ對スルモノニアラサレハナリ

第二 暴行脅迫ヲ受クル者ハ必スシモ財物ノ所有主ナルヲ要セス正當ノ占有者及ヒ保管者ニ暴行ヲ加ヘ其占有保管ノ物件ヲ強取シタル場合ト雖モ等シク強盜罪トナルヘシ故ニ主人不在ノ時其婢僕ニ對シテ暴行ヲ加ヘ財物ヲ強取スルトキハ其財産ノ所有主タル主人ハ毫モ暴行ヲ受ケタルニアラスト雖モ尙ホ強盜罪ハ成立スヘシ

第三 暴行脅迫ハ必ス占有ヲ奪取スル手段ト爲シタルモノナラサルヘカラス例ヘハ盜アリ人家ニ侵入スルニ際シ其家ノ主人ト爭論シ末之ヲ毆打スルモ強盜罪トハナラサルヘシ必竟スルニ唯暴行脅迫ヲ加ヘタル點ニヨリ直チニ強盜罪ナリト決スルヲ得サルナリ暴行脅迫ハ他人ノ占有内ニアルモノヲ自己ノ占有ニ入ルノ手段トシテ用ササルヘカラサルナリ

第四 他人財物ヲ竊取シテ逃走スル際其所有主ヲ毆打スルモ強盜罪ニハアラサ

ルナリ何トナレハ此場合ニ於テハ既ニ占有ヲ奪取シ終リタル後ノ暴行ニシテ之  
 レヲ奪取スル手段トシテ用ヰタル者ニアラサレハナリ然レトモ我刑法ニハ強強  
 盜ナルモノアリ則チ現行窃盜ヲ發覺セラレタル際其財物ノ取還ヲ防ク爲メ臨時  
 暴行ヲ加ヘタル場合ナリ然レトモ此場合ニ於ケル暴行ハ占有ヲ奪取スル手段ニ  
 用ヰタルニアラサルカ故ニ純然タル強盜ニアラサルナリ我刑法力之ヲ強強盜ト  
 ナシタルハ特例ニシテ其性質ニ至テハ決シテ強盜ニアラス(第三百八十二  
 條)

第五 暴行脅迫ナキトキハ強盜ニアラサルヘキニ我刑法ハ藥酒等ヲ用ヰ人ヲ昏  
 迷セシメ依テ其財物ヲ奪取スルモノモ亦強盜ヲ以テ論スヘキモノト定メタリ是  
 亦刑法ノ特ニ規定スル所ナリ(第三百八十三條)

強盜ノ種類

(甲)單純強盜 ハ刑ヲ加重シテ特ニ別罪トスルニ足ラサル通常ノ強盜ニシテ重罪  
 トナシ輕懲役ニ處ス減輕ニ因テ輕罪ノ刑ニ處スルモノハ六月以上二年以下ノ  
 監視ヲ附加ス(第三百七十八條)

(乙)持兇器強盜又ハ二人以上共犯 ハ各一等ヲ加ヘ若シ二人以上持兇器強盜ヲ犯  
 シタルトキハ二等ヲ加フ(第三百七十九條)但シ茲ニ所謂兇器ハ單ニ之レヲ携帶  
 スルヲ以テ足レリトシ敢テ強迫ノ用ニ供セシコトヲ必要トセス

(丙)強盜傷人及致死 暴行強迫ヲ爲スニ當リ人ヲ傷ケタルモノハ無期徒刑ニ處シ  
 死ニ致シタルトキハ死刑ニ處ス(第三百八十條)但シ本條ニ於テ特ニ注意ヲ要ス  
 ヘキハ人ヲ傷ケタル云々ノ一句ナリ本條ノ所謂人トハ自己以外ノ他人ヲ指示  
 スルモノニシテ荷モ自己以外ノ人タル以上ハ其共犯人タルト否トチ問ハサル  
 ヘシ例ヘハ甲乙丙共謀シテ強盜ヲ爲スノ際甲ハ乙ヲ監守人ト誤認シテ之レヲ  
 傷ケタルトキハ甲ト丙トハ二人以上強盜傷人ノ罪ヲ免レスト雖モ乙者ハ唯二  
 人以上強盜ノ罪アルノミニシテ傷人ノ罪ナカルヘシ何トナレハ乙者ニ就テハ  
 己レヲ傷スル事實アルノミニシテ他人ヲ傷スル事實ナケレハナリ

(丁)強盜強姦 強姦ハ強盜現場ニ於テスレハ即チ足レリ必スシモ暴行強迫ノ一手  
 段トシテ之ヲ行フコトヲ要セス故ニ強姦ノ罪トハ全ク別罪ニシテ之ヲ強盜ノ  
 條下ニ定ムルヲ要セスト雖モ我國ノ慣習多ク此罪ヲ犯スナリテ特ニ強盜ノ條

下ニ之ヲ定メ無期徒刑ニ處スルコト、ナシタリ但シ苟モ強盜タランニハ其已  
遂未遂ヲ問ハスト雖モ強姦未遂ハ之ヲ總則ノ例ニ照シ一等ヲ減セサルヘカラ  
ス(第二百八十一條)

(戊)右ノ外海上強盜 即チ海賊ノ如キハ強盜中最モ惡ムヘキモノニシテ萬國ノ敵  
トシ共ニ刑罰權ヲ有スルモノナレトモ現行刑法ニ於テハ單ニ之ヲ強盜ノ罪ト  
シテ論スルヨリ外ナカルヘシ

以上強盜罪ノコトヲ講了シタルヲ以テ是ヨリ詐欺取財ニ付テ講述スヘシ

### 第三節 詐欺取財ノ罪

#### 詐欺ノ本性

刑法第三百九十條ニ於テ詐欺取財ノ定義及其制裁ヲ掲ケテ曰ク「人ヲ欺罔シ又ハ  
恐喝シテ財物若クハ證書類ヲ騙取シタルモノハ詐欺取財ノ罪ト爲シ二月以上四  
年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス因テ官私ノ文書ヲ偽  
造シ又ハ増減變更シタル者ハ偽造ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス」之ヲ一讀ス  
レハ實ニ明瞭ニシテ一點ノ疑ナキカ如シト雖モ諸種ノ犯罪中最モ困難ナルモノ

ハ此罪ヲ以テ第一トス我刑法ニ於テモ右ノ如ク其定義ヲ掲ケタレトモ意義漠然  
トシテ詐欺ノ何モノタルヤチ明ニスル能ハサルカ故ニ寧ロ之ヲ掲ケサルノ優レ  
ルニ如カサルナリ彼ノ英國法學者ハ總シテ定義ヲ下スコトヲ好ムト雖モ詐欺ニ  
付テハ一ノ定義ヲ下スコトナシ是蓋詐欺ナルモノハ千情万態容易ニ端倪シ能ハ  
サルヲ以テ豫メ一定シ得サルニ因ルナランヨシ又之ヲ豫定スルモ狡兒惡漢ハ種  
々ナル手段ヲ設ケ法網ヲ潜リ立法官ノ規定ハ水泡ニ属スルモノアレハナリ然ル  
ニ我刑法ハ斯ク容易ニ其定義ヲ下シタルハ或ハ其當ヲ失スモノニアラサル歟余  
ハ是ヨリ純然タル學理ニ據リ詐欺取財ノ性質ヲ論究セントス  
(第一)人ヲ欺罔スルトハ何ソヤ曰ク全ク存在セサル事實ヲ虛構シ現在セル所ノ事  
實ヲ隱蔽シ又ハ其模様ヲ變造シ以テ被害者ノ心ニ疑惑ヲ起サシメ或ハ錯誤ヲ生  
セシムルヲ云フ此定義ハ學理上ヨリ下シタルモノナリ然ラハ恐喝トハ如何ナル  
モノヲ指スヤト云フニ恐喝ハ欺罔ニ比スレハ少シク其趣ヲ異ニスルモノニシテ  
現在若クハ過去ノ事實ニ拘ハラズ全ク未來ノ事實又ハ人ノ意見ニヨリ他人ニ恐  
レヲ抱カシムルヲ云フ

以上掲ケタル所ノ定義ヨリ觀察スルトキハ欺罔ト恐喝トハ其相異ナル點二個アルコトヲ知ルヘシ即チ欺罔トハ現在スル事實ヲ隱蔽シテ其事實アラスト云ヒ又ハ存在セサル所ノ事實ヲ捏造シ或ハ之ヲ變造スルヲ云ヒ之レニ反シテ恐喝ハ未  
來ノ事實又ハ人ノ意見ニヨリ他人ヲ恐レシムルヲ云フ是二者ノ差異アル第一點  
ナリ又欺罔ハ被害者ノ心ニ疑惑ヲ起サシメ又ハ錯誤ヲ生セシムルモノニシテ恐  
喝ハ恐レテ生セシム是二者ノ差異アル第二點ナリ今右ノ二者ヲ例解スヘシ  
例ヘハ余カ此刑法ヲ他人ニ賣ラントシ是ハ刑法ナリ之ヲ一讀セハ忽チニシテ陶  
朱猗頓ノ富ヲ致スヤ必セリト云フカ如キハ即チ現在セサル事實ヲ虚構スルモノ  
ニシテ所謂欺罔ナリトス又夕面積廿坪ニ超ヘサル地面ヲ賣ルニ當リ對手人ノ算  
數ヲ知悉セサルヲ奇貨トシ詐テ面積二百坪アリト説クカ如キハ是現在セル事實  
ヲ隱蔽シテ他人ニ賣却シタルモノナレハ其對手人ニ錯誤ヲ生セシメ以テ二百坪  
ノ價格ニテ買得セシメタルモノニシテ前例ト同シク欺罔ナリトス反之恐喝トハ  
例ヘハ此ニ惡漢アリテ一ノ怯懦ナル愚夫ニ向ヒ喃々説出シテ曰ク汝ハ劍難ノ相  
アリ不日鬼籍ニ登ルヤ必セリ若シ余ニ百金ヲ與ヘハ余ハ救濟方法ヲ熟考シ神

佛ニ祈誓シテ汝ノ災厄ヲ除クヘシト此場合ノ如キハ事實ノ虚實ニ拘ハラズ自己  
ノ意見ニヨリ其愚夫ヲシテ其命且夕ニ迫レリトノ恐レヲ抱カシムルモノナリ然  
レトモ單ニ意見ヲ述フルニ過キサルトキハ欺罔ニモアラス又恐喝ニモアラサル  
ナリ例ヘハ予カ所有ノ地所ハ二百坪アリ條約改正又ハ市區改正アルニ於テ予  
ノ近傍ハ繁華ヲ致シ地面ノ價值大ニ騰貴シ其利益ヲ受クルヤ大ナルヘシ請フ一  
坪十圓ノ割合ヲ以テ之ヲ買得セヨト云フ如キハ是只意見ニ止ルモノニシテ事實  
ヲ隱蔽シタルニアラス錯誤ヲ生セシメタルニアラス又恐レテ生セシメタルニア  
ラサルナリ從テ何等ノ犯罪ヲモ成立スルコトナカルヘシ故ニ狡兒アリテ他人ニ  
恐レテ生セシメス又之ヲ欺カサル以上ハ其術計ニヨリ金錢ヲ取ルコトアルモ法  
律上一ノ制裁ヲ科スルコトナシ然レトモ苟クモ恐レテ生セシムルニ至リテハ意  
見ナルト又未來ノ事實ナルトヲ問ハス恐喝トナルヘシ尙ホ恐喝ノ一例ヲ擧ケン  
ニ例ヘハ他人ニ向ヒ汝ハ賭博犯ノ嫌疑ヲ受ケタリ余ニ金錢ヲ與ヘハ巡查ニ告發  
スルコトヲ止ムヘシト云フカ如キハ其人ニ恐レテ抱カシムルモノナルヲ以テ犯  
罪ヲ構成スルモノトス又果シテ欺罔ナリヤ或ハ恐喝ナリヤ事實ニ於テ困難ナル

問題ヲ生スルコトアリ荷クモ意見ニ止マリ對手人ニ恐レヲ生セシメサル以上ハ  
 毫モ罪ナカルヘシト雖モ少シク場合ヲ變ヘ之ヲ論センニ例ヘハ一ツ遊治郎アリ  
 容姿輝媚タル或豪商ノ女子ヲ欺キテ利益ヲ占メントス然ルニ其女子ハ該男子ニ  
 懸慕シ説テ伉儷タランコトヲ希フ男子之ヲ承諾シ女子ニ向テ其金融逼塞ノ事情  
 ナ縷陳シ遂ニ金錢ヲ與ヘシメタル場合ノ如キハ欺罔ニモアラス又恐喝ニモアラ  
 サルナリ何トナレハ其女子ハ恐レヲ抱カス又其男子ハ現在及過去ノ事實ヲ虚構  
 シ又ハ隠蔽シタルニアラサルナリ然レトモ之ニ反シテ其男子ニ於テ既ニ妻ヲ有  
 シナカラ余ハ未タ妻ヲ娶ラスト云フトキハ則チ過去ノ事實ヲ隠蔽スルコトハサ  
 リ欺罔トナルヘシ又單ニ契約ニ違背セシメニテハ何等ノ罪ヲモ構成セサルモ  
 ノナリ例ヘハ人ヨリ金錢ヲ借受スルニ當リ負債主ハ債主ニ向ヒ若シ返濟期日ニ  
 至リ不都合アラハ余所有ノ家産ヲ賣却シテ以テ償却ニ充ツヘシト説キ遂ニ金錢  
 ナ借リタル場合ノ如キ若シ其負債主ニシテ眞ニ家屋ヲ所有スルトキハ敢テ罪ヲ  
 問フヘキナシト雖モ一ノ家屋ヲモ有セサルニ於テハ純然タル詐欺取財トナルモ  
 ノトス

論者アリ曰ク恐喝ハ事實無根ホラサルヘカラスト余ヲ以テ之レヲ見レハ恐喝ナ  
 ルモノハ事實ヲ有無ニ拘ハラサルモノト信スルナリ例ヘハ現ニ賭博ヲ爲シ又ハ  
 實際盜罪ヲ犯シタル者ニ對シテ汝ハ何月何日賭博ヲ爲シタリ又ハ盜罪ヲ犯シタ  
 リ余ニ百圓ヲ與ヘハ告發セサズヘシト云ヒ以テ金錢ヲ授受セシメタリトセツカ  
 此場合ニ於テハ其惡漢ヲ依テ以テ手段ヲ爲シタル所以賭博罪又ハ盜罪ハ現在ニ  
 此事實遂ニ而シテ之ヲ一見スレハ欺罔ノ如クナリ雖モ心ニ疑惑ヲ生セシ  
 メタラシメアラス又錯誤ヲ起サシメタルニアラス只其者ノ心中ニ告發セラル、  
 恐レヲ生セシムルヲ點ニ因テ恐喝取財トナルモノトス然ラハ恐喝ノ用ニ供スル  
 事實ハ無根ホラサルヘカラスト此ノ説ハ其當ヲ得タルモノナラサルハ又  
 學者往々恐喝ト脅迫トヲ混同シ爲メニ誤認ニ陥ルコト多シ例ヘハ強盜ノ大聲  
 ニ聲入テ威嚇シテ金錢ヲ提出セザレバ汝ノ身首其所ヲ異ニ爲シト叫ビ以テ財物  
 ナ強取スルトキハ其被害者ノ心中ニ恐怖ノ念ヲ生セシメタルカ故ニ恐喝取財ト  
 如シト雖モ之ヲ熟考スル所キハ其然ラサルヲ覺ユヘシ即チ此場合ノ如キハ所謂  
 脅迫ヲ用ヒタルモノニシテ強盜ノ罪ヲ犯シタルモノナラズ然ラハ脅迫ト恐喝トハ

如何ナリ區別アリヤト云フニ脅迫ニ於テハ其害ハ現在且忽然ニ被害者ニ及フヲ要ス反之恐喝ナ然者ハ其害ハ未來ニ屬スルモ少ク以上講述ニ所ヲ以テ欺罔及恐喝ノ何タルコトヲ明瞭ナカト信スルモ序ニ一言スヘキコトハ諸君ハ或刑法注釋書ニ於テ強盜ト恐喝取財ノ區別ヲ爲シ強盜ハ相識ノ間ニ行ハルモ以テアラズ反之恐喝取財ハ相識ノ間ニ行ハルト論ズルモノヲ知ラルヘオラン然レドモ余ハ斯ル説ヲ以テ未ダ兩罪ノ區別ヲ爲スニ足ラサルモ少ト信スルナリ何トナレハ恐喝取財ハ敢テ相識ト否トニ關係ナキモノニシテ一面識ナキモノヲ欺罔シ又ハ恐喝スルモ亦此罪ヲ構成スルニ充分ナリ又親密ナル知己ノ間ニ於ケルモ純然タル強盜罪成立スルコトアルヘシ論者ハ右ノ區別ニ例外ヲ設ケ夜間又ハ山中無人ノ境ニ於ケルカ或ハ覆面シテ犯ス場合ニ於テハ相識ノ間ニ於ケルモ強盜罪構成スヘシト論セリ去レトモ斯ノ如キ小説的ノ區別ハ法律上ノ區別ト爲スノ價値ナキナリ

(第二)犯罪ノ物体タルヘキモノハ有形無形ヲ問ハス他人ノ占有權其他一般ノ物上權ハ勿論債主權相續權訴權就中借用證書等ヲ包含ス我刑法ニハ財物若クハ證書

類ヲ騙取シ云々ト明記スレドモ其所謂證書類ナルモノハ無形財產若クハ債主權等ヲ證明スルノ具タルニ過キヌシテ夫ノ窃盜罪ノ有形ナル證書トシテ幾分ノ價値ナル物品ヲ指スモラニアラス故ニ自己ノ豫メ差入レ置キタル借用證書ヲ騙取シ又ハ義務釋放ノ證書ヲ差出サシムル場合等ニ於テハ詐欺取財ノ犯罪ノ物体タルヘキ者ハ無形ナル債主權ナリ然レドモ其有形ナル證書ニ至リテハ一個ノ物件ニシテ荷モ多少ノ價值アル以上ハ即チ有形動産ナリ刑法ノ所謂證書類ニガラス

(第三)騙取トハ何ソヤ其字義ヲ云ハ、騙ハかたるナリ取ハとるナリ前段ニ於テ講述シタル盜罪ニ於ケル窃取又ハ強取ノ取ハ他ノ監督内ヨリ其財物ヲ自己ノ監督内ニ入ル、又云フ然ルニ我刑法ニヨリハ證書類即チ無形物ヲ騙取スルコトヲ得ルカ如シト雖モ凡ソ無形物ヲ取ルコトハ天帝又ハ鬼神メテ尙ホ能ハサルノ業ナルヘシ之ヲ學理的ヨリ云フトキハ騙取トハかたるナリ即チ他人ノ財產ヲ害スルヲ云フ畢竟我立法官ハ總テ詐欺取財ノ物體ヲ有形的ニ思惟シタルヤ疑ナク縱令無形物ハ此罪ノ物體タルヲ得ヘシト雖モ無形物ハ之ヲ取ルコトヲ得サルカ故ニ其證據タルヘキモノヲ有形的ニ證書類ト記載シ從テ取ルト云フ字ヲ使用シタル

或如シ然レトモ是レ熟考シタル定義ニ非サルナリ又或佛國法學者ハ騙取ナル字ヲ用ヒルハ其當ヲ得ス寧ロ交付ト書スルノ優レルニ如カスト論スレトモ此交付モ亦有形物ニ付テ云フモノナリ而シテ我刑法草案ニ於テモ交付ノ字ヲ使用セラレタルカ到底止來講述シタル語弊ヲ避クルヲ得サルナリ

(第四)ハヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ物品ヲ騙取スルハ其犯罪者自身又ハ他人ノ利益ヲ圖ルノ意ニ出ヅルヲ要ス換言シテハ犯罪者ニ於テ利益ノ目的アルヲ要スルナリ

(第五)詐欺取財ノ被害者即チ欺罔又ハ恐喝ヲ受クル人ハ必スシテ其財物又ハ證書類ノ所有主タルヲ要セサルコト猶ホ強盜ノ脅迫ヲ受クルモノハ財物ノ所有主タルヲ必要トセサルカ如シ例ハ余他人ニ向ヒ本校閱覽室ニ備付ケタル書籍ハ悉皆我所有物ナリ極メテ廉價ヲ以テ賣却スルコト詐リ僅カニ五十圓ノ代價ヲ以テ之ヲ賣買シタルトモ余ハ詐欺取財ノ罪ヲ犯シタルヤ明カナリ何トナレハ事實ハ變造者若シテ他人ニ錯誤ヲ生セシメタルハナリ然ルニ此場合ニ於ケル被害者ハ書籍ノ所有者タル學校ニテラスシテ余ニ欺カレタル他人ナリトス何トナレハ學校ハ其書籍上ニ物權ナル一種ノ所有權ヲ有シ從テ追跡權ヲ有スルヲ以テ余ノ所

詐欺取財ノ種類

爲ニ依ルモ損害ヲ被ラヌ唯余ニ欺カレタル他人ニ於テ損害ヲ受クルノミナレハナリ又甚シキニ至テハ裁判官ヲ欺罔シテ金錢ヲ騙取スルコトアリ例ハ八人ニ金錢ヲ貸與シタルコトナリ虚妄ノ證書ヲ作爲シ之ヲ以テ其人ヲ訴ヘタル場合ニ於テ其被告ハ何ナリタル者ハ自己ノ印影アル證書ニ對シテ反證ヲ舉グルコト能ハサルニ對シテ裁判官ハ被告人ニ對シテ債務ヲ辨濟スヘキ判決ヲ下シタル時ハ其裁判官ハ即チ詐欺取財ノ手段トナリタルモノニ對シテ換言セハ犯罪ノ用ニ供セタルモノナリ

以上講述シタル所ヲ以テ詐欺取財ノ罪ニ關スル全体ハ性質ハ明瞭ナルヘシ依テ是ヨリ詐欺取財ノ罪ノ種類ヲ講述セントス

詐欺取財ノ種類

(第一)前ニ述ヘタル如ク詐欺取財ナルモノハ精密ニ之ヲ區別スレハ欺罔取財及恐喝取財ノ二個トナズ得ベシ然レトモ我刑法ハ別章之ヲ區別セズテ其共同條ノ中ニ含蓄セシメ是單純ノ詐欺取財ナリトス其刑罰ノ如キハ前ニ掲ケタル以テ再ビ茲ニ贅セズ



〔第三〕刑法第三百九十一條ニ曰ク「幼者ノ知慮淺薄又ハ人ノ精神錯亂シタルニ乘シテ其財物若クハ證書類ヲ授與セシメタルモノハ詐欺取財ヲ以テ論ス」ト即チ此種ノ詐欺取財ハ必スシモ欺罔又ハ恐喝ノ原素ヲ要セス唯法文ノ示スカ如ク幼者ノ知慮淺薄又ハ人ノ精神錯亂ニ乘シテ金錢ヲ取ルヲ云フ而シテ幼者ノ知慮淺薄トアルカ故ニ大人ニシテ愚者ナル場合ハ又トヒ其財物ヲ授與セシムルモ罪トナラサルモノトス又精神錯亂トハ大人ナルト幼者ナルトヲ問ハサルモノトス之ヲ要スルニ本條ハ其本質詐欺取財ニテラサレトモ詐欺取財ニ准シテ論スルニ過キサズナリ

〔第三〕刑法第三百九十二條ニ曰ク「物件ヲ販賣シ又ハ交換スルニ當リ其物質ヲ變シ若クハ分量ヲ偽テ人ニ交付シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス」ト即チ此種ノ詐欺取財ハ單純詐欺取財ニ異ナル點ハ契約ヲ締結スルトキニ惡意アルニテラスシテ之ヲ實行スルニ當リテ惡意ヲ生スルニアリ例ヘハ正當ニ米穀一俵ヲ賣買セント約定シ其代價ノ支拂アリタル後愈々米穀ヲ交付セントスルトキ即チ契約ヲ實行セシトズルトキ其物質ヲ變シテ劣等シモノトナシ又ハ其量ヲ減スルヲ云フ是レ第

三種ノ詐欺取財ナリ

〔第四〕他人ノ動産不動産ヲ冒認シテ販賣交換シ又ハ抵當典物トナシタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ストハ是刑法第三百九十三條第一項ニ規定スル所ニシテ所謂冒認罪ナリ蓋此罪ニ就テハ學者間ニ議論紛々タルカ如シ余ヲ以テ見レハ他人ノ動産ヲ以テ己ノ所有物ナリト欺罔之ヲ賣却スルカ如キハ純然タル詐欺取財ナリ然レ又之ヲ抵當ニ入レタル場合モ同シナリ加之我刑法ニ於テハ同條第二項ニ「自己ノ不動産ト雖モ既ニ抵當典物トナシタルモノヲ欺隠シテ他人ニ賣與シ又ハ重ネテ抵當典物トナシタルモノ亦同シ」ト規定スレトモ是亦純然タル詐欺取財ナルカ故ニ何ノ必要アリテ本條ヲ設ケタルヤ余ハ之ヲ了解スルニ苦ムナリ而シテ此場合ニ於テ注意スベキハ被害者タルモノハ其財物ノ所有主ニテラサスモ即チ欺隠カタルレハ人ナリトス何トナレハ其所有主ハ自己ノ追跡權ヲ實行シ何人ヲ手ニ存スルカ問ハズ之ヲ恢復シ來ルヲ得ルヲ以テ毫モ損害ヲ受クル所アラサレハナリ又第二項即チ二重抵當ノ場合ニ於テハ第一抵當取主ハ敢テ損害ヲ受ケスシテ第三抵當取主ハ即チ被害者ナリトス何トナレハ第一抵當取主ハ自己ノ抵當權ヲ

家資分散ニ關スル罪

追跡スルコトヲ得ルヲ以テナリ又此二重抵當ニ付テハ登記之關係アリテ二個ノ抵當各登記ヲ經タルモノナラハ如何之ニ反シテ一方ヨリ登記ヲ經タルモノナラハ如何等ノ問題アリ我刑法ニ於テハ自己ノ不動產ト雖モ既ニ抵當典物ト爲シタル者ヲ欺隱シテ云々ト規定スル以上ハ二個ノ抵當各登記ヲ經テ以テ負債ヲ爲シタルトモハ借主ニ於テハ毫モ欺隱シタル點ナキハ從テ何等ノ罪ニモ問ハレザルモノトス反之第一抵當ハ登記ヲ經スルヲ第二抵當ヨリ之ヲ經タル場合ニハ借主モ亦其罪ナシ何トナレハ法文ニ所謂欺隱トハ第二ノ抵當取主ニ對シテ云フモナレハナリ換言セハ第二ノ抵當取主ヲ欺キタル場合ヨリ有罪トナルカ故ニ第一ノ抵當ハ登記ヲ經ス第二ノ抵當ハ之ヲ經タルモノナルキハ其損害ヲ受クルモノナカレバ何トナレハ第二ノ抵當ハ有効ノ抵當トナレハナリ而シテ此場合ニ於テハ第一抵當取主ハ損害ヲ蒙ルヤ知ルヘカラスト雖モ借主ニ於テハ敢テ第二抵當取主ニ欺隱シタルニアラス從テ二重抵當ノ罪ニ問フヘキ點ナシトス以上四種ノモノハ我刑法ニ於テ定ムル詐欺取財ノ罪ナリ

第四節 家資分散ニ關スル罪

家資分散ニ關スル罪ハ刑法第三百八十八條並ニ第三百八十九條ニ於テ規定シタル其法文ニ曰ク「家資分散ノ際其財產ヲ藏匿脱漏シ又ハ虛偽ノ負債ヲ増加シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス情ヲ知テ虛偽ノ契約ヲ承諾シ若クハ其媒介ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減スト抑モ此條ノ如キハ實ニ明瞭ナルヲ以テ敢テ之カ説明ヲ要セズト雖モ先ツ其要點ヲ講述セシトス」

(第一)家資分散ノ際トハ何時ヨリ何時迄ヲ指シタル者ナルヤ換言セハ此犯罪ハ如何ナル時ニ成立スルヤト云フニ或論者ハ曰ク債務者カ其財產ヲ藏匿セントスルハ債權者ノ爲メニ差押ヘラルルヲ恐ルシニ在レハ藏匿ノ後十年ヲ經テ身代限ノ申渡ヲ受クルモ其有罪ナルコト論ヲ俟タズ又數十年ノ後ニ於テ身代限ノ申渡ヲ受クルナクシテ豫想シテ其財產ヲ藏匿スル場合ト雖モ犯罪ハ又藏匿ノ時ニ成立スル者ニシテ毫モ申渡ヲ前後如何ヲ問ハザルナリト然レトモ是極端ノ論ニシテ探ルニ足ラス此犯罪成立ニ就テハ自ラ適當ナル時期アルヘク之ヲ定ムルハ法律ノ推測ニ依ラサルヘカラスト縱令債務者カ財產ヲ藏匿スルモ之ヲ以テ百年ノ後ヲ計ラタルモノト云フヲ得ス唯身代限ノ處分前後ニ於ケル所爲ニシテ確然債主權ヲ

害スルノ目的ニ出テズルモノヲ推測スルニ足レバ此犯罪ハ其時ニ於テ成立スルモナラハ故ニ此罪ハ財産藏匿ノ當時ニ成立スルモノナレドモ之ヲ處分スルハ身代限申渡ノ後ナルヲ要ス換言スレハ身代限ノ處分カ實際存在セザルヘカテサレハ又家資分散前ニ於テ所爲ナルモ早晚家資分散ノ起ルニ必然ナル場合ナレハ其後身代限ノ申渡アルトキハ有罪トセラルハニ至ルヘシ然レドモ財産藏匿ノ時日ト身代限ノ時日トノ間隙ニシテ頗ル曠久ナルトキハ債務者ニハ惡意ナカクシモノト云ハサレベカラス之ヲ證據立ツルハ頗ル困難ナルヘシ

(第二)此犯罪ニ於テハ如何ナル意思ヲ必要トナスヤ法文ヲ見ルニ唯家資分散ノ際財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虚偽ノ負債ヲ増加シタルモノト記載セラルハノミナシテ別ニ惡意ヲ要スルコトヲ規定セス然レドモ法律ノ精神トスル所ハ此犯罪ハ債權者ヲシテ適法ノ分配ヲ受ケシメサルノ意思アルヲ要スルナラン

(第三)藏匿脱漏トハ何ゾヤ藏匿トハ債務者ニ於テ身代限ノ申渡ヲ受クルヲ知り其財産ヲ取テルハ恐レテ之ヲ他ニ轉スルヲ云ヒ脱漏トハ封印アル物件ヲ拔取ルカ如キヲ云フ而シテ藏匿脱漏ノ中ニハ充分ノ約因ナクシテ買買又ハ質入シ或ハ

債權者ヲシテ其利益ヲ得セシメサラシ爲メ債務者カ他人ニ貸附シタル貸金ノ返濟ナキニ其抵當物ヲ返還シ又ハ更ニ負債ナキニ負債アリト假裝スルカ如キ所爲ヲ含蓄スルモノトス

(第四)刑法第三百八十八條第三項ニ曰ク「情ヲ知テ虚偽ノ契約ヲ承諾シ若クハ其媒介ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減スト抑モ虚偽ノ負債ヲ作ルニハ之カ對手人カ之ヘカラス而シテ此場合ニ於テ虚偽ノ契約ノ承諾ヲ爲スモノハ正犯ニシテ其媒介ヲ爲スモノハ從犯アリトス然ルニ我刑法ニ於テハ此場合ニ限リ正犯從犯共ニ一等ヲ減スト規定セリ是特別ノ其犯例ナレドモ毫モ其理由ヲ發見スルヲ得サルナリ何トナレハ尙モ正犯タル以上ハ分散者ト同一ニ之ヲ罰セサルヘカラス敢テ一等ヲ減スルニ及ハサレタナリ又從犯ハ二等ヲ減スルヲ得ルモノナルニ茲ニハ唯一等ヲ減スルノミニテ正犯從犯ヲ同一視シタルハ如何ナル理由ノ存スルニヤ立法官カ明知我々ノ知り得ヘキ所ニアラス

(第五)家資分散ニ關スル罪ノ第二種ト云フヘキモノハ即チ刑法第三百八十九條ノ場合是レナリ曰ク家資分散ノ際簿ノ類ヲ藏匿毀棄シ若クハ分散決定ノ後債主

贓物ニ關スル罪

中ノ一人又ハ數人ニ其負債ヲ私償シテ他ノ債主ヲ害シタル者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處スト倍此罪ハ前條ノ場合ト如何ナル差異アリヤト云フニ此罪ハ財産ヲ藏匿スルニアラス唯牒簿類ヲ藏匿シ又ハ毀棄スルニアリ而シテ牒簿類ハ財産ニハアラスナルナリ即チ此罪ハ財産權ニ關係セスシテ唯之ヲ證明スル所ノ證據ヲ湮滅スルヨリ成立スルモノニシテ畢竟破産處分ヲ整頓ヲ妨害スルモノナルニ外ナラサルナリ

**第五節 贓物ニ關スル罪**

我刑法ニ於テハ贓物ニ關スル罪ヲ分テ二種トナス即チ其第一種ハ第三百九十九條ニ規定セラル其文ニ曰ク強窃盜ノ贓物ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ之ハ寄藏故買ニ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加スト第二種ト云フヘキハ第四百一條ノ場合是ナリ即チ詐欺取財其他ノ犯罪ニ關シタル贓物ヲ受ケ又ハ其寄藏故買等ヲ爲ス罪ヲ云フ先ツ其第一種ヨリ講述セントス

**(第一)抑モ贓物トハ所有者ヨリ云ヘハ不正ニ盜奪セラレ消費セラレ詐欺セラレタル**

ル物件ヲ云ヒ犯人ヨリ云フトキハ贓物トハ不正ニ盜奪シ消費シ詐欺シタル物件ナリト云フヲ得故ニ(一)其物件一タヒ正當ナル權利者ノ占有ニ歸スルトキハ忽チ贓物タル性格ヲ失ヒ(二)金錢其他ノ不確定物ニアラスルコトヲ要ス但シ其物品ノ占有ハ直接ニ強窃盜等ノ所爲ヨリ得タルモノナルヲ要セス贓物ヲ受ケタルモノヨリ更ニ其情ヲ知テ之ヲ受クルモ亦贓物タルヘシ何トナレハ強窃盜モ犯罪ナレハ贓物タルヲ知テ贓物ヲ受クルモ亦犯罪ナレハ二者等シク犯罪ニヨリテ占有ヲ得タルモノナレハナリ

**(第二)贓物ニ關スル罪ヲ構成スヘキ所爲ハ贓物ヲ受ケ又ハ之ヲ藏匿シ或ハ之ヲ賣買スル等ニアリ而シテ此罪ニ付テ諸君カ注意スヘキ點ハ此犯罪ノ範圍ナリトス**

法文ヲ見ルニ強窃盜ノ贓物タルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買ストアルカ故ニ此罪ヲ構成スルニハ贓物ナルコトヲ知テ受クルヲ必要トスルハ論ヲ俟ズ故ニ最初買受クルトキハ強窃盜ノ贓物ナルコトヲ思惟セスシテ之ヲ買受ケ其後ニ至リ之ヲ知リタル場合ニ於テハ此罪ハ成立セサルモノトス換言スレハ其物件ヲ受クルニ當リテハ毫モ贓物ヲ受クルノ意思ナク正當ノ物件ヲ受クルノ意思ナリ

シカ其後ニ於テ之ヲ知ルズルトキハ其物件ヲ如何ニ永ク所持スルモ敢テ罪トナ  
 ラサルナリ  
 (第三)贓物ニ關スル罪ノ第二種ハ刑法第四百一條ニ規定セラル曰ク詐欺取財其他  
 ノ犯罪ニ關スル物件ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲  
 シタル者ハ十日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附  
 加スト此罪ニ付テハ別ニ説明スヘキコトナク其第一種ト異ナル所ハ唯刑期ト罰  
 金ノ額ノミ

(第四)尙ホ贓物ニ關スル罪ニ付學者ノ疑ヲ容ル、點アリ法文ノ示ス如ク此罪ハ強  
 竊盜ノ奪取シタル物件ナルコトヲ知テ之ヲ受ケサルベカラズ又其物件ハ實際強  
 盜又ハ竊盜ノ奪取シタルモノナラサルベカラサルナリ故ニ心ニ不正品ナルコト  
 ヲ知リナガラ之ヲ買フモ實際不正品ニアラサル場合ニ於テハ此罪ハ成立スルコ  
 トナシ然ルニ茲ニ贓物故買ノ罪ヲ犯シタル者アリ裁判官ヨリ贓物ナルコトヲ知  
 テ之ヲ賣買シタルヤト訊問セラル、ニ當リ之ニ答ヘテ是贓物ニアラズ即チ犯罪  
 ニ係ラタル所ノ物件ニアラサルナリト云フトキハ裁判官ハ其物件ヲ奪取シタル

強盜又ハ竊盜ヲ逮捕セシメ之ヲ裁判シ其罪ノ有無確定シタル以上ニアラサレハ  
 未タ以テ贓物故買罪ノ有無ヲ判定スヘカラスト云フモノアレトモ此說ニ從フト  
 キハ實ニ不便ナルコトトナルヘシ例ヘハ強竊盜カ奪取シタルモノナルコトヲ知  
 テ或物件ヲ買取りタル者アリトセンニ其後該強盜又ハ竊盜カ死亡スルトキハ其  
 贓物故買ノ罪ハ之ヲ裁判スルコトヲ得サルニ至ルヘシ故ニ贓物ニ關スル罪ハ強  
 盜罪又ハ竊盜ノ罪等ニ關係ナク之ヲ處分スヘキモノトス何トナレハ此罪ハ特別  
 ニ規定セラル、カ故ニ之ニ依ラサルヘカラサレハナリ然レトモ此罪ヲ判定スル  
 爲メニ同時ニ強竊盜ノ罪ヲ取調ルコトハ便宜之ヲ爲スヲ得ヘシ又既ニ強盜又ハ  
 竊盜カ逮捕セラレテ有罪ノ判決ヲ受ケタル後ニ於テ其贓物ナルコトヲ知テ故買  
 スル者アリ其後檢事ノ爲メニ起訴セラル、ニ當テハ其物件ハ強盜又ハ竊盜ノ贓  
 物ニアラサルコトヲ證明スルヲ得ヘシ何トナレハ其強竊盜ニ對スル裁判ハ別人  
 ニ對スルモノナレハナリ又裁判官ニ於テモ贓物ニ關スル罪ナシト判決スルコト  
 ヲ得ヘシ斯ノ如ク論シ來レハ抵觸ヲ起スカ如シト雖モ毫モ妨ケナシトセサレハ  
 強竊盜ノ罪ニ對シテハ有罪ノ言渡ヲナシ贓物ニ關スル罪ニ付テハ無罪ノ言渡ヲ

遺失物及埋藏物ニ關スル罪  
遺失物ノ罪

爲スヲ得ヘク又贓物ニ關スル罪ニ對シテ有罪ノ言渡ヲ爲シ強窃盜ノ罪ニ付テハ無罪ノ言渡ヲ爲スヲ得ヘシ即チ二者ノ間毫モ相關係スル所アラサルナリ

### 第六節 遺失物及埋藏物ニ關スル罪

#### 遺失物藏匿ノ罪

遺失及漂流ノ物品ヲ拾得テ隱匿シ所有主ニ還付セス又ハ官署ニ申告セサル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス是刑法第三百八十五條ノ定ムル所ナリ蓋シ此罪ハ人ノ屢犯ス所ニシテ而モ又發見シ難キ犯罪ナリトス

(第一)遺失物トハ何人ノ占有内ニモアラサル所ノ他人ノ所有物ナリ故ニ遺失物タルニハ(一)何人ノ占有内ニモ存セサルコト(二)他人ノ所有物ナルコトノ二個ノ原素ヲ要ス夫ノ占有權ノ何人ニモ存在セサル故ニ物又ハ海中ノ漂流物等ハ是即チ遺失物ナリトス若シ其物件ニシテ他人ノ占有内ニアルトキハ之ヲ取ルモノハ窃盜罪ヲ以テ罰セラルヘシ又自己ノ占有内ニ存在スルトキハ受寄財産費消罪トナルヘシ即チ三個ノ罪ノ分ル、所ハ窃盜罪ハ他人ノ占有内ニアル物件ヲ取ルニヨリ

成立シ受寄財産費消罪ハ自己ノ占有内ニアル他人ノ物件ヲ費消スルヨリ構成セラル遺失物ニ關スル罪ハ何人ノ占有内ニモアラサル物件ヲ拾得シテ之ヲ隱匿スルニヨリ罰セラル、モノトス彼ノ田畠ニ成長スル所ノ菜果ヲ以テ何人ノ占有内ニモアラサル遺失物ナリトシ之ヲ拾フ者又ハ山林ニ産出スル物件ヲ以テ遺失物ナリトシテ之ヲ拾フ者ハ窃盜罪ヲ犯シズルモノトス何トナレハ田畠ノ菜果又ハ山林ノ生産物ハ占有者ナキニアラサレハナリ又終年物件ヲ拾得スルコトヲ以テ職業トスル者偶々美服ヲ着シテ頗ル富裕ノ形狀アル所ノ官吏カ其「ポケット」ヨリ財囊ノ將ニ落去ラントスルヲ知ラス揚々然トシテ歩ミツ、アルニ遭遇シ其背後ヨリ徐歩シテ心專ク財囊ノ落ツルヲ欲望シタルニ遂ニ其落チタルヲ幸トシ之ヲ取去ルトキハ遺失物ニ關スル罪ニアラスシテ純然タル竊盜罪ナリトス何トナレハ其財囊ヲ落シタル人ニシテ未ダ其所ヲ去ラサル以上ハ占有ハ其人ニ存在スルヲ以テナリ而シテ占有ニ關シテ困難ナル問題ヲ生スルコトアリト雖モ這ハ民法上占有ノ部ニ屬スルカ故ニ茲ニ之ヲ贅セス

又更ニ注意スヘキハ忘失物ノコトナリ或學者ハ遺失物ト忘失物トヲ混同シ忘失

物ヲ以テ遺失物ニ含蓄セシムト雖モ是誤謬タルヲ免レス抑モ遺失物ナルモノハ何人ノ占有内ニモ存在セサルモノヲ云フ之ニ反シテ忘失物トハ其所有主ニ於テ唯之ヲ忘レ來リシニ過キス例ヘハ余カ本院ノ机上ニ書籍ヲ忘レテ歸宅シ又ハ他人ノ家ニ糞入ヲ忘レテ歸リタル場合ニ於テ其書籍及糞入ハ遺失物ニハアラサルナリ故ニ之ヲ取ルモノハ竊盜罪タルヲ免レス何トナレハ占有ハ余カ忘レ來リタル所ノ家ノ所有主ニアレハナリ故ニ忘失物ハ遺失物ト同一視スヘカラス二者全ク相異ナル所ノ性質ヲ有スルモノナリ

(第三)遺失物スルニハ他人ノ所有物ナルヲ要ス若シ自己ノ所有物ナルトキハ之ヲ拾得スルハ己レノ權利ヲ實行スルニ外ナラス何ソ罪ノ問フヘキアラフ故ニ遺失物ハ他人ニ屬スルモノニシテ且其所有物ナラサルヘカラス從テ何人ニモ所有權ノ存在セサルモノヲ拾得スルトキハ毫モ罪ナシトス夫ノ紙屑拾カ街道ニ散布セル紙屑ヲ拾集スルハ是人ノ拋棄セル物件ヲ拾フモノナルヲ以テ遺失物ニ關スル罪ニ依テ論スルヲ得サルナリ

(第三)遺失物ニ關スル罪ハ如何ナル意思ヲ以テ必要トスルヤト云フニ遺失物ヲ拾

フノ意思即チ何人ノ占有内ニモ存在セサル所ノ物件ヲ拾得スルノ意思アルヲ必要トス故ニ街路ニ於テ拾得スルノ際其物件ハ自己ノ所有物ナリト思惟シタレトモ其後熟考シテ他人ノ所有物ナルコトヲ知り之ヲ隱匿スルトキハ遺失物ニ關スル罪トハナラサルヘシ何トナレハ法文ニハ遺失物ヲ拾得テ隱匿シ云々トアリテ物件ヲ拾得スル當時ニ於テ遺失物ヲ拾フ意アルヲ要スヘキニ右ノ場合ニ於テハ拾得ノ當時ハ其意思ナカリシヲ以テナリ若シ之ヲ遺失物ニ關スル罪ニ問フ如キアラハ擬律ノ錯誤モ亦甚シキモノト云フヘシ

(第四)遺失物ニ關スル罪ヲ構成スル所ノ所爲ハ如何ナルモノヲ云フヤ我刑法ニ於テハ單ニ遺失物ヲ拾得スルノミヲ以テ罪トナサス之ヲ隱匿シテ官ニ申告セヌ又ハ所有主ニ還附セサルトキ始メテ此罪成立ス古人ハ途ニ遺ヲ拾ハストシ之ヲ昭代ノ徵憑トシテ誇リタレトモ是決シテ嘉スヘキコトニアラサルナリ往來ニ於テ他人ノ遺失物ヲ拾フハ善行ト云ハサルヲ得ス其唯之ヲ着服シテ官ニ申告セヌ又ハ正當所有主ニ還附セサルニ至リテ罪トナルニ過キス

以上講述シタル如ク解釋スルトキハ條理明晰更ニ疑點ナキカ如シト雖モ左ニ奇

異ナル例ヲ掲ケテ以テ此罪ト他ノ罪トノ關係ヲシテ益々明瞭ナラシメントス  
 既ニ述ヘタルカ如ク我刑法ニ於テハ拾得ノ所爲アルノミヲ以テ足レリトセス之  
 ニ加フルニ官ニ申告セス又ハ所有主ニ還附セサルコトヲ要ス然ルニ余若シ或物  
 件ヲ拾得スルヤ否ヤ直チニ之ヲ賣却シ其翌官署ニ拾物届ヲ出シタル場合又ハ菓  
 子ヲ拾得シテ之ヲ直チニ食シ其後ニ至リ届出テタル場合ノ如キハ如何共ニ遺失  
 物ニ關スル罪ナカルヘシ何トナレハ我刑法ハ官ニ申告シ又ハ所有主ニ還付セサ  
 ルヲ罰スルモノナルニ此場合ハ官ニ申告シタルハナリ又菓子或ハ其他ノ物件ヲ街  
 道ニ於テ拾得シ之ヲ自宅ニ携帶シ警察署ニ申告シテ歸宅シタル後直チニ之ヲ食  
 シ又ハ賣却スル場合ノ如キ是亦遺失物ニ關スル罪ニアラスシテ受寄財産費消罪  
 トナルヘシ何トナレハ拾得トハ自己ノ占有内ニ入ルヲ云フモノナレハ拾得後  
 ニ其物件ヲ食シ又ハ賣却スルハ即チ自己ノ占有内ニ入レテ後他人ノ物件ヲ費消  
 スルモノナレハナリ詳シキコトハ受寄財産費消罪ノ條下ヲ見ヨ然ルニ論者或ハ  
 反對ヲ主張スルモノナキニアラス左レトモ余ノ說ニ從フトキハ刑罰其權衡ヲ得  
 ルニ至ルヘシ例ヘハ余往來ニ於テ一ノ貫入ヲ拾得シ之ヲ三日内ニ届出サルカ又

埋藏物ニ  
關スル罪

埋藏物ニ關スル罪

ハ所有主ニ還附セサルトキハ遺失物ニ關スル罪ニ問ハレ重禁錮又ハ罰金ノ刑ニ  
 處セラルヘシ故ニ自由刑ヲ受ケスシテ唯罰金ノ刑ヲ受クルニ止マルコトアリ是  
 頗ル正當ノコトト云フヘシ何トナレハ此罪ハ申告又ハ還附ヲ爲サル怠慢ヲ罰  
 シテ以テ其拾得物ヲ原所有主ニ還附セシムルヲ目的トスレハナリ然レトモ既ニ  
 拾得シタル物件ヲ費消スルニ至テハ斯ク如キ輕刑ヲ加フルヲ以テ未タ足レリト  
 スヘカラス之ヲ受寄財産費消罪ニ問ヒ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處スルヲ以  
 テ立法上刑ノ權衡ヲ得タルモノナルヘシ

刑法第三百八十六條ニ曰ク他人ノ所有地内ニ於テ埋藏ノ物品ヲ掘得テ隱匿シタ  
 ル者ハ亦前條ニ同シト此條トハ前ニ於テ講述シタル遺失物隱匿ノ罪ヲ規定シ  
 タルモノナリ  
 埋藏物及遺失物ハ之レヲ一見スルトキハ殆ント異ナル所ナキカ如シト雖モ之レ  
 ヲ熟考スレハ二者ノ間大ナル區別ノ存スルアルヲ知ルヘシ何トナレハ既ニ前ノ  
 講義ニ於テ述ヘタルカ如ク遺失物ハ何人ノ占有内ニモ在ラサル物品ノ謂ナレト



モ之ニ反シテ埋藏物ハ必ス其占有者アルヘキモノトス而シテ我刑法ハ埋藏物ニ關スル罪ヲ以テ他人ノ所有地内ニ於テ掘得タルモノニ限ルカ故ニ其物品ノ占有權ハ地主ニ在ルヘク結局法律ノ目的ハ遺失物ニ就テハ其物品ノ所有主ヲ保護シ埋藏物ニ就テハ地主ノ占有權ヲ保護スルモノト謂フヘシ故ニ此原則ヲ推究スルトキハ左ノ如キ結果ヲ生スヘシ

(第一)埋藏物ハ占有地アルヘキモノナルヲ以テ掘得ノ所爲ハ先ツ他人ノ占有ニ屬スルモノヲ剝奪シ而シテ後之ヲ自己ノ占有ニ歸スルニアリ若シ其物品ニシテ他人ノ所有ニ屬シ且ツ惡意ヲ以テ掘得スルトキハ即チ竊取ニシテ直ニ盜罪ヲ構成スヘシ之ニ反シテ遺失物ニ在テハ何人モ占有スルモノナキカ故ニ縱令拾得ノ際惡意アリト雖モ其後之ヲ隱匿スルニアラサレハ未ダ以テ罪トナラス

(第二)埋藏物ニ關スル罪ニ在テハ法律ノ保護スルモノハ地主ノ占有權ニシテ直接ニ埋藏物品ヲ保護スルニアラサルナリ故ニ縱令埋藏ノ物品ハ自己ノ所有物ナルモ尙ホ此犯罪ヲ構成スヘシ然レトモ自己ノ所有地内ナル以上ハ他人ノ物品ヲ掘得ルモ其占有ハ既ニ已レニ存在スルヲ以テ埋藏物ニ關スル犯罪ハ成立

財產毀損ノ罪

セサルヘク唯之ヲ費消シタルトキハ受寄財產費消罪トナルニ過キサレヘシ

(第三)占有權ニシテ尙モ地主ニ存在スル以上ハ地主若クハ掘得者ノ埋藏物アルコトヲ知ルト否トニ關係ナシ左レトモ之ヲ知ルト否トニ依リ占有權ノ有無ニ關係ヲ及ホスヘキ場合ハ此限ニアラス

第七節 財產毀損ノ罪

財產毀損ノ罪トハ權利ナクシテ他人ノ財產ヲ毀ツ所ノ罪ニシテ屢々人ノ犯ス所ナリ此罪ハ我刑法第四百十七條乃至第四百二十四條ノ八ヶ條ニ於テ規定セラレ今其要點ヲ講述スヘシ之ニ先テ注意スヘキハ財產ナルモノハ千種万様ナルヲ以テ我刑法ニ於テハ財產ノ種類ニ依テ區別シタルコト是ナリ

(第一)茲ニ所謂財產トハ動産及不動産即チ家屋土地等悉ク之ヲ含蓄ス然レトモ總テ有形ナラサルヘカラス無形ノ財產ハ茲ニ包含セサルナリ蓋無形物即チ權利ヲ毀損スルハ到底爲シ能ハサルノ業ナルヘシ而シテ尙クモ財產タル以上ハ價値アルヘキハ無論ナリト雖モ其價格ハ必スシモ金錢ニ見積リ得ヘキヲ要セス即チ賣却セント欲スルモ買主ヲ得サルカ如キ物件ニテモ可ナリトス之ヲ要スルニ心情

上ノ價值ナルト實際上ノ價值ナルトヲ論セサルモノナリ

(第二)毀損トハ何ツヤ財産ノ實質ヲ絶無ニ歸セシメ又ハ其形狀ヲ變更シ或ハ其外觀ヲ變スルヲ云フ此定義ニ付テ一ノ疑問アリ例ヘハ瓶ヲ碎テ粉末トナシタル場合ハ如何其粉末ニシテ殘存スル以上ハ實質ヲ絶無ニナシタリト云ヒ難カルヘシ左レトモ舍密力ヲ假リテ以テ實質ヲ絶無ナラシムルハ實ニ容易ナル業ナルヘシ熱火ニ依リ氷塊ヲ融解シテ水トナシ或ハ壘ノ形ヲ變シテ彎曲ナラシムルカ如キハ即チ形狀ヲ變スルモノナリ墨ヲ以テ美畫ヲ塗抹スルカ如キハ敢テ其美畫ヲ毀テタルニアラスシテ只其外觀ヲ變シタルニ過キスト雖モ是亦毀損罪タルヲ免レサルヘシ加之毀損ハ之ヲ生活物ニ加フルヲ得ヘシ例ヘハ牛角又ハ牛鼻ヲ截斷シ或ハ豕ノ臀ヲ切斷スルカ如キヲ云フ斯ノ如ク牛馬等ハ毀損スルコトヲ得ヘシト雖モ我刑法ニ於テハ其毀損ヲ罰セスシテ唯其殺害ノ罪ヲ規定スルノミ即チ牛馬等ヲ殺害セサル以上ハ如何ニ之ヲ傷害スルモ敢テ罪トナラスト雖モ若シ其切斷シタル肉ヲ取來ルコトアラハ盜罪ヲ構成スヘシ余ハ亦此點ニ就テ刑ノ權衡ノ奇怪ナルニ驚カサレテ得サルナリ

(第三)毀損ハ必ス暴行ヲ以テスルヲ要スルヤ例ヘハ他人所有ノ壘ヲ破碎センニハ必ス腕力ヲ以テスヘキヤト云フニ物理上又ハ舍密上ノ手段ヲ以テスルモ尙ホ毀損罪トナルヘシ加之温度ヲ以テスルモ此罪ヲ構成スルコトアリ例ヘハ氷塊ヲ貯藏スル倉庫ノ壁ニ極小ナル穴ヲ穿テ以テ空氣ヲ流通セシムルトキハ空氣中ニ包含スル温度ニ依テ氷塊ヲ融解スルニ至ルヘシ是純然タル毀損罪ナリトス又硫酸ナルモノハ物件ヲ腐蝕セシムル性質ヲ有スル藥劑ナリ之ヲ街路等ニ於テ通行人ノ衣服ニ注キ又着用スヘガラサルニ至ラシムルカ如キ是亦毀損罪ヲ構成スヘシ又電氣力或ハ光線ヲ假リテ以テ財産ヲ毀損スルヲ得ヘシ之ニ付テハ民事裁判所ニ於テ有名ナル所ノ實例アリ今之ニ略述センニ府下下谷區御成街道ノ如キ街衢ニ於テ互ニ相對スル藥劑店及鏡店アリ其鏡店ハ鏡ノ大招牌ヲ店頭ニ掲クルヲ以テ日々午後三四時ノ交日光之ニ直射シ藥店ノ藥劑ニ反射ヲ與ヘ藥劑ヲ破裂シテ大ナル損害ヲ蒙ラシメタルカ故ニ藥店主ハ訴訟ヲ提起シテ招牌取除ヲ請求スルニ至レリ斯ノ如キ場合ニ於テ故意ニ其招牌ヲ掲ケタリトセハ純然タル毀損罪ヲ構成スヘシ

(第四)財産毀損ハ故意ニ出ツルヲ要ス故ニ單ニ過失ニ基ツクトキハ民事上ノ損害賠償ニ止マリ毫モ刑法上ノ責任ナシトス

(第五)財産毀損ノ罪ハ毀壞シタル物体ノ種類ニ從テ區別セラレ又其刑ヲ異ニスルコト左ノ如シ

(イ)人ノ家屋其他ノ建造物ヲ毀壞シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ

二圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス(第四百十七條)

(ロ)人ノ家屋ニ屬スル牆壁及園池ノ裝飾又ハ田圃ノ樊圍牧場ノ柵欄ヲ毀壞シタル者ハ十日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二拾圓以下ノ罰金

ニ處ス(第四百十八條)

(ハ)人ノ稼穡竹木其他需用ノ植物ヲ毀損シタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス(第四百十九條)

(ニ)土地ノ經界ヲ表シタル物件ヲ毀壞シ又ハ移轉シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(第四百二十條)

元來此種ノ罪ハ財産毀損ノ罪ニアラスシテ其性質ハ全ク異ナリタルモノナ

レトモ我刑法ハ唯之ヲ毀損罪ニ准スルノミ

(ホ)人ヲ日用ニ供スル所ノ器物ヲ毀棄シタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮

ニ處シ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス(第四百二十一條)

(ヘ)人ノ牛馬ヲ殺シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓

以下ノ罰金ヲ附加ス(第四百二十二條)

(ト)牛馬以外ノ家畜ヲ殺シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス但被害者

告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス(第四百二十三條)

(チ)人ノ權利義務ニ關スル證書類ヲ毀棄滅盡シタル者ハ二月以上四年以下ノ重

禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(第四百二十四條)

建築物等ヲ毀損シ又ハ人ノ物件ヲ費消スルトキハ有罪トセラルレトモ人ノ米俵  
 水中ニ投入スルカ如キ所爲ハ之ヲ罰スルノ正條ヲ欠キタリ蓋米俵ノ如キハ日  
 用ノ器具ト云フヲ得ヌ又家屋ト云フ文字ノ内ニモ含蓄セサルナリ而シテ米俵ヲ  
 水中ニ投入スルハ純然タル毀損罪ナルコトハ明白ナリトス然ルニ之ニ付テ一ノ  
 規定ナキハ亦我刑法上ニソク欠點ナリト云ハサルヲ得ス  
 他人ヨリ委託セラレタル物件ニ對シテ尙ホ毀損罪ヲ構成スルヲ得ヘシ而シテ費  
 消罪ト毀損罪トハ之ヲ區別セサルヘカラサルナリ或論者ノ說ニ依レハ毀損罪ト  
 費消罪ノ分ル、所ハ占有權ノ有無ニアリトセリ然レトモ此說ハ取ルニ足ラサル  
 ナリ何トナレハ受寄財産費消罪ニ在テハ犯人ハ占有ヲ有スルヤ明カナリト雖モ  
 斯ル物件ニ付テモ尙ホ毀損罪ヲ見ルヲ得ヘケレハナリ例ヘハ余ニシテ他人ノ家屋  
 ヲ借受クルトキハ其家屋ハ余ノ占有内ニアルハ無論ナリ然ルニ若シ之ヲ毀壞ス  
 ルトセハ如何ニ論者ト雖モ余ハ家屋ヲ費消シタリト云フヲ得サルヘシ是純然タ  
 ル毀損罪ナリ然ラハ費消ト毀損トハ占有ノ有無ニヨリ區別スルヲ得サルコトハ  
 明白ニシテ二罪ノ眞ノ區別ハ處爲ニ依ラサルヘカラサルナリ即チ費消ハ財産ノ

目的ニ從テ之ヲ使用スルヲ云フ例ヘハ菓子ハ之ヲ食ヒ金錢ハ之ヲ費シ其他總テ  
 ノ有價物ハ之ヲ賣却スルカ如キ是費消ナリ然ルニ使用ノ目的外ニ滅盡セシムル  
 ハ即チ毀損ナリトス例ヘハ他人ヨリ物件ヲ預リテ之ヲ毀壞シ又ハ家屋ヲ借受ケ  
 テ之ヲ毀壞スルカ如キ即チ是ナリ又人ヨリ委託セラレシ米穀ニテモ之ヲ賣却シ  
 或ハ之ヲ食スルトキハ費消罪ヲ成立セシムルヤ明カナレトモ之ヲ水中ニ投入ス  
 ルカ如キハ毀損罪ヲ構成スヘシ此場合ノ如キ犯人ハ其財産ニヨリ利益スル所秋  
 毫モ之レ無シト云フヘシ尙ホ注意スヘキコトハ毀損罪ハ如何ナル手段ニ依ルヲ  
 問ハサルナリ即チ含密力又ハ物理力等ニ依ルモ可ナリトス是前ニ述ヘタル所ニ  
 シテ諸君ハ記憶セラル、ナラン然レトモ火力或ハ水力ヲ用キテ財産ヲ毀損スル  
 トキハ一種ノ別罪ヲ構成スルモノナリ英國刑法ノ如キハ放火罪ヲ以テ財産毀損  
 罪ノ一種トナセトモ是其當ヲ得タルモノニアラス左レトモ火力ヲ使用スルノミ  
 ヲ以テ直チニ放火罪トナシ又水力ヲ使用スルノミヲ以テ直チニ決水罪ナリト判  
 定スルヲ得サルナリ即チ此二罪ヲ構成センニハ各別ノ手段ト各別ノ物体ナカル  
 可ラス例ヘハ火力ヲ以テ他人所有ノ「マツチ」ヲ燒燬スルカ如キハ是亦一ノ毀損罪

ナリ然レトモ他人ノ家屋ヲ燒燬スルトキハ放火罪ヲ構成スヘシ

第二編 社會ニ對スル罪

第一章 社會ノ靜謐ヲ害スル罪

第一節 兇徒聚衆ノ罪

兇徒聚衆ノ罪ニ二種アリ其第一種ハ即チ刑法第三百三十六條多數集合ノ罪ニシテ其第二種ハ第三百七十七條多數暴動ヲ爲スノ罪是ナリ第三百三十六條ニ曰ク兇徒多數ヲ嘯衆シテ暴動ヲ謀リ官吏ノ説諭ヲ受クルト雖モ仍ホ解散セサル者首魁及教唆者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス附加隨行シタル者ハ二圓以上五圓以下ノ罰金ニ處スト又第三百三十七條ニ曰ク兇徒多數ヲ嘯衆シテ官廳ニ喧鬧シ官吏ニ強迫シ又ハ村市ヲ騷擾シ其他暴動ヲ爲シタル者首魁及教唆者ハ重懲役ニ處ス其嘯衆ニ應シ煽動シテ勢ヲ助ケタル者ハ輕懲役ニ處シ其情輕キ者ハ一等ヲ減ス附加隨行シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處スト  
余輩右二條ノ法文ヲ熟讀スルニ忽チ疑問ノ生スルアリ今先ツ其字義ニ依リ解釋センニ兇徒トハ兇惡ナル奴輩ヲ云ヒ多數トハ即チ人ノ大勢ナルヲ云ヒ嘯衆トハ

社會ニ對スル罪  
社會ノ靜謐ヲ害スル罪  
兇徒聚衆ノ罪

「ウソブキ集ムル」ヲ云ヒ官廳ニ喧鬧シ又ハ村市ヲ騷擾スルトハ嚮々然トシテ官廳又ハ村市ニ喧噪スルヲ云フ斯ノ如ク解釋シ來ラハ右ノ法文ハ小説的タルヲ免レサルノミナラス單ニ一二ノ場合ノミヲ想像シテ法文ニ掲ケラレタルカ故ニ實際ノ適用ニ至テハ實ニ困難ヲ感スルナリ余輩之ヲ熟考スルニ此罪ヲ犯ス主体ハ敢テ險惡ナル奴輩タルヲ要セサルカ如シ其實右二種ノ罪ハ多數相聚合シ其共同力ヲ以テ公安ヲ妨害スヘキ暴行ヲ爲スノ所爲ヲ云ヒ其未タ暴行ヲ實行スルニ至ラサルモ暴行ヲ爲スコトヲ謀議シ官吏ノ命令ニ背キ其集合ヲ解散セサル所爲ヲ以テ第三百三十六條ノ罪ヲ構成スルモノト云ハサルヘカラス而シテ右第二種即チ多數暴動ヲ爲スノ罪ヲ説明スルトキハ自ラ右第一種即チ多數集合ノ罪ノ何ナルヤヲ了解スルヲ得ヘキヲ以テ余ハ之ヲ分論スルノ勞ヲ取ラサルヘシ  
多數暴動ヲ爲スノ罪トハ右ニ述ヘタルカ如ク多數相集リ其共同力ヲ以テ公衆ノ安寧ヲ害スルニ足ルヘキ暴行ヲ爲スノ所爲ヲ云フ今此定義ニ就キ逐次詳述セントス

(第一)此罪ヲ構成センニハ犯人ノ多數ナルヲ要スルカ故ニ唯犯者一人ナルトキハ

此罪ヲ構成スルニ至ラサルナリ而シテ或國ニ於テハ法律ヲ以テ多數トハ何人以上ヲ指スカヲ規定セリ例ヘハ英國刑法ノ如キハ三人以上ヲ以テ多數ナリト規定ス然レトモ斯ノ如ク人ノ數ヲ局限スルハ素ヨリ其當ヲ得タルモノニアラサルヲ以テ場合ノ情況ニ應シ其多數ナルヤ否ヤヲ論セサルヘカラス

(第二)此罪ハ多數相集リ且ツ其共同力ヲ以テ犯スヲ要ス故ニ縱令多數ノ人相集ルモ各人各別ニ暴行ヲ爲スカ如キハ兇徒聚衆ノ罪ニアラサルナリ例ヘハ共ニ相圖ラスシテ多數ノ人各々或家屋ニ放火スル如キ敢テ其共同力ニ出テタルニアラス從テ其各人ハ單ニ放火罪ヲ犯シタルモノナリ英國刑法ヲ論述セル書籍ニ於テ掲ケタル一例ニ或ル祭禮日ニ於テ競馬アルニ當リ多數群集シ赤勝ツヘシ黃勝ツヘシト相叫ヒ遂ニ喧噪ヲ始メタルカ如キ亦此罪ニ問フコトヲ得サルモノトス何トナレハ共同力ナル原素ヲ欠クヲ以テナリ然ルニラツセル氏ハ此罪ニ付キ多少ノ豫謀アルコトヲ必要トシ此場合ヲ以テ豫謀ナキ一例トナセリ此點ヨリ見ルトキハ共同力ノ思想ニ毫モ氏ノ腦裡ニ存在セサリシヤ明カナリ

(第三)公衆ノ安寧ヲ妨害スルトハ何ソヤ社會ノ人民各其分ニ安シ商賈ハ商業ヲ營

ミ學生ハ學術ノ研究ニ電勉シ農人ハ耕耘ヲ事トシ共ニ鼓腹シテ安寧ヲ樂ムニ當リ偶々百姓一揆ノ起ルアラシカ人各々周章狼狽其居ニ安セサルヤ明カナリ事茲ニ至テハ公衆ノ安寧ヲ妨害シタルモノナリ即チ此罪ヲ構成センニハ世上公衆ノ恐怖 (Terror of the People) ヲ生スルニ足ルヘキ暴行ヲ爲スヲ要ス故ニ例ヘハ諸君カ飛鳥山ニ至ル運動會ヲ催シ相撲擊劍以テ喧噪スルモ兇徒聚衆ノ罪ヲ構成スルコトナシ何トナレハ是等ノ所爲ハ世上公衆ノ恐怖ヲ生セシムルモノニアラサレハナリ之ニ反シテ荷々モ公安ヲ害スル以上ハ縱令自己ノ權利ヲ實行スル場合ト雖モ此罪ヲ構成スルニ至ルヘシ例ヘハ一會社ニ於テ現ニ甲者及乙者ナル原告被告間ニ爭訟スル所ノ材木ヲ占有スル場合ニ其正當所有者ナリト主張スル所ノ原告又ハ被告ヘ之ヲ取還セントシ多數ノ人ト共ニ相呼ヒ相叫ンテ之ヲ運搬シ來ルカ如キハ即チ多數集合ノ罪ヲ構成スルモノトス蓋多數相集リ喧噪シテ公安ヲ害スレハナリ

(第四)此罪ヲ構成スル暴行ハ温度電氣力等ヲ用ユルニアラスシテ純然タル腕力ヲ用ユルモノヲ云フ而シテ暴行ニ公ケノ性質ヲ有スルモノト私ノ性質ヲ有スルモノ

ノトノ二種アレトモ苟クモ暴行ナル以上ハ共ニ此罪ヲ構成スヘシ然ルニ或學者  
 ノ論スル所ニ依レハ總テ公ケノ暴行ハ國事犯ナリトセリ例ヘハ百姓一揆ノ縣廳  
 ニ迫ルモノハ如キハ國事犯ナリト云フニアリ然レトモ彼ノ徵兵令ノ規則又ハ租  
 税ノ割合ニ不服ヲ抱キ縣廳ニ迫ルカ如キハ敢テ國憲ヲ紊亂シ邦土ヲ篡僭スルノ  
 意思アルニアラサルヲ以テ是亦兇徒聚衆罪タルニ外ナラス即チ國事犯タラシニ  
 ハ其國ノ主權ヲ奪フノ意思アルヲ要スルナリ然ルニ前ニ掲ケタル多數ノ人カ村  
 木ヲ取戻ス例ノ如キ博奕ノ親方カ其子分ヲ集結シテ喧噪スル如キ又職工其賃銀  
 ノ廉ナルヲ怒リ多數相集リ職工場ヲ毀損スルカ如キハ之ヲ以テ國事犯ナリト云  
 フヲ得ヘカラサレヤ識者ヲ俟ヌスシテ明カナリ之ヲ要スルニ兇徒聚衆罪ト國事  
 犯トハ創然之ヲ區別セサルヘカラス尙ホ終リニ臨ンテ諸君ニ注意ヲ請フノ點ハ  
 兇徒聚衆ノ罪ニ於テハ特別ノ共犯例アルコト是ナリ蓋此罪ハ單ニ一人又ハ二人  
 相謀テ犯スヲ得サルモノニシテ必スヤ二百人若クハ三百人ノ共犯者アルモノナ  
 リ而シテ此場合ニ於テ法律ハ共犯人ヲ處分スル法規ヲ特ニ設定セリ(即チ第三百三  
 十七條)然ルニ之ヲ實際ニ適用スルニ當リテハ大ニ困難ヲ感セサルヲ得ス蓋首魁

アリ子分アリ又附加隨行者アルハ八犬傳ノ如キ小説ニ於テ之ヲ見ルヲ得ヘシト  
 雖モ實際ニ至テハ或ハ首魁ナキコトアルヘシ此場合ニ於テハ右ノ法律ニ從ヒ之  
 ヲ處分スルコトヲ得サルヲ以テ百方盡カシテ其首魁トモ云フヘキモノヲ發見セ  
 サルヲ得サルヘシ而シテ國事犯ノ場合ニ於ケルモ亦首魁及教唆者等ノ區別ヲ爲  
 シ其刑ヲ異ニセリ然ルニ此場合ニ於テモ亦其適用ニ苦マサルヲ得サルコトアリ  
 即チ内亂ヲ隱謀スルニ當リ單ニ二三人ノ之ニ關スルモノアルノミニシテ其首魁  
 ナシトセンニ若シ強テ首魁子分等ノ區別ヲ附シ之ヲ罰セントスルトキハ其結果  
 犯人ノ數ニ不足ヲ生スルニ至ルヘシ  
 兇徒聚衆シ暴動ヲ爲スニ當リテハ或ハ人家ヲ毀損シ又ハ人ヲ毆打スル如キ所爲  
 アルヲ常トスレトモ是等ノ所爲ハ暴動ノ種類ニ過キササルヲ以テ各別ニ之ヲ問フ  
 コトナク單ニ兇徒聚衆ノ罪ヲ問フノミ然レトモ暴動ノ際人ヲ殺シ又ハ家屋船舶  
 倉庫等ヲ燒燬シタルトキハ現ニ手ヲ下シ及ヒ火ヲ放チタル者ヲ死刑ニ處ス首魁  
 及教唆者情ヲ知テ制セサル者亦同刑ニ處セラルヘシ(第三百三十八條)

家宅侵入ノ罪

第二節 家宅侵入ノ罪

日本刑法(各論之部)

人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建造物ニ侵入シ若クハ之ニ在留スルノ罪ヲ云フ前ニ述ヘシ兇徒聚衆ノ罪ハ一般ノ安寧ヲ害シ家宅侵入ノ罪ハ一家ノ安寧ヲ害スルモノナリマイエル氏曰ク人ハ其住居スル場所ニ於テハ自己ノ意思ヲシテ專ラ其効力ヲ有セシメ之ヲ獨有スルノ權アリト乃チ家宅侵入罪ハ此權利ヲ犯スニ依テ成立スルモノニシテ印度及英國刑法ニ於ケルカ如ク財産ニ對スル罪ニアラス換言セハ此罪ハ單ニ他人ノ土地内ニ入ルノ罪ニアラスシテ家宅ノ安寧ヲ犯スノ所爲ナリトス故ニ人ノ住居セサル場所ニ侵入スルモ此罪ヲ構成スルコトナク單ニ財産權ヲ侵害シタルノ點ニ依リ私犯上ノ責任アルニ過キササルノミ我刑法ハ其第七十一條ニ於テ家宅侵入罪ノ定義ヲ揭ケテ曰ク晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建造物ニ入りタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス若シ左ニ記載シタル所爲アル時ハ一等ヲ加フ(一)門戶墻壁ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キテ入りタル時(二)兇器其他犯罪ノ用ニ供ス可キ物品ヲ携帯シテ入りタル時(三)暴行ヲ爲シテ入りタル時(四)二人以上ニテ入りタル時ト又第七十二條ニ曰ク夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル建造物ニ入りタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス若シ前條ニ記載シタル加重スヘキ所爲アル時ハ二等ヲ加フト即チ我刑法上ノ家宅侵入罪ニハ二個ノ種類アリ晝間ニ關スルモノ及夜間ニ關スルモノハ二種是レナリ此二種ノ罪ハ共ニ故ナク他人ノ住居ニ入ルニ依テ成立スルモノトス是ヨリ逐次詳述スル所アルヘシ

(第一)故ナクトハ何ツヤ此字ニ就テハ學者間異說紛々何レヲ以テ正當ノ說トスヘキカ其判決ニ苦マサルヲ得スト雖モ之ヲ一見スルトキハ他人ノ女子ニ通センカ爲メ又ハ他人ノ物件ヲ奪取セシカ爲メ他人ノ家屋ニ入ルカ如キハ又故アリト云フテ可ナルヘキカ然レトモ刑法ハ斯ク小説的ニ解スヘキモノニアラスシテ其眞ノ意義ハ權利ヲシトノ謂ナリ故ニ縱令他人ノ家宅ニ侵入スルモ權利ヲ有スルモノナルトキハ家宅侵入罪ヲ以テ問フヘキモノニアラス即チ准現行犯ヲ逮捕スル場合ニ於テ警察官吏カ其犯人ヲ追跡シテ其家屋又ハ他人ノ家屋ニ闖入スルカ如キ是法律ノ明許スル所ナリ換言スレハ警察官吏ハ此場合ニ於テ侵入ノ權利アルモノナリ又法律ノ明許ナキモ其家ノ主人ノ承諾アレハ亦此罪ヲ構成スルコトナシ例ハ他人ヨリ晚餐ノ饗應ニ招カレ之ニ應シテ其家ニ至



リタル場合ノ如キ其賓客ハ家宅侵入罪ヲ犯シタルモノニアラサルナリ  
 故ナク他人ノ住所ヲ侵入スノ罪ハ當初ヨリ權利ナク又承諾ナキ場合及最初ニ於  
 テ他人ノ住所ニ入ルトキハ其權利アリシカ其後主人ニ於テ其權利ヲ取消シ又  
 ハ其承諾ヲ取消シタルニ拘ハラス尙ホ其住所ニ在留スル場合ヲ包含スルモノ  
 ナリ然ラハ承諾上家宅權ヲ拋棄スルヲ得ル者ハ何人ナリヤト云フニ家宅權ヲ  
 有スル人ナリ故ニ家宅ノ主人ハ無論之ヲ拋棄スルヲ得ヘク又主人ノ不在ナル  
 場合ニ於テハ其妻ナルト留守居ナルトヲ問ハス主人ヨリ代理權ヲ附與セラレ  
 タル者ニ於テ其家宅權ヲ拋棄スルヲ得ヘシ故ニ夫ノ不在ナルヲ寄貨トシ其妻  
 ニ於テ窃ガニ姦夫ヲ誘フテ我家ニ引入レタル場合ノ如キ姦夫ハ家宅侵入罪ヲ  
 以テ問ハルヘキモノニアラス然レトモ婢僕ハ決シテ家宅權ヲ有セサルカ故ニ  
 若シ其愛慕スル所ノ男子又ハ女子ヲ主人ノ家宅ニ誘フ如キ所爲アルトキハ其  
 男又ハ女ハ家宅侵入罪ニ問ハルヘシ又數名ノ人カ下宿屋又ハ通常ノ家屋ヲ借  
 受セル場合ノ如キハ敢テ主人ト云フヘキモノナク共同ニ家宅權ヲ享有スルモ  
 ツナレハ其數名ノ中何人ニテモ之ヲ拋棄スルヲ得ヘシ故ニ他ノ借家人ノ厭惡

引渡  
 引渡  
 引渡

スルニモ拘ハラス隨意ニ他人ヲ招クコトヲ得ヘキナリ即チ同一ノ權利ヲ以テ  
 同一ノ家屋ニ住居スルトキハ其住居人ノ内何人ニテモ其家宅權ヲ拋棄スルヲ  
 得ヘシ而シテ其承諾トハ如何ナル範圍ヲ有スルヤト云ハ、敢テ明認ノミナラ  
 ス黙諾ノ場合ヲモ亦包含スルモノトス即チ法律ニ於テ承諾ヲ推測スル場合ア  
 例ヘハ余ノ知己ニシテ余ノ家屋ニ來ル場合ノ如キハ毫モ罪ノ問フヘキナシ  
 即チ相識ノ者カ來ルトキハ主人ノ明諾ナキモ其黙諾ニ依テ入りタルモノト見  
 做スモノナリ商店ニ至リ或ハ割烹店ニ登ルカ如キ是亦黙諾上ニ出テタルモノ  
 カレハ其者ハ家宅侵入罪ニ問ハル、コトナシ然レトモ其者ニシテ其商店又ハ  
 割烹店ノ主人ニ拒絕セラレタルニ拘ハラス尙ホ在留シテ歸リ去ラサル場合ノ  
 如キハ明言ヲ以テ黙諾ヲ取消シタルモノナルカ故ニ其者ハ有罪タルヲ免レス  
 又一面識ナキモノト雖モ他人ノ門ヲ通過シテ其玄関ニ至ルモ家宅侵入罪トハ  
 ナラサルヘシ何トナレハ門ヨリ玄関ニ至ルマテハ主人ニ於テ黙諾ヲ附與シタ  
 ルモノト推測スルヲ以テナリ斯ノ如ク黙諾アリト見做サル、場合ニ於テモ之  
 ヲ取消シ得ルコト素ヨリ論ヲ俟ヌス故ニ紙屑買入ルヘカラストノ張札アルニ

モ拘ハラズ敢テ其家宅ニ立入ルトキハ有罪タルヲ免レス何トナレハ其家ノ主人ハ明カニ反對ノ意思ヲ表彰シテ黙諾ヲ取消シタルヲ以テナリ又或家宅ノ主人カ惡意ノ者ノ外立入ルヘカラスト公示スルトキハ惡意外ノ人ハ之ニ侵入スルコトヲ得ス

(第二)法律ニ於テ家宅侵入罪ヲ罰スル所以ノモノハ家宅ノ所有權ヲ保護スルニアラサルヲ以テ貸家主ヨリ借家主ニ對シテ此罪ヲ犯スヲ得ヘキナリ何トナレハ此罪ハ家宅ノ安寧ヲ害スル罪ニシテ而シテ借家契約繼續中ハ其家宅權ハ借主ニ存在スレハナリ又邸宅ナル文字ニ關シ學者中ニ異論ナキニアラス例ヘハ一以下宿屋ニ於テ甲者ハ一ノ室ヲ占メ乙者ハ他ノ室ヲ占ムルトセンニ甲者カ乙者ノ室ニ侵入スルトキハ家宅侵入罪トナルヘシ又旅人宿ノ如キハ其各室ヲ占ムル者ニ各家宅權アルヲ以テ之ヲ犯スモノハ亦右ノ罪ニ問ハルモノトス家宅侵入罪一般ノ性質ハ右ニ述ヘタルカ如シ而シテ此罪ヲ三個ニ分チ晝間ニ係ルモノ夜間ニ係ルモノ及皇居禁苑離宮行在所及皇陵内ニ入りタルモノトス皇居禁苑等ニ侵入スルノ罪ニ於テハ通常人ノ住居ヲ侵ス場合ノ如ク家宅權拋

棄ノ行ハルコトナシ何トナレハ禁苑山陵等ノ家宅權ヲ拋棄シテ通常人ヲ入ラシムルコトハ到底之レ有ルヘカラサルコトナレハナリ又右ノ如ク晝夜ノ區別ニ依リ家宅侵入罪ノ刑罰ニ輕重ノ差違ヲ生スルト雖モ晝トハ何時マテヲ云フヤ又夜トハ何時マテヲ云フヤ之ヲ區別スルハ實ニ困難ナラサルヲ得ス到底晝ヲ緋テ其犯罪ノ時間ノ晝夜ヲ分ツノ外ナカルヘシ此點ニ關シテ英國刑法ハ午後九時ヨリ翌午前十時マテヲ以テ夜間トセル然レトモ此規定モ亦感服スヘキモノニアラサルナリ  
前ニ家宅侵入罪ノ定義ヲ下スニ當リ刑法第七十一條ノ法文ヲ掲ゲタリシカ同條ニ於テ踰越損壞兇器携帶暴行等ノ情狀アルトキハ一等ヲ加重スト規定セリ然ルニ右ノ法文ヲ一見スルトキハ此四箇ノ條件ハ一個毎ニ一等ヲ加フルモノナルヤ否ヲ疑ハシムルモノアルニ似タリ然レトモ汎論ニ於テ講述シタルカ如ク特別ノ加重ハ單ニ本刑ヲ加重スルノミニアラスシテ特別ナル一種ノ犯罪ヲ爲スヘキモノナルカ故ニ此等二個若シハ三個ノ條件同時ニ存在スルトキハ之ヲ二個若シハ三個ノ罪ト見做シ宜シク之ヲ數罪俱發ノ例ニ照スヘク決シテ

一個毎ニ一等ヲ加フヘキモノニアラサルナリ

### 第二章 社會ノ危難ヲ釀成スル罪

#### 第一節 放火失火ノ罪

凡ソ犯罪ニシテ人ニ危險ノ思ヲ抱カシメ其身ヲ容ル、所ヲ失ハシムルハ放火罪ヲ以テ第一トス然ルニ我邦ノ刑法ニ於テハ放火罪ヲ財産ニ對スル罪トナシ贓物ニ關スル罪ト其列ヲ同フセシメ一ハ之ヲ死刑ニ處シ一ハ之ヲ重禁錮ニ處セリ然レトモ放火罪ナルモノハ決シテ財産ニ對スル罪ニアラサルカ故ニ此點ニ付テハ我刑法ニ於ケル罪ノ類別其當ヲ失スルモノト云ハサルヘカラス古昔ノ學者及歐洲古代ノ刑法ハ放火罪ヲ以テ財産ニ對スル罪ノ一種トナシ又英國ノ或法律家ハ之ヲ「クリミナルミステイフ」(Criminal Mischief)ノ一種トナシタレトモ共ニ其當ヲ得タルモノニアラサルナリ「クリミナルミステイフ」ト云フ犯罪ハ如何ナルモノヲ指スヤト云フニ徒ラニ他人ノ犬又ハ馬等ヲ殺害スルカ如キ罪ヲ云フニ在リサテ放火罪ナルモノハ他人ノ家屋ニ火ヲ放テ之ヲ燒燬スルモノナレハ他人ノ財産ヲ損害スルヤ疑フヘカラスト雖モ之ヲ財産ニ對スル罪トナスハ往時ノ社會ニ行フ

ヘク現今社會ニ行フヘカラサルナリ蓋シ現今ハ放火失火ノ所爲ヲ以テ社會公衆ニ關スル罪トナシ其燒燬シタル家屋ハ自己ノ所有タルト他人ノ所有タルトヲ問ハス其罪ヲ論スルモノトセリ然ルニ我刑法ハ舊主義ニ從ヒ之ヲ財産ニ對スル犯罪中ニ列叙シタリト雖モ其性質ヨリシテ第八十六條及第八十七條ニ記シタル自首輕減ノ例ヲ用ユルノ意ニアラサルヘシ  
借放火罪トハ如何ナルモノナリヤト云フニ火ト稱スル自然力ヲ以テ人ノ家屋ヲ燒燬スルノ罪ナリ即チ此罪ヲ構成センニハ火力ヲ用キテ家屋ヲ燒クコトヲ要ス若シ火力ヨリモ他ノモノヲ用ユルトキハ別種ノ罪トナルモ放火罪成立スルコトナシ然レトモ火藥其他激發スヘキ物品又ハ煤氣並蒸氣罐ノ破裂ヲ以テ人ノ家屋ヲ燒クモノ亦放火罪ニ准セラレ、モノトス今我刑法第四百二條ノ法文ニ基キ此罪ニ就テ詳述セシトス  
刑法第四百三條ニ曰ク火ヲ放テ人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處スト則チ此條ノ要點ハ火ヲ放ツコト人ノ住居シタル家屋タルコト及燒燬スルコトノ三者ナリ

(第二)火ヲ放ツトハ何ソヤ此語ニ就テハ種々ノ解釋アリト雖モ要スルニ家屋ニ火ノ附ガ様ニナスヲ云フ

(第三)人ノ住居シタル家屋ナル字ニ就キ亦學者間ニ異論ナキニアラサレトモ放火罪ヲ構成セシニハ現ニ人カ住居セサルヘカラス又其物體ハ家屋ナラサルヘカラス故ニ人ノ住居セサル家屋ヲ燒燬スルモ第四百二條ノ問フ所ニアラサルナリ右ニ述ヘタルカ如ク第四百二條ノ放火罪ノ物體タル家屋ハ現ニ人ノ住居スルモノナラサルヘカラス故ニ唯住居スヘキ家屋ナリト云フノ點ヲ以テ此罪ニ問フヲ得サルナリ即チ家賃ノ不廉ナル明長屋ノ如キハ人ノ住居スヘキモノナルヤ更ニ疑フヘカラスト雖モ現ニ住居セルモノニアラサルヲ以テ之ヲ燒燬スルモ第四百二條ヲ以テ論スヘカラス

(第三)燒燬トハ單ニ火ヲ放ツモ未タ家屋ノ燒盡セサル以上ハ此語ヲ用キルヲ得サルヘシ英國ノ法律ニ依レハ火力ニ依リ放火セラレタル物體カ化學上ノ作用(Chemical Decomposition)ヲ始メタル時ヲ以テ燒燬トセリ佛國法モ亦同シ蓋シ化學上ノ作用トハ物體ノ原素カ火ノ爲メニ分離セラレ漸次消滅ニ歸スルヲ云フ之ニ反シ

テ物理的ノ作用ニ於テハ物體ヲ如何ニ破碎スルモ決シテ滅盡スルコトナク尙ホ殘存スルモノトス英國及佛國ノ法律既ニ右ノ如シ故ニ火ヲ放ダレタル物體カ化學的ノ分離ヲ始メタルニ於テハ既遂トセラルヘシ然レトモ我刑法ニ於テハ英佛兩國ノ法律ト異ナリ放火セラレタル物體カ化學的ノ作用ヲ始メ遂ニ滅盡ニ歸シタルトキヲ以テ燒燬トス是獨逸ノ法律ヲ模倣シタルモノナランカ而シテ家屋ノ全ク燒燬シタルト否トハ何ニヨリテ區別スヘキヤ例ヘハ煉瓦石造ノ家屋ノ如キハ内部ノ構造ハ全ク燒盡スルモ尙ホ煉瓦ノ組立ハ依然トシテ殘存スルヲ以テ此場合ハ燒燬ト云フヲ得サルヤ或ハ木造ノ家屋ヲ燒キ柱一本ニテモ殘存スルトキハ未遂犯ナルヤト云フニ苟クモ放火セラレタル家屋カ家屋タルノ形狀ヲ失スルトキハ既遂ナリトスヘシ例ヘハ僅カニ一本ノ柱存スルアルモ之ノミヲ以テ家屋ト稱スルヲ得サレハ既遂犯タラサルヲ得ス此點ニ就テハ時トシテハ半燒四分ノ三燒又ハ十分ノ九燒等アルヘシト雖モ要スルニ裁判官ノ認定ニ一任スルヨリ外ナカルヘシ

(第四)放火罪ニ於テハ如何ナル意思ヲ必要トスルヤ火ヲ放ツノ意思アレハ燒燬ノ

意ナキモ可ナルヤ又ハ家屋ヲ燒盡スルノ意アルヲ要スルヤト云フニ唯火ヲ放ツ  
ノ意アルノミヲ以テ足レリトセス全ク家屋ヲ燒盡スルノ意思アルヲ要スルモノ  
トス則チ故意ヲ以テ火ヲ放チ其結果トシテ之ヲ燒燬スヘキコトヲ知ルトキハ即  
チ燒燬ノ故意アリトナサ、ルヲ得ス

又我刑法ニ於テハ人ノ住居シタル家屋ニ放火シタルトキト人ノ住居セサル家屋  
ニ放火シタルトキトハ犯人ノ生命ニ關スルコトナルヲ以テ人ノ住居シタルト住  
居セサルトノ區別ニ就テ法學者中隨分異論アリ例ヘハ春木座ノ如キ演劇場ニ於  
テ見物人ノ多數カ群集スルニ當リ之ニ放火スル者アルトキハ刑法第四百二條ニ  
問フヘキモノナルヤト云フニ元來演劇場ノ如キハ縱令現ニ人ノ集リ居ルモノノ  
住居シタル家屋ト云フヲ得ス何トナレハ諸君ニシテ春木座ニ於テ演劇ヲ見ラル  
コトアルモ諸君ハ春木座ニ住居シタルトハ云フヲ得サレハナリ然ラハ斯ノ如  
キ場合ニ於テ見物人ノ數千カ燒死スルコトアルモ刑法第四百三條ニ照シ人ノ住居  
セサル家屋ニ放火シタル者トシテ其犯人ヲ無期徒刑ニ處スルニ止マルヤト云フ  
ニ既ニ春木座ノ如キ大廈高樓ヲ燒燬シ剝ヘ幾千ノ人ヲ燒死セシメタルニ拘ハラ

ス之ヲ四百三條ノ刑罰ニ處スルノミニテハ到底人ノ満足セサル所ナルヘシ故ニ  
予ハ此場合ヲ以テ謀殺罪ト人ノ住居セサル家屋ニ放火シタル罪トノ數罪俱發ト  
ナサ、ルヘカテス何トナレハ其犯人ハ劇場中ニ多數アリ之ニ放火スレハ其人  
必ズ燒死スルナラント云フ未來ノ結果ヲ思慮シテ放火シタルモノナレハナリ或  
學者ノ曰ク住居スルトハ現在人ノ存留スル場合ヲモ含蓄スルヲ以テ春木座ノ如  
キモ亦人ノ住居スル家屋ナリト云ハサルヘカラスト實ニ牽強ノ甚ダシキ探ルニ  
足ラサル説ト云ハサルヲ得サルナリ  
右ニ述ヘタル理由ヲ推シテ考フレハ人ノ住居シタル家屋ニ放火スルニ當リ現ニ  
其家屋中ニ住居人アリ其者ハ火災ノ爲メニ燒死スルナラント知リツ、放火スル  
トキハ則チ人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬シタル罪ト謀殺罪トノ數罪俱發スラサル  
ヲ得ス蓋シ斯クセサレハ刑ニ甚ダ不權衡ヲ生スレハナリ例ヘハ火ヲ放テ廢屋及  
ヒ柴草等ヲ貯フル屋舎ヲ燒燬シタル場合ニ於テ其屋舎中ニ人ノ熟睡シツ、アル  
コトヲ知リ之ニ放火シ其結果其者ヲ燒死セシメタルトキハ單ニ重懲役ニ止マル  
ノ不權衡ヲ生スルニ至ルヘシ其他第四百六條火ヲ放テ山林ノ竹木田野ノ穀麥又

ハ露積シタル柴草等ヲ燒燬シタル場合ニ於テモ犯人カ其竹木中ニ人ノ睡眠シツ、アルコトヲ知リ放火シタルトキハ是亦謀殺罪ト放火罪トノ數罪俱發ナリ若シ之ヲ然ラストセハ茲ニ亦大ナル不權衡ヲ生スルヲ如何セン例ハ第四百七條火ヲ放テ己ノ家屋ヲ燒燬シタル場合ニ於テ其犯人カ己ノ厭惡スル人ヲ殺害セントシ之ヲ己ノ家ニ誘ヒタル後放火シテ之ヲ殺シタルモ單ニ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ過キササルニ至ルヘシ豈斯ノ如キ理アラシヤ之ヲ要スルニ犯人カ放火セントスル物体中ニ人ノ存留スルコトヲ知リ從テ之ニ放火スルトキハ其燒死スルコトヲ知リツ、之ニ放火シタルモノナレハ放火罪ト謀殺罪ノ數罪俱發トナサ、ルヲ得ズ

刑法第四百九條ニ曰ク火ヲ失シテ人ノ家屋財産ヲ燒燬シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處スト則チ本條ノ場合ハ過失ニ依テ他人ノ家屋財産ヲ燒燬シタル云フ然ルニ家屋財産トハ如何ナル範圍マテヲ包含スルヤト云ハ、財産トハ動産及不動産ヲ包含スレトモ他人ニ屬スル一葉ノ紙片ヲ取り之ヲ燒燬スルカ如キハ本條ノ問フ所ニアラサルナリ要スルニ本條ノ所謂家屋財産トハ刑法第四百

二條ヨリ同第四百七條ニ於テ記載セラレタル家屋財産ノミヲ指シ總テノ財産ヲ指スニ於テサルナリ

我刑法ニ於ケル放火罪ハ其物體ニ依リ刑ニ輕重ノ區別アルコト左ノ如シ

- (一) 火ヲ放テ人ノ住居シタル家屋及ヒ人ヲ乘載シタル船舶、瀛車ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス(第四百二條及第四百五條第一項)
- (二) 人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ燒燬シタル者ハ無期徒刑ニ處ス(第四百三條)
- (三) 廢屋及柴草肥料ヲ貯フル屋舎ヲ燒燬シタル者ハ重懲役ニ處ス(第四百四條)
- (四) 山林竹木田野ノ穀麥又ハ露積シタル柴草竹木其他ノ物件ヲ燒燬シタル者ハ輕懲役ニ處ス(第四百六條)
- (五) 自己ノ家屋ヲ燒燬シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス(第四百七條)
- (六) 火ヲ失シテ人ノ家屋財産ヲ燒燬シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス(第四百九條)

失火ノ罪ヲ除キ總テ有意ノ放火罪ハ輕罪ノ刑ニ處スル場合ト雖モ六月以上二年以下ノ監視ニ附ス(第四百八條)

決水ノ罪

第二節 決水ノ罪

決水ノ罪ハ我刑法第四百十一條以下第四百十四條ニ至ル四條ニ於テ規定セラレ、モノニシテ其放火罪ト異ナル所ハ放火罪ノ手段ハ火ト云フ自然力ヲ假リテ犯スモノナレトモ決水罪ノ手段ハ水ト云フ自然力ヲ假リテ人ノ家屋等ヲ漂失セシムルニアリ而シテ我刑法ニ依レハ此罪ヲ犯サンニハ堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞セサルヘカラス又人ノ家屋等ヲ漂失セサルヘカラス然ルニ堤防ヲ決潰セス又水閘ヲ毀壞セサルモ尙ホ人ノ家屋等ヲ漂失セシムルヲ得ルコトアリ例ヘハ既ニ開キアル水閘ヲ閉チ水量ヲ増加シテ水閘ノ内部ニ存スル家屋ヲ漂失スルカ如キ是レナリ故ニ此點ハ我刑法ノ脱漏ト云ハサルヲ得ス又煉化石造ノ家屋ノ如キハ漂失セシムルコト能ハサルヘシ  
決水ノ罪ヲ犯サンニハ如何ナル犯意ヲ要スルヤト云フニ放火罪ノ場合ト同シク過失ニ係ルトキハ失火ノ例ニ照シテ處斷シ其他ノ場合ニ於テハ故意アルヲ以テ

是レリトス故ニ家屋ヲ漂失シ田園ヲ荒廢スル等ノ危害ヲ發生スヘキコトヲ知り堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞シタルトキハ充分ナル故意ノ存在スルモノニシテ其結果ニ依リ既遂又ハ未遂ヲ以テ論セサルヘカラス又堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞スルニ當リ人家漂失シ其住居人ノ溺死スルコトヲ知ルトキハ則チ謀殺罪ト決水罪トガ數罪俱發トナルヘシ  
又決水罪ニシテ少シク異様ナル種類ノ者アリ第四百十三條ノ場合はナリ同條ニ曰ク他人ノ便益ヲ損シ又ハ自己ノ便益ヲ圖ル爲メ堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シ其他水利ヲ妨害シタル者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加スト即チ此條ノ罪ヲ犯サンニハ他人ノ便益ヲ損スルノ意思又ハ自己ノ便益ヲ圖ルノ意思アルヲ要シ徒ラニ犯シタル場合ヲ包含セサルナリ換言スレハ別段ノ意思アルヲ要スルモノトス  
決水罪モ亦放火罪ト同シク其物体ニ依リ刑罰ニ輕重ノ差ヲ生スルコト左ノ如シ  
(一)人ノ住居シタル家屋ヲ漂失セシメタル者ハ無期徒刑ニ處ス(第四百十一條)  
(二)人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ漂失セシメタル者ハ重懲役ニ處ス(第四

百十一條

(三)田園礦坑牧場等ヲ荒廢シタル者ハ輕懲役ニ處ス(第四百十二條)

(四)他人ノ便益ヲ損シ又ハ自己ノ便益ヲ圖ル爲メ堤防ヲ決潰シ水利ヲ妨害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(第四百十三條)

船舶ヲ覆没スル罪

第三節 船舶ヲ覆没スル罪

船舶ヲ覆没スルノ罪ハ刑法第四百十五條ニ規定セラレ財産ニ對スル罪ノ一種トナスト雖モ是亦其當ヲ得タルモノニアラス當然社會ニ對スル罪ノ内ニ含蓄スヘキモノナリ而シテ同條ニ於テ衝突其他ノ所爲ヲ以テ人ヲ乘載シタル船舶ヲ覆没シタル者ハ死刑ニ處ストアルヲ以テ右等ノ所爲ニ依リ單ニ船舶ニ損害ヲ與ヘタルニアルトキハ同條ヲ適用スルコト能ハサルヘシ而シテ此場合ニ於テモ亦困難ナル問題ヲ生スルコトアリ例ヘハ衝突トハ此罪ヲ犯サントスル船ヨリ他ノ船ヲ衝キ之ヲ覆スヲ云フハ無論ナレトモ一ノ船カ此罪ヲ犯サントシテ他ノ船ヲ衝キタルニ却テ其加害船カ覆没シタルトキハ如何其乘客又ハ荷主ノ損害實ニ鮮少ナ

社會ノ健康ヲ害スル罪

第四節 社會ノ健康ヲ害スル罪

ラスト雖モ此點ニ就テハ我刑法ニ明文アルヲ見ス又第四百十五條但書ニ曰ク船中死亡ナキ時ハ無期徒刑ニ處スト是果シテ何等ノ意ナルヤ余ハ其了解ニ苦マサルヲ得サルナリ抑在船舶覆没ノ罪ハ放火ノ罪ト同シク苟クモ船中ニ人ノ居ルコトヲ知り之ヲ覆没セハ謀殺罪ナルモノニシテ若シ乘客ノ助カリタルトキハ謀殺ノ未遂犯トシ總則ニ照シテ一等若クハ二等ヲ減スルコトヲ得ヘキニ我刑法ハ但書ヲ以テ之ヲ無期徒刑ニ處スト定メタリ船舶ヲ覆没スル罪ト共ニ論スヘキハ第六十九條ノ場合ノ瀛車ノ往來ヲ妨害スル爲メ鐵道及標識ヲ損壞シ其他危險ナル障礙ヲ爲シ又ハ船舶ノ往來ヲ妨害スル爲メ燈臺浮標等ヲ損壞シ又ハ詐僞ノ標識ヲ點示シ因テ瀛車ヲ顛覆シ又ハ船舶ヲ覆没シタルトキハ無期徒刑ニ處シ人ヲ死ニ致シタルトキハ死刑ニ處スト云フコトナリ而シテ此場合ニ於テ人ヲ死セシムルノ故意アルヲ要セス過失ニ出テタル場合ヲモ包含スルカ故ニ刑ノ權衡實ニ奇怪タルヲ免レサルナリ



社會ノ健康トハ社會ヲ組織スル各人ノ健康ヲ云フモノニシテ此犯罪ヨリ生スルノ害ハ各人各自ニ波及スルモノナリ此罪凡ソ六種アリ左ニ其梗概ヲ示サム

(第二)阿片ニ關スル罪ハ阿片烟及阿片烟吸食ノ器具ヲ製造シ或ハ輸入シ或ハ販賣シ或ハ受寄シ若クハ阿片烟ヲ吸食シ又ハ吸食スル爲メ房室ヲ供給シ以テ利ヲ圖リ又ハ税關官吏情ヲ知リテ阿片烟及其吸食器ヲ輸入セシメタル等ノ所爲ヨリ構成ス而シテ其刑罰ハ阿片烟ヲ輸入製造販賣シタル者ハ有期徒刑(第二百三十七條)其吸食器ヲ輸入及製造販賣シタル者ハ輕懲役(第二百三十八條)税關官吏情ヲ知リテ阿片烟及其器具ヲ輸入セシメタル者ハ前二條ノ刑ニ照シ各一等ヲ加ヘラル(第二百三十九條)ハヲ誘引シテ阿片烟ヲ吸食セシメ又ハ房室ヲ給與シタル者ハ輕懲役(第二百四十條)之ヲ吸食シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮(第二百四十一條)所持又ハ受寄シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮(第二百四十二條)ニ處セラル而シテ此等ノ物件ハ禁制物トシテ沒收スト雖モ醫師藥舖等中ヲ如キ法律上特許セラレタル者ハ此限ニアラズ

(第二)飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪 ハ第二百四十三條乃至第二百四十五條ノ規定ス

此ル所ニシテ人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ用ユルコト能ハサルニ至ラシク又ハ人ノ健康ヲ害スヘキ物品ヲ用キテ水質ヲ變シ或ハ腐敗セシメタル等ノ所爲ヲ云フ故ニ其水ハ常ニ人ノ慣用ヒル所ノモノナラサルヘカラス一椀ノ水若クハ常ニ人ノ慣用セサル流水等ヲ汚穢變質腐敗セシムルモ此罪ヲ構成セサルハ勿論ナルヘシ而シテ此罪ハ凡テ其結果ニ對スル故意ノ有無ヲ問ハス故ニ故意ナクシテ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタルモノト雖モ共ニ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

(第三)流行病豫防規則ニ關スル罪 ハ傳染病豫防ノ爲メ設ケタル規則ニ違背スルノ所爲ヲ云フ(第二百四十六條乃至第二百四十九條)但此等ノ罪ハ該病流行ノ際ニ發覺シタルモノニアラサレハ之ヲ罰スルコトヲ得ス其詳細ハ已ニ汎論ニ於テ説述セリ

(第四)危害品製造ノ罪 ハ官許ヲ得スシテ危害ヲ生スヘキ物品又ハ健康ヲ害スヘキ物品ノ製造所ヲ創設シ又ハ官許ヲ得ルモ危害ヲ豫防シ健康ヲ保護スル爲メニ設ケタル規則ニ違背スルノ所爲ヲ云フ假ハハ猥リニ火藥製造所ヲ設立シ若

クハ毒煙等ヲ噴散スル製作所等ヲ置キ因テ以テ他人ノ身体ヲ害シタルモノハ  
 過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス(第二百五十條乃至第二百五十二條)  
 (第五)健康ヲ害スヘキ飲食物及藥劑ヲ販賣スル罪 ハ有害ノ物品ヲ飲食物ニ混合  
 シテ販賣シ若クハ規則ニ背キ毒藥劇藥等ヲ販賣スル所爲ヨリ構成ス因テ以テ  
 人ヲ疾病又ハ死ニ致シタルモノハ其刑罰前項ト同シ

(第六)私ニ醫業ヲナスノ罪 ハ官許ヲ得スシテ醫業ヲ營ムノ所爲ヲ云フ若シ治療  
 方法ヲ誤リ因テ人ヲ死傷ニ致シタルトキ其罰又前項ニ同シ(第二百五十六條  
 及第二百五十七條)但此犯罪ハ所謂慣習ニヨリテ始メテ其罪ヲ構成スヘキモノ  
 ナレハ急病患者等ノ場合ニ於テ一時纏綿ノ爲メニ治術ヲ施スモ此罪ヲ構成ス  
 ヘキモノニアラス他ナリ此等ハ醫術ヲ業トナシタルモノト云フ能ハサレハナ  
 り

第五節 往來通信ヲ妨害スル罪

往來通信ヲ妨害スル罪トハ文字自身ニ其意義明ニシテ敢テ解明スルヲ用キスト  
 雖モ我立法官ハ之ヲ起案ニ際シ多少紛亂セシモノ、如シ見ヨ現行刑法ノ規定ハ

往來通信  
 ヲ妨害ス  
 ル罪

之カ適用上頗ル奇異ナル結果ヲ生スヘシ今先ツ其要領ノ一二ヲ示サン

(第一) 法文ハ精密ナランコトヲ欲シ其必要ヲ見サル場合ニモ尙特ニ犯罪ノ手段  
 タルヘキモノヲ明示シタルカ故ニ却テ爲メニ多少ノ欠點ヲ來スニ至レリ即第百  
 六十二條ニ往來ヲ妨害スルノ手段ヲ明示シ道路橋梁等ヲ損壞シト云ヘルカ故ニ  
 其手段ヲ異ニシ巨大ノ木石若クハ土砂ヲ堆積シテ道路ヲ殞塞シ以テ往來ヲ妨害  
 シタル者ハ之ヲ罰スルコト能ハサル感ナキニアラズ又第百六十四條モ之ト同シ  
 ヲ其手段ハ電信ノ柱木器械等ヲ損壞シトアルヲ以テ之ヲ損壞セスシテ金屬其他  
 誘導性アル物質ヲ以テ電信ヲ他ノ方向ニ導ク等ノ場合ヲ罰スルヲ得ス又第百六  
 十五條ハ詐欺ノ標識ヲ指示シタル場合ヲ包含セシムルニ由ナカラシ

(第二) 立法官ニ斯ク犯罪ノ手段ヲ特定シ置キ而シテ其手段タル所爲ニシテ故意  
 アル以上ハ交通妨害ノ結果ニ對シテハ故意ノ有無ヲ問ハスシテ之ヲ罰セントセ  
 必カ故ニ法律ノ保護スヘキ主眼タル所爲ノ結果ヲ罰スルニハ故意ニ出ルト過失  
 ニ出ルトヲ區別セス同一ノ刑ニ處セサルヘカラサルノ不權衡ヲ生セリ即第百六  
 十二條ハ道路橋梁等ヲ損壞スルノ所爲ニシテ苟モ故意アル以上ハ往來ヲ妨害ス

ルノ故意アルト否トヲ問ハスシテ只其結果ノ生シタル時ニ於テ此罪ヲ構成シ第百六十四條モ亦電氣ヲ不通ニ致スノ結果ニ付テハ故意ノ有無ヲ問ハス更ニ進テ第百六十九條ニ至リテハ故意ナキモ尙無期徒刑若クハ死刑ノ重刑ヲ以テ處斷スヘキ重罪ト定メダリ豈其罪ニ比シテ不權衡ト云ハサルヘケンヤ

(第三) 立法官ハ斯クノ如ク往來妨害ノ結果ニ付テハ故意ノ有無ヲ問ハサルモノト定メ乍ラ第七十條ニ於テハ此罪ハ輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル場合ト雖モ仍ホ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷スヘキコトヲ定メタレトモ故意ナキ犯罪即チ過失罪ニ未遂犯ナキハ三歳ノ童子ト雖モ既ニ經驗スル所タルヘキヲ以テ此罪ニ就テモ亦未遂犯罪ヲ罰スルハ單ニ故意アル場合ニ限ラサルヲ得ス例ヘハ往來ヲ妨害スルノ意ヲ以テ道路ヲ損壞シテ現ニ往來ヲ妨害シタルトキハ其未遂犯ヲ問フコトヲ得ヘキモ道路ヲ損壞シタルカ爲メ豫メ期セサル所ノ往來妨害ノ結果ヲ生シタルトキハ罰スヘキ未遂犯ナカルヘシ第百六十四條及第百六十九條ノ場合ニ於テモ亦同一理ニ歸スヘシト雖モ第百六十四條第二項ハ故意ナキ場合ニ就テハ結果ノ不通ニ至ラサルモノヲ罰シ故意アル場合ニ就テハ未遂犯ノ特例ヲ

設ケタルモノト解釋セサルヲ得ス

以上講述シタル所ハ往來通信ヲ妨害スル罪ニ關スル現行法ノ性質ニシテ他ノ文明諸邦ニ於テ其比ヲ見サル所ノ一大奇觀ナリ然レトモ此等異常ノ要點ニシテ已ニ明カナルトキハ此罪ニ就テハ特ニ詳述ヲ要スルモノナキヲ以テ左ニ現行法律ノ規定ヲ示サズ

(一) 道路橋梁河溝港埠ヲ損壞シ因テ往來ヲ妨害シ又ハ偽計威力ヲ以テ郵便ヲ妨害シ若クハ阻止シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(第百六十二條及第百六十三條)往來ヲ妨害シ因テ人ヲ殺傷シタルトキハ歐打創傷ノ例ニ照シ重キニ從フ(第百六十八條)

(二) 電信ノ器械柱木ヲ損壞シ又ハ條線ヲ切斷シ電氣ヲ不通ニ致シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其電信ヲ妨害スルモ不通ニ至ラサルモノハ一等ヲ減ス(第百六十四條)

(三) 往來ヲ妨害スル爲メ鐵道及其標識ヲ損壞シ其他危險ナル障礙ヲナシ又ハ航海ノ安寧ヲ保護スル標識ヲ損壞シ若クハ詐僞ノ標識ヲ點示シタルモノハ重

懲役ニ處ス(第六十五條及第六十六條)仍テ瀛車ヲ顛覆シ又ハ船舶ヲ覆没シタル時ハ無期徒刑ニ處シ人ヲ死ニ致シタルトキハ死刑ニ處ス(第六十九條)

(四)第六十二條乃至第六十六條ノ罪ハ其事務ニ關スル人自ラ犯シタル時ハ各本刑ニ一等ヲ加フ(第六十七條)

### 第三章 商業及農工ノ業ヲ妨害スル罪

抑モ商業及農工ノ業ヲ妨害スル者ヲ罰スル所以ハ至ク經濟上ノ理由ニ出テタルモノニシテ商工業ノ自由ヲ保護セントスルニアリ而シテ此犯罪ヲ構成スルノ手段ハ偽計若クハ威力ノ二者トス但シ物品ノ價格ヲ昂低スルノ罪ハ虛偽ノ風説ヲ流布スルニ依テ構成セラル、モノナリ

此犯罪ヲ構成センニハ一般ニ故意アルヲ以テ充分ナリトスレトモ第二百七十條及第二百七十一條ノ場合ニ於テハ雇賃ヲ増減シ又ハ農工業ノ景況ヲ變更セシムルノ意思アルヲ要ス而シテ此犯罪ニ依リ損害ヲ蒙ル所ノ物體タルモノハ賣買ノ自由、糶賣入札ノ自由及農工業ヲ營ムノ自由ナリトス其物體ノ區別ニ依リ刑罰ニ

商業及農工ノ業ヲ妨害スル罪

輕重アルコト左ノ如シ

(一)衆人ノ需用ニ欠クヘカラサル食物ノ賣買ヲ妨害スル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但シ日用欠クヘカラサル食料品以外ノモノニ係ルトキハ一等ヲ減ス(第二百六十七條)

茲ニ所謂衆人ノ需要ニ欠クヘカラサル食料品トハ如何ナルモノヲ云フ乎我邦ニテハ米麥ノ如キ之ヲ必要ノ食料ト云フテ可ナリ然レドモ米麥若クハ牛肉ヲ食セスシテ尙ホ他ニ生活ノ方法アルヲ見レハ到底右ノ條文ハ曖昧タルヲ免レサルナリ又偽計ヲ以テ食料品ノ賣買ヲ妨害スルトハ如何ナルコトヲ指スマヤ之ヲ想像スルニ由ナシ故ニ實地ノ適用ニ際シテハ稍困難ヲ感セサルヲ得サルヘシ

(二)農工ノ業又ハ糶賣若クハ入札ヲ妨害スルモノハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(第二百六十八條、第二百六十九條)

農工ノ業ヲ妨害スルトハ大工ノ鉋ヲ掛クルヲ妨害スル如キ所爲ヲ云フニア